

## 学生の皆さんへ

高専は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」ことを目的に設置され、48年の歴史があり、当初より大学工学部に負けない教育をしてきました。平成15年度から2年制の専攻科課程ができました。平成16年から独立行政法人国立高専機構法により、高専は「職業に必要な実践的かつ専門的な知識および技術を有する創造的な人材を育成する」、「高等教育」の機関とされ、専攻科まで含め、大学と同じ高等教育機関になっています。平成21年の10月には、例えば仙台電波高専と宮城高専が統合し「仙台高専」という高度化高専が4高専も発足するなど新段階に入りました。本校でも平成18年には、本科の4,5年生と専攻科課程を連続した4年間の「生産システム工学プログラム」が、JABEE（日本技術者教育認定機構）の審査に合格しました。そして、平成18年度からは4,5年の単位の一部に自学自習の要素も重視する学修単位（いわゆる大学単位）が導入されました。平成19年度には高専として「適合している」との認証評価も受けています。しかし、高専の準学士課程（本科）が「5年間の一貫教育」によって、社会に卒業生を送り出す目的を持つことには変わりありません。

高専は、以上のように、日本の教育制度のなかではユニークで、それに加え歴史的な変遷もあり、授業のやりかたが分かりにくいかもしれません。それで本校では、自分の勉強する科目がどのような内容で、教育全体のなかでどのような意味があるのかを理解してもらうために、毎年シラバス（授業要目、授業計画）を作成しています。皆さんが、自学自習したりする際にも、このシラバスを十分に活用してください。以下に、このシラバスを読む上での留意点を示します。

### 【シラバス利用の手引き】

**基本教育目標：**実践的技術者として職業に必要な能力は、技術者としての行動の「倫理的判断能力」、いかなる技術的難題にも挑戦し得る「行動能力」、専門知識の「獲得能力」、そして技術者として大成するには「技術者である前に人間であれ」というように人間形成が重要です。これらのことを踏襲して本校の基本教育目標としています。

**学習教育目標：**皆さんが勉強する教科が鶴岡高専学習・教育目標のどれを達成するものであるかはシラバスの紙面にアルファベットで示してあります。

**授業の概要：**その授業で学ぶ重要なポイントが示されています。また、その授業に関連の深い科目が記載されていますので、予習・復習のさい参考にして下さい。授業の開始に当たって、担当の先生が分かりやすく説明をしますので、それらを大いに参考にして学習して下さい。

**達成目標：**大変重要です。皆さんがこの授業で身につけてほしい学習内容や能力水準が示されています。常にこの達成目標を意識して学習して下さい。

**評価方法と基準：**各授業科目の成績の評価基準と試験問題のレベルが具体的に示されています。皆さんはこの基準にしたがって客観的に評価されます。平成19年度から合格点が低学年と高学年で変わりましたので、詳しくは「単位の修得と進級及び卒業の認定について」をよく見て下さい。

**オフィスアワー(Office Hours)：**この意味は、「その時間帯には、先生は必ず部屋に待機しており、学生諸君からの質問や相談に対してやさしく丁寧に答えます。」ということです。オフィスアワーは授業を担当するすべての先生が設けていますので、特に低学年の学生は、この機会に、先生を気楽に訪問し質問をする習慣をつけて下さい。そして、わからない状態をそのままにしない習慣をつけて下さい。

平成23年4月  
教務委員会

# 目 次

学生の皆さんへ	-----	巻頭
基本教育目標	-----	1
養成する人材像	-----	1
学習・教育目標と具体的な到達目標	-----	1
単位の修得と進級及び卒業の認定について	-----	3
I. 科目の履修と単位の修得について	-----	3
II. 進級及び卒業の認定について	-----	4
総合科学科の教育	-----	8
機械工学科の教育	-----	9
電気電子工学科の教育	-----	10
制御情報工学科の教育	-----	11
物質工学科の教育	-----	12
専攻科の概要及び修了要件等について	-----	13
本校の J A B E E 教育プログラムの履修について	-----	15

## 基本教育目標

- 1) 豊かな人間性と広い視野を持ち、社会人としての倫理を身につける
- 2) あらゆる学習を通じて思考力を鍛え、創造性に富んだ技術者になる
- 3) 専門分野の基礎を良く理解し、実際の問題に応用できる能力を培う
- 4) 意思伝達及び相互理解のため、十分なコミュニケーション力を養う

## 養成する人材像

多様な価値観と広い視野を持ち、人間性と創造性に富み、基礎工学及び専門知識・技術を有機的に統合したものづくりやシステムづくりに強い実践的技術者。

## 学習・教育目標と具体的な到達目標

◎準学士課程(5年制の本科課程)

### (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。

A-1 工学の基礎となる理論を理解し、実践を通して工学のセンスを身につける。(校訓「理魂工才」)

A-2 自ら学び自ら思考しながら、幅広い分野の知識を身につける。(校訓「自学自習」)

### (B) 地球的視野と技術者倫理を身につける。

B-1 日本と世界との関わりあいについて関心を持ち、広い視野でものごとを考えることができる。

B-2 技術と人間社会や地球環境の関係について理解し、技術者が持つべき倫理観の必要性を認識する。

### (C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。

C-1 工学の基礎となる、数学や自然科学の基礎知識を身につける。

C-2 基礎的な実験や実習を通してその技術を実際的に身につける。

### (D) 工学の基礎学力と情報技術を身につける。

D-1 どの分野にも必要な共通の基盤技術である基礎工学を身につける。

D-2 コンピュータをはじめとするさまざまな情報機器を利用する技術を身につける。

### (E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。

E-1 得意とする専門分野の知識、技術を身につける。

E-2 得意とする専門分野と人間社会との関連について理解できる。

### (F) 論理的表現力と英語力を身につける。

F-1 日本語の文章の内容を正確に理解し、自分の考えを的確に伝えることができる。

F-2 日常的に使用される英語文の内容を理解し、自分の考えを英語で伝えることができる。

### (G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。

G-1 解決すべき問題を、客観的にとらえて、計画的、継続的に学習することができる。

◎専攻科課程

**(A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。**

A-1 多様な解をもつ課題に対して、工学的知識・技術を統合し、創造性を発揮して適切な解決策を示すことができる。

A-2 地域社会が求める技術的課題に対して、科学・技術、情報などあらゆる知識を統合し、実現性のある解決策を示すことができる。

**(B) 地球的視野と技術者倫理を身につける。**

B-1 広い教養と視野をもち、地球環境や国際間の異なる文化や歴史的背景を理解できる。

B-2 技術が人間社会や環境に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会や企業において果たすべき責任を自覚できる。

**(C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。**

C-1 工学的な問題の解析や説明に必要な数学、物理学の知識および地球環境に関わる生物、地学、化学関係の知識を身につける。C-2 実験・実習を通じて現象を経験的に学び、実験結果に対する理論との比較や考察ができる。

C-2 実験・実習を計画的に遂行し、データを解析して、実験結果に対する理論との比較や考察あるいは説明ができる。

**(D) 工学の基礎学力と情報技術を身につける。**

D-1 共通基盤技術である基礎工学の知識を身につける。

D-2 技術の深化や進展への対応に必要な専門基礎工学を身につける。

D-3 情報技術の仕組みを理解し、情報検索、データ解析、プログラミング等の能力を身につける。

**(E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。**

E-1 機械系、電気・電子系、応用化学系の専門分野から得意分野の学士の学位を取得する。

E-2 融合複合科目を修得し、機械および電気電子分野の対応能力や品質管理技術を身につける。

**(F) 論理的表現力と英語力を身につける。**

F-1 論理的に記述、発表、討論する国語力を磨き、適切なレポートや論文が書ける。

F-2 学内外の研究発表会において、論理的で説得力のある発表や質疑応答ができる。

F-3 英語による表現力を磨き、国際的に通用するコミュニケーション基礎力を身につける。

**(G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。**

G-1 継続的に広く学び、自主的に問題解決を図ることができる。

G-2 実施計画を立て実行結果を逐次記録・評価して進捗の自己管理ができる。

## 単位の修得と進級及び卒業の認定について

進級及び卒業の認定は学生便覧に記載されている「学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程」に基づいて行われます。

ここでは、この規程等の中で特に重要な点をいくつか示します。学生便覧は必ずよく読んで、具体的な問題が生じた場合は、学級担任と科目担当の先生にすぐ相談して下さい。

### I. 科目の履修と単位の修得について

#### 1. 単位

各科目の単位数は、所定の履修時間、あるいは学修時間を1単位として計算します。単位にはつぎの2種類があります。

##### (1) 履修単位

30時間（1時間は、50分を標準とする）の履修（授業）を1単位として計算します。これは週1時間の授業が通年行われることに相当しています。週2時間の通年授業であれば、2単位ということになります。第1学年から第3学年まではすべてこの単位です。

##### (2) 学修単位

45時間の学修を1単位として計算します。学修とは、授業と自学自習を合わせたものであり、例えば、講義科目1単位を修得するためには、授業15時間、自学自習30時間が必要となります。これは1時間の授業に対して、2時間の自学自習を行うことを意味しています。演習科目は30時間の授業と15時間の自学自習とで1単位、実験・実習科目は45時間の授業での実験・実習で1単位になります。時間割は授業の時間だけに基づいて組まれています。第4、5学年は60単位を越えない範囲でこの学修単位（俗称大学単位）です。

#### 2. 科目の履修

授業への出席時数が出席すべき時数の4分の3以上の科目については、その科目を履修したものと認めます。履修が認められない場合は、評価することができません。出席重視が高専の特徴です。

#### 3. 総合評価

評価は各期ごとに総合して出します。例えば、中間試験をやる科目では、前期末の評価は、前期中間試験と期末試験や小テストほかを総合評価したもの、後期中間の評価は先の試験等に後期中間試験等を総合したものというように、学年末まですべての各期の評価を総合して出します。

#### 4. 単位の修得

履修した科目の学年の成績評価が、第1～3年生は50点以上、第4、5年生は60点以上の場合、その科目の単位を修得したものと認めます。後述するように、進級、卒業のためには、第1学年からその時点までに修得した単位数（累積修得単

位数) が基準の条件を満たす必要があります。

#### 5. 特別指導前期再評価

通年科目の前期（または前期だけの科目）の成績が合格点に達しない学生は、後期に特別指導やその試験を受けて前期を合格点に再評価できる場合があります。詳しいことは担任や科目担当の先生に問い合わせてください。

#### 6. 追認試験

単位を修得できなかった科目があって進級した場合は、未修得単位の追認試験を受けなければならないか（2，3年）、受けることができます（4，5年）。これに合格すれば、その科目や単位を修得したものと認められます。

#### 7. 学業成績の評語

学業成績を点数ではなく評語で表す場合は、両者の対応を次のようにします。

##### 第1～3学年

評語	優	良	可	不可
評価点	100～80	79～70	69～50	49以下

##### 第4・5学年

評語	優	良	可	不可
評価点	100～80	79～70	69～60	59以下

## II. 進級及び卒業の認定について

### 1. 第1学年から第3学年における進級要件

**第1学年から第3学年において、進級の認定のためには、以下の条件を満たしていなければなりません。**

- (1) 学則で定められた各学年の科目を履修すること。
- (2) 当該学年までの累積未修得科目が2科目以下であること。
- (3) 表1に掲げた必修得科目の単位を修得していること。
- (4) 各学年において、特別活動の出席時数が出席すべき時数の4分の3以上であること。
- (5) 第3学年では、表2に掲げた累積修得単位数に達していること。

表1 各学科別・各学年別必修得科目

平成23年度第1学年

学 科 別	授 業 科 目	学 年 別
機 械 工 学 科	基 礎 製 図	1年
	機 械 製 図	2年
	製 図 ・ 製 作 実 習	3年
	機 械 工 学 実 習 I	1年
	機 械 工 学 実 習 II	2年
電 気 電 子 工 学 科	電 気 電 子 製 図	1年
	電 気 電 子 工 学 実 験 ・ 実 習	2年, 3年
制 御 情 報 工 学 科	機 械 ・ 電 気 製 図	1年, 2年, 3年
	制 御 情 報 工 学 実 験 ・ 実 習	2年, 3年
物 質 工 学 科	物 質 化 学 実 験	2年, 3年

平成23年度第2・3学年

学 科 別	授 業 科 目	学 年 別
機 械 工 学 科	機 械 設 計 製 図	1年, 2年
	製 図 ・ 製 作 実 習	3年
	機 械 工 学 実 習	1年, 2年
電 気 電 子 工 学 科	電 気 電 子 製 図	1年
	電 気 電 子 工 学 実 験 ・ 実 習	2年, 3年
制 御 情 報 工 学 科	機 械 ・ 電 気 製 図	1年, 2年, 3年
	制 御 情 報 工 学 実 験 ・ 実 習	2年, 3年
物 質 工 学 科	物 質 化 学 実 験	2年, 3年

表2 累積履修単位数及び累積修得単位数

平成23年度第1・2学年

学 科 別	第3学年累積履修単位数	第3学年累積修得単位数
機 械 工 学 科	99.5単位	94.5単位以上
電 気 電 子 工 学 科	99単位	94単位以上
制 御 情 報 工 学 科	99単位	94単位以上
物 質 工 学 科	101単位	96単位以上

平成23年度第3学年

学 科 別	第3学年累積履修単位数	第3学年累積修得単位数
機 械 工 学 科	100単位	95単位以上
電 気 電 子 工 学 科	99単位	94単位以上
制 御 情 報 工 学 科	99単位	94単位以上
物 質 工 学 科	101単位	96単位以上

## 2. 第4学年及び第5学年における進級及び卒業要件

第4学年において、進級の認定をしてもらうためには、以下の条件を満たしていなければなりません。

- (1) 表3に掲げる必修得科目の単位を修得していること。
- (2) 第1学年からその学年までに、修得した科目の累積修得単位数（追認された科目の単位数を含む。）が表4に掲げる単位数に達していること。

**卒業の認定にあたっては、以下の条件を満たしていなければなりません。**

- (1) 表3に掲げる必修得科目の単位を修得していること。
- (2) 第1学年から第5学年までに、修得した科目の累積修得単位数（追認された科目の単位数を含む。）が表4に掲げる単位数に達していること。
- (3) 卒業研究が可上であること。

表3 各学科別・各学年別必修得科目

平成23年度第4学年

学 科 別		授 業 科 目	学 年 別
機 械 工 学 科		機 械 設 計 製 図	4年, 5年
		機 械 工 学 実 験 I	4年
		機 械 工 学 実 験 II	5年
電 気 電 子 工 学 科		電 気 電 子 工 学 実 験 ・ 実 習	4年, 5年
		電 気 電 子 製 図	4年
制 御 情 報 工 学 科		制 御 情 報 工 学 実 験 ・ 実 習	4年, 5年
物 質 工 学 科	共 通	物 質 化 学 実 験	4年
		物 質 工 学 基 礎 研 究	4年
	物 質 コース	材 料 工 学 実 験	4年
	生 物 コース	生 物 工 学 実 験	4年

平成23年度第5学年

学 科 別		授 業 科 目	学 年 別
機 械 工 学 科		機 械 設 計 製 図	4年, 5年
		機 械 工 学 実 験	4年, 5年
電 気 電 子 工 学 科		電 気 電 子 工 学 実 験 ・ 実 習	4年, 5年
		電 気 電 子 製 図	4年
制 御 情 報 工 学 科		制 御 情 報 工 学 実 験 ・ 実 習	4年, 5年
物 質 工 学 科	共 通	物 質 化 学 実 験	4年
		物 質 工 学 基 礎 研 究	4年
	物 質 コース	材 料 工 学 実 験	4年
	生 物 コース	生 物 工 学 実 験	4年

表4 各学年別累積履修単位数及び累積修得単位数

平成23年度第4学年

学年別	学 科 別	累積履修単位数	累積修得単位数	備 考
第4学年	機 械 工 学 科	135単位	130単位以上	
	電 気 電 子 工 学 科	135単位	130単位以上	
	制 御 情 報 工 学 科	136単位	131単位以上	
	物 質 工 学 科	140単位	135単位以上	
第5学年	機 械 工 学 科	172単位以上	167単位以上	累積修得単位数のうち、 一般科目については75単位 以上、専門科目については 82単位以上とする。
	電 気 電 子 工 学 科			
	制 御 情 報 工 学 科			
	物 質 工 学 科			

平成23年度第5学年

学年別	学 科 別	累積履修単位数	累積修得単位数	備 考
第4学年	機 械 工 学 科	136単位	131単位以上	
	電 気 電 子 工 学 科	135単位	130単位以上	
	制 御 情 報 工 学 科	136単位	131単位以上	
	物 質 工 学 科	140単位	135単位以上	
第5学年	機 械 工 学 科	172単位以上	167単位以上	累積修得単位数のうち、 一般科目については75単位 以上、専門科目については 82単位以上とする。
	電 気 電 子 工 学 科			
	制 御 情 報 工 学 科			
	物 質 工 学 科			

## 総合科学科の教育

### 教育目標

総合科学科は、国語、数学、英語などの一般科目を担当する教員の組織です。高専の卒業生が実践的技術者として産業界で活躍するためには、専門的な知識や技術の習得だけでなく、幅広い知識と豊かな教養を身につけ人間性を高めることが大切です。そのための教科が一般科目です。何事もしっかりした土台なしには、専門的なものを身につけることはできません。一般科目は専門科目を学ぶ上での大事な基礎でもあります。

一般科目は、一般教養科目と基礎専門科目から成り立っており、本校の全学科の学生の必修科目になっています。一般教養科目は国際化に対処できる能力の涵養と情操豊かで健全な社会人の育成を目指す科目です。学ぶ内容は幅広く、高校の普通科目に近い内容から、大学の教養科目に近いものに及びます。基礎専門科目（応用数学、応用物理）はどの専門学科にも共通する問題に対処できる基本的な能力を養うことを目指しています。いずれも、順次基礎的なものから応用的なものへ、5年生の「共通選択・一般科目」を含め、高学年まで授業が行われています。また、総合科学科では、1・2年の学級担任を担当して、本校の人間性教育の重要な部分を担っています。同時に、専攻科の「共通一般科目」の講義も担当しています。

### カリキュラムの編成方針

カリキュラムの内容は文科系と理科系に大別されます。

文科系カリキュラムは、国語、外国語（英語、ドイツ語）、社会、保健・体育、および芸術からなり、低学年では、基礎的学力の育成と教養的知識の習得、高学年では、社会人になるための幅広い教養と豊かな人間性の涵養を基本方針として編成されています。最近では、「コミュニケーション・スキル国語教育」を導入したり、英語のTOEIC受験を義務づけて、それを目標とする授業科目を作るなどして、大きな変革を実施しています。

理科系カリキュラムは、数学・応用数学、物理・応用物理、および化学・生物のグループからなり、各教科とも、低学年では、基礎的学力の育成と科学的なものの見方や考え方の習得を、高学年では、より複雑で高度な問題への対処能力の育成を基本的な方針として編成されています。3年生の「数学Ⅱ」2単位を習熟度別クラス編成にするなど、教育効果を上げるために様々なことが実施されています。

文科系および理科系カリキュラムとも、単位数は低学年で多く、高学年になるに従って、順次専門科目と入れ代わって少なくなるという「くさび形カリキュラム」をとっています。

### 学習上の留意事項

日々の授業を通じて基礎的学力を身につけることに努めてほしいと思います。そのためには、自宅（学寮）での自発的な学習習慣をつけることが何よりも大切です。日常の予習・復習をおろそかしないことが肝要です。具体的な履修上の注意や内容については、各教科のシラバスを参考にして下さい。

学生諸君が本校で過ごす5年間は、一生の中でも最も大切な時期です。この時期は何事に対しても感受性が鋭く、心身ともに成長著しい時期です。学力だけでなく、他人とのコミュニケーション能力や社会適応能力を是非、身につけてほしいと思います。クラスの友人たちとの交流や学校行事、あるいは部活動等に積極的に参加することで、知らず知らずのうちに、このような能力を身につけることができるはずです。幸い、本校には学寮があり、多数の寮生が共同生活を営んでいます。寮生活は勉強だけでは得られない能力を身につける絶好の機会でもあります。学寮では規則をよく守り、行事等にも積極的に参加してほしいと思います。また、新聞やニュース等に目を向け、社会の動きにも関心を持つことが大切です。

高専は5年間一貫教育なので、受験勉強に煩わされることなしに、自分のペースで好きな分野の勉強をしたり、読書や芸術鑑賞あるいは部活動やボランティア活動に打ち込んだりすることができます。本校の特色を良く理解し、日々努力すれば、得るものは非常に大きいはずです。みなさんの将来に期待しています。

# 機械工学科の教育

## 教育目的

産業界のあらゆる分野で活躍できる教養豊かな機械技術者を育成することを目的とする。

## 教育目標

何かを作ったり動かしたりするものを機械と呼びます。機械工学科では、機械を設計・製造するために必要となる基礎的な知識と実践的技術を学びます。高専5年間で学ぶことには限りがありますが、卒業後に新しい環境で、自ら調べ、考え、議論して、個々の具体的な問題に対応できる機械技術者になれる人材の育成を目標としています。

## カリキュラムの編成方針

機械工学科の最初のページを見て下さい。これから学ぶ科目名と単位数、学年が記してあります。1学年では、5単位分(週5時間)だけ機械工学(専門)の学習をします。1学年と2学年は専門への導入部です。3学年から急に専門の科目数と単位数が多くなり、4、5学年になると、授業のほとんどが専門科目になります。

これら専門科目では、機械を開発・設計・製作・改良したり、信頼性の高い製品を効率良く作るための考え方や製造方法を総合的に学習します。具体的には、機械に利用される材料の性質や強さ、その合理的な加工法、水・熱・空気に関する基礎理論や機械の構造と力の伝わり方などの専門知識を学習します。これらに加えて、実験・実習・製図関係の科目により実践的な技術を学びます。

さらに、最近では様々な自動化が進み、機械工学の内容は、電気・電子や情報関連の分野とも深い関わりを持つようになってきました。本学科ではそれらに対応するために、上記の機械系科目を基本に、情報処理やCADを学習し、実験のデータ処理や解析、設計製図の能率化に役立てます。さらに、マイコン制御、メカトロニクスなどの電気系、制御系科目の基礎も学習し、幅広い知識を身につけます。

5学年の卒業研究ではそれぞれの研究室に配属された学生が指導教員とのマン・ツー・マンのふれあいにより、豊かな人間性の形成と技術に関する総合的判断力、創造性、応用力、研究および調査の立案やプレゼン能力を養います。

この表に示した科目は全て必修科目です。その他に、選択科目(ページ K-1~K-12)も用意されています。それぞれの関心に応じて専門外の科目を学ぶことにより、技術者としての裾野を広げることができます。

## 学習上の留意事項

- (1) 勉強は積み重ねが大事です。授業中に分からなかったことは、友人や先生に質問するなどして、その日のうちに理解するように心掛けてください。
- (2) 力学系の科目では数式を変形することが多くあります。そのため、数学(特に三角関数、微分・積分など)の基礎を確実に理解しておく必要があります。
- (3) 何事にも積極的に取り組む姿勢が大切で、実験・実習は率先して手を動かし、体験してください。共同作業も多いので、相手のことを考えた行動が必要です。

# 電気電子工学科の教育

## 教育目的

産業界で活躍できる創造性豊かな実践的電気電子技術者を育成することを目的とする。

## 教育目標

電気電子工学科では、現代社会に欠くことのできない『エレクトロニクス』、『情報・通信』、『電気エネルギー』の3分野を教育内容の柱とし、各分野のバランスのとれた学習を通じて急激に発展する産業界で活躍できる創造性豊かな総合電気電子技術者の養成を目指しています。具体的には、家庭の各種電化製品の便利な機能と深く関わるエレクトロニクスやマイクロコンピュータの活用、コンピュータによる情報処理とITやインターネットなどと密接に関係する情報通信、それにこれらの電気電子機器やコンピュータから新幹線まであらゆるところで不可欠な電気エネルギーの発生等、電気電子の基礎から応用までをアナログ、デジタル両面から学習することができます。

また高学年では、必要な科目を選択して修得しさらに定められた実務経験によって第2種電気主任技術者の資格認定を受けることができます。

教室での授業以外に、インターンシップ(工場実習)や工場見学で実社会の見聞を広め、卒業研究では教員の個人的で密接な教育指導を受けながら、研究テーマの選定、研究の進め方、論文のまとめ方、プレゼンテーションの仕方等を学び、自分で計画・立案・実行できる技術者を育てる環境が整っています。

## カリキュラムの編成方針

電気電子工学科では『エレクトロニクス』、『情報・通信』、『電気エネルギー』を3本柱にしてカリキュラムを編成していますので、科目数が多く全ての科目を学生全員が学ぶことは不可能です。そのため4, 5年生では並列選択制を取り入れています。自分の希望する就職や進学、取得したい資格などを考えて、エレクトロニクス・情報通信系および電気エネルギー系のいずれかの科目を選択することになります。

専門科目の基礎となる電気磁気学、電気回路などは低学年から取り入れ時間をかけて学習できるようにしてあり、さらに1年生では電気電子基礎、創造実習等を学びます。

本学科では「実験しながら考える」ことをモットーにしていますので実験・実習を重視しており、各分野における実験を通して、講義で学んだ内容をより確実に身に付けられるようにしています。実験実施後は必ず報告書を提出することになっています。

またコンピュータに関しましては、1年生から5年生まで満遍なくプログラミングや情報処理について演習中心に学び、高学年ではeラーニング教材によるIT教育も取り入れ、ハードウェアからネットワークシステムに関するソフトウェアまでを学習してマルチメディアに対応できる基礎を身に付けることができますようにしています。

## 学習上の留意事項

電気電子工学の分野では自然現象に基づいて成り立っている物理的な部分と、計算で導かれる数学的な部分がありますので、両者を両輪として学習する必要があります。

公式等暗記すべきこともあります。むしろその公式の意味をしっかりと覚えることが重要です。また計算して答えを出すことが多いので数学との関係が特に深く、なかでも三角関数、微分・積分、複素数・ベクトル、方程式の解き方等は確実に身に付けておかなければなりません。

# 制御情報工学科の教育

## 教育目的

情報並びに電子・機械制御技術を統合した広い技術分野に携わる実践的技術者を育成することを目的とする。

## 教育目標

メカトロニクスすなわちコンピュータ技術、電子技術、機械技術を融合した統合型システム技術は、現代の高度工業技術を象徴する複合技術であり、家電製品、自動車、福祉、医療など生活に密着したものから、航空機や工場の生産設備に至るまで広範囲に応用されています。この技術はコンピュータの利用技術や制御技術と結びついて進化し、知能化や自動化の方向に進んでいます。

制御情報工学科は、統合型システム技術の進展に対応し、コンピュータ技術を基本に電子技術、制御・機械技術を統合した広い技術分野に携わる実践技術者の育成を目標としています。具体的には、統合型システム（メカトロニクス）技術の例としてロボットを挙げることができます。

本学科では、このような統合型システム機器の設計、開発に必要な知識や技術を体系的に教育することを最大の目標としています。加えて、実験実習を重視し、体験を通じて学んだ実践的な知識の涵養に力を入れています。近年の情報処理技術の進展に対応し、ソフトウェアや情報ネットワーク分野の教育にも十分に配慮しています。ソフトウェアを志向する学生には、在学中に情報処理技術者資格の取得に挑戦させています。4、5年の教育に関しては、J A B E E対応教育プログラムに対応させています。また、英語力の高度化のためにも力を入れています。

## カリキュラムの編成方針

現在、本学科の教育は3つの柱から成っています。第1の柱は**コンピュータ**、第2は**エレクトロニクス**、そして第3は**制御・機械技術**です。第1の柱であるコンピュータ教育は、最も重要な基本技術として、1学年から5学年までに、プログラミング言語、ハードウェア、ソフトウェア、マイクロコンピュータ、ネットワーク技術など合計20単位を有機的かつ効果的に配置し充実を図っています。4学年終了時までには、基本情報技術者資格に十分な課程を教授しその資格取得を奨励しています。第2の柱、エレクトロニクス分野では、3学年から5学年にわたって、電子回路、電気工学、論理回路、電子デバイス、計測工学、信号処理など13単位の科目を配置しています。第3の柱である、制御・機械分野では、1学年から5学年までに機械電気製図、材料力学、制御工学、システム制御、ロボット工学など18単位の講義を組んでいます。

これらの専門講義科目に加えて、実験実習を2学年から5学年にわたり10単位用意しています。また、創造力を育成するため2学年に、創造実習を1単位用意しています。教育分野は、電気・電子分野、制御・機械分野、情報分野にわたっておりその履修は必修になっています。

最後に、4年生後期の創造工学ゼミおよび5年生の卒業研究では指導教官による個別指導のもと、学生が自主的、計画的、継続的に問題解決取組み、創造力と応用力の育成を図っています。さらに、成果を、公開の場で口頭発表し、また論文にまとめることを必修とし、プレゼンテーション力や論理的表現力の育成にも力を入れています。

## 学習上の留意事項

- 1) 英語、数学、国語、物理の基礎科目は専門科目を学ぶための基礎学力となるものであり、1年から3年までの低学年において特に意欲的に勉強して欲しい科目です。また、数学、物理と電気・電子系、制御・機械系の専門科目とは密接な関係があります。
- 2) 実験・実習は最も重要な科目です。積極的に手を動かして体験してください。体験して、その面白さ、驚き、難しさなどを実感してください。
- 3) 講義でわからないところは、オフィスアワーを利用して、遠慮なく先生に質問してください。

# 物質工学科の教育

## 教育目的

物質や生物の知識を基礎として、環境問題や新しい科学技術に対応できる技術者を育成することを目的とする。

## 教育目標

物質工学科では、物質を構成する元素、分子の基本的な分野の学習から、これらの化学技術を応用した化学工業の分野まで幅広く学習します。

これまで化学工業は、エネルギー（石油・石炭等）を多量に消費する事により、我々の生活に欠くことのできないプラスチック、繊維、ゴム、医薬品、農薬等の化学製品を作ってきました。しかしこれらの製品もこれからは、生分解性プラスチックや有機EL用化合物のような高機能性を持つ物質にしていくことが求められています。さらに地球の温暖化や環境汚染を防ぐために、生物の行っている反応を化学工業に取り入れることにより、地球にやさしい化学工業とすることができると考えられます。そこで本学科では、21世紀の化学技術の方向は材料化学とバイオテクノロジーであると考え、これらの基礎を学び、環境問題に配慮した新しい科学技術に対応できる技術者を育成することを目的としています。

## カリキュラムの編成方針

1年から3年までは共通のカリキュラムで学び、4年次に**物質コース**（新素材の開発や製造技術等を学ぶ）と**生物コース**（バイオテクノロジーに関する基礎や応用技術等を学ぶ）の2コースに分かれて専門を深く学習する**コース制**をとっているのが物質工学科の特徴です。（コースの選択は希望と適性により決定いたします）以下に、物質工学科の特徴的なカリキュラムを紹介します。

- (1) まず物質工学科の全体像を良く知ってもらうために、1年生の「物質工学概論」で物質工学科の教員全員がそれぞれの分野の特徴的な実験を通して解説します。
- (2) 物質工学の基本となる化学の基礎を学ぶために1年「基礎化学演習」では、一般化学で学んだ内容を演習(計算)形式により深く学習します。2年「工業化学特論Ⅰ」では、専門科目への導入として無機化学及び有機化学の基礎を学習します。さらに、「工業化学特論Ⅱ」では、「乙種第4類危険物取扱者」の資格取得のために演習問題を中心に学習し、資格の取得をめざします。
- (3) ものづくり、独創性を養う科目として2年生に「創造実習」があります。豊かな独創性と自由な発想で化学のものづくりに挑戦してください。
- (4) 実験重視の教育をめざす本学科は、実験能力と技術の向上、およびレポート作成能力を身につけさせるために2年生から4年生まで「物質化学実験」10単位、コース実験1単位を実施しています。「物質化学実験」の内容は分析化学実験(2年次)、生物・無機化学・有機化学実験(3年次)、化学工学・物理化学実験(4年次)となっています。4年のコース実験は材料工学実験・生物工学実験をコース毎に分かれて行います。
- (5) 5年の「外国語雑誌会」は英語文献の翻訳と発表を行い、4年・5年の「工業英語」の学習と併せて化学英語能力の向上をめざします。
- (6) 5年間の学習の集大成として「卒業研究」(12単位)を行います。卒業研究は指導教員の個別指導により研究のノウハウのみならず化学技術者として必要な知識・センスを学び、創造性豊かな技術者の育成をめざします。その準備段階として4年後期で「物質工学基礎研究」を行います。

## 学習上の留意事項

1～2年生では化学の基礎計算や資格試験のために計算能力やレポート作成能力が必要です。数学・国語等の基礎学力をしっかり身につけること、また座学と実験は関連づけられているので総合的に学習すること、さらに4～5年では化学の英語力が問われます。日常的な学習に留意してください。

## 専攻科の教育

### 教育目的

本校専攻科は、本科5年間の技術者基礎教育の上に立ち、さらに2年間、大学と同等レベルの専門知識と技術者教育を教授します。そして、地域社会や産業界に貢献でき、かつ国際的にも活躍できる実践的かつ創造的開発技術者の養成を目的とします。専攻科は、本科の機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科から進学できる機械電気システム工学専攻（ME専攻）と本科の物質工学科から進学できる物質工学専攻（CB専攻）の2専攻からなり、定員はそれぞれ1学年12名および4名です。専攻科に進学するためには本科課程で満たすべき要件があるので注意する。（詳細は「本校のJABEEプログラムの履修について」参照）

専攻科修了生は学士（工学）の学位が取得でき、さらに大学院に進学することが可能です。

### 教育目標

地域社会に貢献し国際的にも活躍できる実践的・創造的開発技術者の育成を目的として下記の教育理念を掲げています。

- ① 自ら考え、計画し総合力を発揮して自主的に問題解決を図る能力をもった技術者の育成
- ② 専門知識および専門以外の幅広い基礎学力を身につけた対応力に優れた技術者の育成
- ③ 英語力を含めたコミュニケーション力に優れた技術者の育成
- ④ 「技術者である前に人間であれ」をモットーに、人間性や教養豊かな技術者の育成

この教育理念に基づき、学生が達成すべき7つの学習・教育目標（A）～（G）を設定しています。本校の専攻科教育は国際水準の技術者教育を行っており、日本技術者教育認定機構（JABEE）によって認定されたJABEE認定教育プログラムになっています。したがって、専攻科を修了するためにはJABEEプログラム修了要件を満たすことが必要です。

### 専攻科カリキュラムの編成方針

専攻科では、2年間の在学期間に、エンジニアリングデザイン力、専門知識、共通専門知識、実践的研究能力、英語力を含むコミュニケーション力および技術者倫理が確実に身につくようなカリキュラムの編成を行っています。その特徴を下記に示します。

- ① JABEE基準を満足するカリキュラム編成とし、国際的な学士水準の技術者教育を行う。
- ② 創造工学演習、創造実習Ⅱなどの課題解決型科目やインターンシップの履修を必須とし、学生の問題解決能力の育成を重視する。
- ③ 「機械電気システム工学専攻」および「物質工学専攻」の2専攻間のカリキュラムの相互乗入れを積極的に進め、学際的な知識や複眼的視野を育成する（融合複合教育）。
- ④ 専攻科研究を重視し、学会での研究成果の発表と学士の学位取得を必須とする。
- ⑤ 技術と人間社会や地球環境問題を重視し、環境関連科目の充実と技術者倫理を必修とする。
- ⑥ バイオ、新素材などの先端科学技術分野にも対応できる基礎科目を充実する。

## 専攻科修了の要件について

専攻科の修了には、専攻科に2年以上在学し（4年を限度とする）、各専攻で開設している所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得しなければなりません。同時に、「学習・教育目標をすべて達成する」というJABEEプログラムの修了要件を満たすことが必要です。

### 機械電気システム工学専攻

単位数	一般科目		専攻専門科目		共通専門科目		計
	必修	選択	必修	選択	選択	必修	
開設単位数	4	6	22~24	32	32	4	100~102
修得単位数	4	2以上	22以上	30以上		4	62以上

### 物質工学専攻

単位数	一般科目		専攻専門科目		共通専門科目		計
	必修	選択	必修	選択	選択	必修	
開設単位数	4	6	22~24	22	32	4	90~92
修得単位数	4	2以上	22以上	30以上		4	62以上

## 授業科目及び履修方法

学期は、前期（4月から9月）、後期（10月から3月）の2期制です。カリキュラムは、一般科目、共通専門科目、専攻専門科目（演習、実験・実習を含む）から構成されています。

大学及び他の高等専門学校の専攻科（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目を履修し修得した単位数は20単位を限度として、専攻科における授業科目の履修として見なし、専攻科の修得単位数に加算することができます。

専攻科の履修に際しては、上記の専攻科単位取得要件の外に、JABEE修了要件、学士取得のための学位申請要件（大学評価・学位授与機構）を考慮に入れて計画を立てることが必要です。

履修計画を立てるために、オリエンテーションにおける説明を参考にするとともに、各研究指導教員に相談することが必要です。

## 学習上の留意事項

- ・専攻科科目はすべて学修単位のため、授業時間の2倍以上自学自習することを前提として授業が行なわれる。自学自習は必須であることを肝に銘じること。
- ・TOEIC 400点以上達成は必須です。未達成の学生は、この要件をできるだけ早くクリアするために1年生では英語力向上に最大の力を注ぐこと。
- ・大学院への進学も視野に入れて勉学に励むこと。
- ・専門分野だけでなく共通分野や異分野にも積極的にチャレンジする。また、専攻科研究に意欲的に取り組むことが充実した専攻科生活を送るポイントです。



#### 4. 「生産システム工学」履修対象者と修了要件

本科4年に進級した学生は全員 JABEE プログラム「生産システム工学」の前期履修対象者になります。そして、専攻科に入学した学生は全員「生産システム工学」の後期履修対象者になります。プログラム前期修了要件は本科在学中に満たすことが必要です。よって、前期修了要件を満たさない学生は**専攻科進学**の資格を失うので注意が必要です。後期修了要件を満たしたものが「生産システム工学」修了者となります。プログラム修了要件と専攻科修了要件は一致するものとします。また、社会人入学制度によって、本科を卒業して一旦社会に出た後にあらためて専攻科に入学する道も開かれています。

#### 5. 「生産システム工学」の学習・教育目標

JABEE プログラム「生産システム工学」は、「多様な価値観と広い視野を持ち、基礎工学および専門工学的知識を総合的に発揮して地域社会の要請に応えることができ、同時に国際的にも活躍できる実践的技術者の育成」を目指しています。この目標に向けて、学生が達成すべき学習・教育目標として、下記に示す (A) ~ (G) の7つの学習・教育目標を設定しています。「生産システム工学」を修了するためには、学習・教育目標をすべて達成することが必要です。目標の具体的な達成要件は、学科・専攻に関わらず同等の達成基準を満たすように設計されていますが、学科・専門毎に決められたものがあります。後述の別表1~3に学習・教育目標ごとの達成方法と達成度評価基準を示します。

##### (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。

- A-1 多様な解をもつ課題に対して、工学的知識・技術を統合し、創造性を発揮して適切な解決策を示すことができる。
- A-2 地域社会が求める技術的課題に対して、科学・技術、情報などあらゆる知識を統合し、実現性のある解決策を示すことができる。

##### (B) 地球的視野と技術者倫理を身につける。

- B-1 広い教養と視野をもち、地球環境や国際間の異なる文化や歴史的背景を理解できる。
- B-2 技術が人間社会や環境に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会や企業において果たすべき責任を自覚できる。

##### (C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。

- C-1 工学的な問題の解析や説明に必要な数学、物理学の知識および地球環境に関わる生物、地学、化学関係の知識を身につける。
- C-2 実験・実習を計画的に遂行し、データを解析して、実験結果に対する理論との比較や考察あるいは説明ができる。

##### (D) 工学の基礎学力と情報技術を身につける。

- D-1 共通基盤技術である基礎工学の知識を身につける。
- D-2 技術の深化や進展への対応に必要な専門基礎工学を身につける。
- D-3 情報技術の仕組みを理解し、情報検索、データ解析、プログラミング等の能力を身につける。

##### (E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。

- E-1 機械系、電気・電子系、応用化学系の専門分野から得意分野の学士の学位を取得する。
- E-2 融合複合科目を修得し、機械および電気電子分野の対応能力や品質管理技術を身につける。

##### (F) 論理的表現力と英語力を身につける。

- F-1 論理的に記述、発表、討論する国語力を磨き、適切なレポートや論文が書ける。
- F-2 学内外の研究発表会において、論理的で説得力のある発表や質疑応答ができる。
- F-3 英語による表現力を磨き、国際的に通用するコミュニケーション基礎力を身につける。

##### (G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。

- G-1 継続的に広く学び、自主的に問題解決を図ることができる。
- G-2 実施計画を立て実行結果を逐次記録・評価して進捗の自己管理ができる。

## 6. 学習・教育目標の達成と評価方法について

「生産システム工学」の修了要件は、下記の表に示す学習・教育目標（A）～（G）の達成要件をすべて満たすことです。達成および評価方法と達成要件を表1に示す。網掛けの部分が、本科で満たすべき前期修了要件を示します。

表1 学習・教育目標の達成および評価方法と達成要件（網掛け部分は前期修了要件）

学習・教育目標		達成および評価方法	達成要件
(A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける。	A-1 多様な解をもつ課題に対して、工学的知識・技術を統合し、創造性を発揮して適切な解を示すことができる。	1) 創造工学演習または創造実習Ⅱに合格する。	1)～3) すべての条件を満たすこと。 (H23年度は3)は除く)
	A-2 地域社会の技術的課題に対して、科学・技術、情報などあらゆる知識を統合し、実現性のある解決策を示すことができる。	2) インターンシップ又は長期インターンシップに合格する。 3) 新デザイン科目に合格する。 (H24年度開講の予定)	
(B) 地球的視野と技術者倫理を身につける。	B-1 広い教養と視野をもち、地球環境や国際間の異なる文化や歴史的背景を理解できる。	1) ドイツ語(4, 5年)に合格する。 2) 下記の科目群から、2科目以上に合格する。 国際政治(5年共)、英語表現法(5年共) 経済学(専)、日本学特論(専)	1)～4) すべての条件を満たすこと。
	B-2 技術が人間社会や環境に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会や企業において果たすべき責任を自覚できる。	3) 地球環境科学、音と福祉工学、医療福祉機器工学(以上5年共)、安全工学(専)から1科目以上合格する。 4) 技術者倫理(専)に合格する。	
(C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身につける。	C-1 工学的な問題の解析や説明に必要な数学、物理学の知識および地球環境に関わる生物、地学、化学関係の知識を身につける。	1) 応用数学(4, 5年)すべてに合格する。 (物質工学科は、4年のみ) 2) 応用解析(専)、応用代数(専)のいずれか1科目以上に合格する。 3) 応用物理(4年)に合格する。 4) 物理学特論(専)、量子物理(専)のいずれか1科目以上に合格する。 5) 数理科学、エコロジー概論、地理学、(以上5年共)、環境化学(専)、環境地理学特論(専)から2科目以上に合格する。	1)～6) すべての条件を満たすこと。
	C-2 実験・実習を計画的に遂行し、データを解析して、実験結果に対する理論との比較や考察あるいは説明ができる。	6) 各科毎に、表2-2に示す実験系科目群の科目すべてに合格する。	

表1 学習・教育目標の達成および評価方法と達成要件（網掛け部分は前期修了要件）

学習・教育目標		達成および評価方法	達成要件
(D) 工学の基礎学力と 情報技術を身につける。	D-1 共通基盤技術である基礎工学の知識を身につける。	1) 表2-1に示す基礎工学科目群の5つの各系統分野から、少なくとも1科目以上、合計6科目以上に合格する。	1)～3) すべての条件を満たすこと。
	D-2 技術の深化や進展への対応に必要な専門基礎工学を身につける。	2) 表2-4に示す専門基礎科目群のコア科目すべてに合格する。	
	D-3 情報技術の仕組みを理解し、情報検索、データ解析、プログラミング等の能力を身につける。	3) 表2-3に示す情報系科目群から1科目以上に合格する。	
(E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応能力を身につける。	E-1 機械系、電気・電子系、応用化学系の専門分野から得意分野の学士の学位を取得する。	1) 学則で定められた専攻科の単位取得要件を満足し、かつ学位授与機構が定める分野別単位要件を満たして学士の学位を取得する。	1)～3) すべての条件を満たすこと。
	E-2 融合複合科目を修得し、機械および電気電子分野の対応能力と品質管理技術を身につける。	2) 表2-5に示す融合複合科目すべてに合格する。 3) 専攻科実験に合格する。	
(F) 論理的表現力と英語力を身につける。	F-1 論理的に記述、発表、討論する国語力を磨き、適切なレポートや論文が書ける。	1) 専攻科研究論文の評価が60点以上である。	1)～5) すべての条件を満たすこと。
	F-2 学内外の研究発表会において、論理的で説得力のある発表や質疑応答ができる。	2) 学会において研究発表を行なう。 3) 専攻科研究発表会の評価が60点以上である。	
	F-3 英語による表現力を磨き、国際的に通用するコミュニケーション基礎力を身につける。	4) 下記の科目すべてに合格する。 英語Ⅰ(4年)、語学演習(5年)、工業英語(5年)、総合実践英語Ⅰ、Ⅱ(専) 5) 専攻科研究論文の英文要旨の評価が60点以上である。	
(G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身につける。	G-1 継続的に広く学び、自主的に問題解決を図ることができる。	1) 卒業研究に合格する。	1)～3) すべての条件を満たすこと。
	G-2 実施計画を立て実行結果を逐次記録・評価して進捗の自己管理ができる。	2) 専攻科研究の研究遂行能力の評価が60点以上である。 3) インターンシップまたは長期インターンシップの実習先評価が60点以上である。	

表2-1 基礎工学科目群 (JABEE 分野別要件：工学(融合複合・新領域))

		設計・システム系 科目群	情報・論理系 科目群	材料・バイオ系 科目群	力学系 科目群	社会技術系 科目群
基礎工学科目群	機械 工学 科	機械設計製図(4,5年) メカトロニクス 制御工学	数値解析 マイコン制御	材料学Ⅱ 材料化学	水力学 熱力学 材料力学Ⅱ	
	電気 電子 工学 科	制御工学 発変電工学 計算機工学	通信工学 情報通信	電気電子材料	機械工学概論	
	制御 情報 工学 科	制御工学Ⅱ システム制御 計測工学	論理回路 数値解析	電子デバイス工学	水力学 材料力学	
	物質 工学 科	電気工学概論 化学工学 計測制御	計算機実習	分子生物学 バイオテクノロジー 無機材料化学 材料化学	機械工学概論	環境とエネルギー
	5年 共通 選択 科目	デジタル制御 システム		電子デバイス		エネルギー変換工学 生産工学
	専攻 科					総合技術論 (専)

表2-2 実験系科目群

	科目名
実験・実習科目群	機械工学実験Ⅰ (M4年) 機械工学実験 (M5年)
	電気電子工学実験・実習 (E4年) 電気電子工学実験・実習 (E5年)
	制御情報工学実験・実習 (I4年) 制御情報工学実験・実習 (I5年)
	物質化学実験 (B4年) 材料工学実験または 生物工学実験 (B4年) 物質工学基礎研究 (B4年)
	専攻科実験 (融合複合実験を含む)

表2-3 情報系科目群

	科目名
情報技術科目群	情報処理(M)
	デジタル回路(E) 情報処理(E)
	アルゴリズム入門(I) 情報ネットワーク(I) 実践情報処理(I)
	情報処理演習(B)

注) M,E,I,Bは、機械、電気電子、制御情報、物質の各学科名を示す。

表2-4 専門基礎科目(コア科目)群 (本科)

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	物質工学科
(総て必修) 機械力学 I 機構学 機械要素設計 機械工作法 II	(総て必修) 電気回路 電気回路演習 電子回路 電子回路演習	(総て必修) 電子回路 制御工学 I データ構造 信号処理	(総て必修) 無機化学 有機化学 物理化学 生物化学

表2-5 融合複合科目 (専攻科)

	必修科目名
機械系専攻学生	データ解析、経営工学、実践電気電子工学
電気電子系専攻学生	データ解析、経営工学、材料科学
応用化学系専攻学生	データ解析、経営工学、実践電気電子工学

融合複合科目の必修化は、H23年度専攻科入学生から適用する。

表3-1 科目評価表(1)

科目名	評価方法
卒業研究 (本科5年)	<p>1) 研究遂行能力 指導教員が普段の取組み姿勢、研究ノート、研究進捗報告内容等から下記の項目について100点満点で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 研究ノート作成と活用ができる(解決すべき課題、従事日時、進捗状況の記述)</li> <li>② 自発的な取組み姿勢、計画的・継続的問題解決能力</li> <li>③ 課題解決のための発想力、および装置やソフトウェアを利用した実験力</li> <li>④ 実験結果に対する解析・分析力、考察力、改善提案</li> </ul> <p>2) 研究発表能力 卒業研究発表会において、指導教員を除く2名の教員が下記の項目について100点満点で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 話し方および質疑応答(態度、わかりやすさ、説得力)</li> <li>② 図、式の見やすさ、資料の適切さ(OHP/Power Point等)</li> <li>③ 客観的なデータ分析、考察、評価ができています。</li> </ul> <p>3) 卒業論文 指導教員が卒業論文について以下の観点から100点満点で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 論文の基本構成ができており、正しい日本語で書かれている</li> <li>② 論旨が論理的で分かりやすい(解析力、分析力、考察力)</li> <li>③ 内容あるいは成果の水準あるいは革新性・有効性</li> </ul> <p>研究未発表あるいは卒業論文未提出のものは合格できない。 総合評価は、下記の式に従う。60点以上を合格とする。 総合点=研究遂行能力×0.4+卒研発表会評価点×0.3+卒論評価点×0.3</p>
専攻科研究 (専攻科)	<p>1. 研究遂行能力 指導教員が普段の取組み姿勢、研究ノート、研究進捗報告内容等から下記の項目について100点満点で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 研究に対する、自主的、計画的、継続的問題解決能力</li> <li>② 問題解決のための創造力、調査力、装置やソフトウェアを利用した実験力</li> <li>③ 実験データや結果の解析・分析力、考察力、説明力</li> <li>④ 研究ノートを活用した自己管理能力</li> </ul> <p>2. 研究発表能力 専攻科1年：中間公開研究発表会(3月上旬頃)、専攻科2年：公開研究発表会(2月中旬頃)で評価する。評価は、指導教員を除く2名の教員が行う。評価項目は、卒研発表会の場合と同様とし、2つの発表会の評価点(100点満点)の平均を専攻科研究評価点とする。</p> <p>3. 研究達成能力 この評価は、下記1)、2)を満たした上で、3)の評価点で評価する。4)については学習・教育目標(F)の達成評価項目とし研究達成能力の評価項目から外す。</p> <p>1) 学会発表 2年間に少なくとも1回の学会発表を必須とする。学会発表を行わない場合は、専攻科研究は合格できない。(学会発表とは、学会主催の学生発表会、高専シンポジウムを含む。また、学会誌等への論文発表を行った場合の評価も同等に扱うが、学生本人の担当部分が明確になっていること。)</p> <p>2) 学修成果レポート・小論文試験に合格する。</p> <p>3) 専攻科研究論文 指導教員と他の教員1名、計2名の教員が、下記の評価項目について100点満点で評価する。両者の平均値を専攻科研究論文評価点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 論旨の論理性と明快さ(説得力、読みやすさ)</li> <li>② 研究内容の水準の高さ、新規性、独創性</li> <li>③ 実験装置の設計・製作および実験結果に対する解析力、客観的な考察力</li> </ul> <p>4) 専攻科研究論文に関する英文要旨を作成する。</p> <p>総合評価は、下記の式に従う。60点以上を合格とする。 総合点=研究遂行能力×0.2+研究発表能力×0.3+研究達成能力×0.5</p>

表3-2 科目評価表(2)

<p>インターンシップ (専攻科) 及び 長期インターンシップ (専攻科)</p>	<p>1) 実習先の企業の担当者による評価 実習先において、以下の評価項目についてA+ (極めて優秀)、A (十分に満足)、B (満足)、C (普通)、D (やや不満)、E (不満) の評価を行う。 ① 実習への自主的、計画的な取り組み姿勢 ② 実習内容の成果および結果に対する分析力、考察力、改善提案 ③ 論理的でわかりやすい報告書 (または報告会内容) A+を100点、Aを90点、Bを80点、Cを70点、Dを60点、Eを50点と換算して100点満点で評価する。</p> <p>2) 実習内容の発表会による評価 実習報告書 (800字程度) の提出と報告書に基づくプレゼンテーションを行う。評価は、専攻主任および専攻科担当教員の2名で行う。実習報告書の評価は、以下の観点で行う。 ① 形式 (目的、内容、まとめ) が整い、正しい日本語で書かれている ② 実習の目的、内容、実習計画が記述されている ③ 論旨が明瞭で、実習内容、成果がわかりやすい ④ 実習内容・成果の水準</p> <p>プレゼンテーションの評価項目は、下記の項目について行う。 ① 実習の目的、内容の要点がよくわかる ② 話し方および質疑応答 (態度、わかりやすさ、説得力) ③ 図、式の見やすさ、資料の適切さ(OHP/Power Point 等) ④ 客観的なデータ分析、考察、評価がなされている。</p> <p>実習報告書内容とプレゼンテーション力をそれぞれ100点満点で評価する。 総合評価は、実習先評価点×0.5+実習報告書評価点×0.25+プレゼンテーション評価点×0.25で評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>90時間を2単位とする。135時間を超えた時は3単位、180時間を超えた時は4単位として数え、4単位まで認める。</p>
<p>工学実験・実習 (本科) 及び 専攻科実験 (専攻科)</p>	<p>1) 実験レポート内容および実験への取り組み姿勢による評価 実験を実際に実施した成果である実験レポートを主体に評価するが、実験科目は、実際に手足を動かして体験することが重要であり、講義科目に比較して取り組み姿勢をより重要視する。テーマによっては、プレゼンテーションなどを評価項目に加えることもある。実験の評価に関しては以下の観点から100点満点で評価 (各項目20点が基本) する。 ① 基本構成 (目的、実験装置、実験結果、考察、まとめ、(課題)、参考文献) に則って書かれている ② 正しい日本語で記述され、論旨が明瞭で読みやすい ③ 表や図が正しく書かれている ④ 考察や課題に対する回答が自分の言葉で述べられ、分析や内容が優れている。 ⑤ 実験への積極的な取り組み姿勢およびレポート提出納期</p> <p>評価は、各実験テーマ担当教員が行う。 総合評価は、すべてのテーマの平均点で評価し、60点以上を合格とする。 プレゼンテーションなどが評価に加わるときの配点は、シラバスに従う。</p>

表3-3 科目評価表(3)

<p>専攻科論文 英文要旨</p>	<p>専攻科研究論文の英文要旨は 500~600 words 程度からなり、4つのキーワードも記載されていること。 英文要旨は、下記の観点で 100 点満点で評価する。評価は研究指導教員と英語教員の2名の教員で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 指定された長さの英文であり、4つのキーワードが示されている。</li> <li>② 語句や文法的な誤りがない。</li> <li>② 表現が論理的で内容が正確に理解できる。</li> </ul> <p>総合評価は、2名の教員評価の平均を評価点とし、60 点以上を合格とする。</p>
<p>工場実習 (本科4年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 実習先の企業や機関の担当者による評価 専攻科インターンシップの評価方法と同様に評価する。</li> <li>2) 実習報告書による評価(800 字程度) 担当教員が下記の観点から評価を行う。プレゼンテーションは行わなくてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 形式(目的、内容、まとめ)が整い、正しい日本語で書かれている</li> <li>② 論旨が明瞭で、実習内容や成果がよくわかる</li> </ul> </li> </ul> <p>総合評価は、実習先評価点×0.4+実習報告書評価点×0.6 として 100 点満点で評価し 60 点以上を合格とする。</p>
<p>工場見学および 卒業研究聴講に 関する取り扱い (本科ゼミ科目)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 工場見学報告書の提出(800 字程度) 工場見学報告書の評価は、担当教員が以下の観点から 100 点満点で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 正しい日本語で書かれている</li> <li>② 論旨が明瞭で、筆者の考えや伝えたいことがよくわかる</li> <li>③ 報告内容の水準</li> </ul> </li> <li>2) 卒研発表会の聴講報告書の提出(800 字程度) 発表会の中で、興味を持った発表を取り上げて、興味を持った理由、理解できた点、疑問点、質問点あるいは提案、意見などについて記述する。評価は、工場見学報告書と同様の観点から担当教員が 100 点満点で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 正しい日本語で書かれている</li> <li>② 論旨が明瞭で、筆者の考えや伝えたいことがよくわかる</li> <li>③ 報告内容の水準(大学生レベル)</li> </ul> </li> </ul> <p>各ゼミ科目の総合評価は、シラバスに従う。</p>

# 目 次

## 1. 一 般 科 目

科 目 名	頁
<b>第 1 学 年</b>	
地 理	Geography G 1
倫 理	Ethics G 2
数 学 I	Mathematics I G 3
数 学 II	Mathematics II G 4
化 学	Chemistry G 5
音 楽	Music G 6
保 健	Health Education G 7
体 育	Physical Education G 8
国 語	Japanese G 9
英 語 I	English I G 10
英 語 I	English I (Communication Workshop) G 11
英 語 II	English II G 12
<b>第 2 学 年</b>	
歴 史 I	History I G 13
数 学 I	Mathematics I G 14
数 学 II	Mathematics II G 15
物 理	Physics G 16
化 学 (ME)	Chemistry G 17
化 学 (I)	Chemistry G 18
化 学 (B)	Chemistry G 19
生 物	Biology G 20
美 術	Arts G 21
保 健 ・ 体 育	Health and Physical Education G 22
国 語	Japanese G 23
英 語 I	English I G 24
英 語 I	English I (Communication Workshop) G 25
英 語 II	English II G 26

科 目 名			頁
<b>第 3 学 年</b>			
歴 史	II	History II	G 27
政 治 ・ 経 済		Policy and Economy	G 28
数 学	I	Mathematics I	G 29
数 学	II	Mathematics II	G 30
物 理		Physics	G 31
保 健 ・ 体 育		Health and Physical Education	G 32
国 語		Japanese	G 33
英 語	I	English I	G 34
英 語	II	English II	G 35
<b>第 4 学 年</b>			
保 健 ・ 体 育		Health and Physical Education	G 37
英 語	I	English I	G 38
ド イ ツ 語		German	G 39
<b>第 5 学 年</b>			
保 健 ・ 体 育		Health and Physical Education	G 41
ド イ ツ 語		German	G 42
語 学 演 習		Language Seminar	G 43
語 学 演 習		Language Seminar	G 44
語 学 演 習		Language Seminar	G 45
語 学 演 習		Language Seminar	G 46

## 2. 専門科目

科 目 名	頁
<b>第 1 学 年</b>	
プログラミング言語	Programming Language I 1
情報処理	Information Processing I 2
機械・電気製図	Mechanical/ Electrical Drawing I 3
<b>第 2 学 年</b>	
プログラミング言語	Programming Language I 5
ハードウェア概論	Introduction to Hard Ware I 6
制御情報工学実験・実習	Experiments on Control and Information Engineering I 7
機械・電気製図	Mechanical/ Electrical Drawing I 8
創造実習	Creating Practice I 9
<b>第 3 学 年</b>	
ソフトウェア工学	Soft Ware Engineering I 11
応用物理	Advanced Physics I 12
プログラミング演習	Practice on Programming I 13
材料力学	Strength of Materials I 14
電気工学	Electrical Engineering I 15
マイクロコンピュータ	Microcomputer I 16
制御情報工学実験・実習	Experiments on Control and Information Engineering I 17
機械・電気製図	Mechanical/ Electrical Drawing I 18
<b>第 4 学 年</b>	
実践情報処理	Practice on Information Processing I 19
応用数学	Applied Mathematics I 20
応用物理	Advanced Physics I 21
データ構造	Data Structure I 22
アルゴリズム入門	Algorithm for Beginner I 23
材料力学	Strength of Materials I 24
機械運動学	Machine Kinematics I 25
数値解析	Numerical Analysis I 26
水力学	Hydraulics I 27
論理回路	Logic Circuit I 28

科 目 名	頁
電 子 回 路	Electronic Circuit I 29
電 子 デ バ イ ス 工 学	Electronic Devices I 30
電 気 工 学 演 習	Practice on Electrical Engineering I 31
制 御 工 学 I	Control Engineering I I 32
工 業 英 語	Technical English I 33
制 御 情 報 工 学 実 験 ・ 実 習	Experiments on Control and Information Engineering I 34
創 造 工 学 ゼ ミ	Creative Engineering Seminar I 35
<b>第 5 学 年</b>	
応 用 数 学	Applied Mathematics I 37
信 号 処 理	Signal Processing I 38
情 報 ネットワーク	Computer Network I 39
熱 力 学	Thermodynamics I 40
制 御 工 学 II	Control Engineering II I 41
計 測 工 学	Instrumentation Engineering I 42
シ ス テ ム 制 御	System Control I 43
ロ ボ ッ ト 工 学	Robotics I 44
工 業 英 語	Technical English I 45
制 御 情 報 工 学 実 験 ・ 実 習	Experiments on Control and Information Engineering I 46
卒 業 研 究	Graduation Research I 47

### 3. 共通選択科目

科 目 名	頁
デジタル制御システム	Digital Controlled System K 1
医療福祉機器工学	Medical and Welfare Engineering K 2
数 理 科 学	Mathematical Science K 3
生 産 工 学	Production Engineering K 4
エ コ ロ ジ ー 概 論	General Ecology K 5
国 際 政 治	International Politics K 6
地 球 環 境 科 学	Earth Eco-Science K 7
音 と 福 祉 工 学	Applied Acoustics for Welfare Engineering K 8
英 語 表 現 法	English Communication Skills K 9
電 子 デ バ イ ス	Electronic Device K 10
エ ネ ル ギ ー 変 換 工 学	Energy Conversion Engineering K 11
地 理 学	Geography K 12

## 一 般 科 目

(平成23年度 第1・2・3・4・5学年に係る教育課程)

区分	授業科目	単位数	学年別履修単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	歴史 I	3		3				
	歴史 II	1			1			
	地理	3	3					
	倫理	2	2					
	政治・経済	2			2			
	数学 I	11	4	4	3			
	数学 II	6	2	2	2			
	物理	5		3	2			
	化学	4	3	1				
	生物	1		1				
	美術	1		1				
	音楽	1	1					
	保健・体育	10	3	2	2	2	1 <sup>*(一)</sup>	
	国語	9	3	3	3			
	英語 I	10	3	3	2	2		
	英語 II	8	3	3	2			
	ドイツ語	4				2	2 <sup>*(一)</sup>	
	語学演習	1					1 <sup>*(二)</sup>	
履修単位数	82	27	26	19	6	4		

\* 印は学則第13条3項に基づく学修単位

\*(一) は講義, \*(二)は演習,ゼミ, \*(三)は実験,実習である



教科目名: 地理

( Geography )

担当教員: 澤 祥・山田 充昭

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>世界の人々の暮らしは地域ごとの特徴を持ち、これが自然と人間生活の係わり合いから生まれることが理解できるようになる。世界各国について、自然・民族・文化・産業が今どのように営まれているかを知り、国際理解の基礎力を身につける。地名や産物を暗記するのではなく、「なぜ、その場所に、そのものがなければならないのか？」を絶えず考えられるようになる。</p> <p>関連科目: 地理学、環境地理学特論</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期中間</p> <p>1. 地域による生活の違いを考える (1)</p> <p>2. 生活舞台としての地球 (3)</p> <p>2.1 地球一惑星としての地球、緯度・経度・時差 (3)</p> <p>2.2 地形 (山地・平野・構造地形・氷食地形) (2)</p> <p>(前期中間試験) (1)</p>	<p>場所が違えば生活の特徴が変わることを知り、同じ特徴をもつ場所が「地域」であることが理解できる。人間生活の舞台である地球を、時間や暦はどの様に決められるのか、山や平野はなぜ出来るのかなどのように、理科的な視点で理解できる。</p>
<p>前期末</p> <p>3. 気候 (2)</p> <p>3.1 気候要素 (気温・降水・風) と気候因子 (2)</p> <p>3.2 ケッペンの気候区分 (植生による気候区分) (3)</p> <p>3.3 ハイサーグラフ (気候要素のグラフ化) (1)</p> <p>3.4 世界の気候と人間生活 (気候と農業) (2)</p> <p>(前期末試験) (0)</p>	<p>人間生活を定める最大の原因は気候であることを理解でき、気候の決定方法を知り、身近な自然に目を向け、自分の生活が気候と深い関係にあることを認識できる。</p>
<p>後期中間</p> <p>4. 地球環境問題 (2)</p> <p>森林破壊・温暖化・水資源の不足・オゾンホール、地球環境問題の本質と国連の役割</p> <p>5. 世界の国々 (2)</p> <p>5.1 民族と国家 (人種、国家と民族・宗教の関係) (2)</p> <p>5.2 ヨーロッパ (EU、日本との政治経済関係) (3)</p> <p>(後期中間試験) (1)</p>	<p>遠く離れた場所の環境破壊が自分たちの生活に直接影響し、また日本の環境汚染が世界に広がることを理解する。世界が一丸とならなければ、地球環境問題は解決不能であることを知る。現代世界の多くの問題が文化・民族対立から生まれることに気づき、その解決策に目が向けられるようになる。</p>
<p>後期末</p> <p>5.3 アメリカ (大航海時代と「新大陸」、アングロとラテン、世界最大の産業・軍事力、人種民族問題) (3)</p> <p>5.4 中国 (アジアと中国文化、社会主義中国から現代中国へ、中国と台湾、発展と国際関係) (2)</p> <p>5.5 ロシア (ソ連時代、日本との領土問題) (1)</p> <p>5.6 韓国・北朝鮮 (近現代の日朝関係、統一を探る南北朝鮮) (1)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>日本と最も深い関係にあるアメリカ・ヨーロッパの文化・産業と、その背景にある歴史的な経過が理解できる。中国の国際的発言力の上昇が、人口・資源・軍事力を背景にしていることが理解できる。ロシアと朝鮮半島の安定と発展が、日本の政治経済の安定に必要なことが理解できる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 新詳地理B 初訂版 著者: 高橋彰ほか 発行所: 帝国書院</p> <p>新詳高等地図 初訂版 著者: 帝国書院編集部 発行所: 帝国書院</p>
参考書	<p>書名: 三訂版 最新地理図表 GEO 著者: 発行所: 第一学習社</p>
評価方法と基準	<p>授業への取り組み姿勢 20%、随時行う小テストやレポートの提出状況および内容 10%、前期中間試験 15%・前期末試験 15%・後期中間試験 15%・学年末試験 25%をもとに総合的に評価する。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは、教科書および板書、授業ノートと同程度とする。</p>
オフィスアワー	<p>授業実施日の 12:30~13:00 と 16:30~17:00</p>

教科目名: 倫理

( Ethics )

担当教員: 山内 清・菊地善教

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要			
現代に生きている哲学・倫理および政治・経済・社会思想を学ぶ。1年間を通した全体の内容は同じだが、担当教員により、授業の順番はちがうことがある。			
関連科目: 歴史Ⅰ・Ⅱ、政治・経済			
	授業内容	(W)	達成目標
前期 中間	近代以前の哲学と倫理	(2)	各思想家の哲学や倫理の核心を示す名言やキーワードを的確に理解する。教科書の記述でポイントになる表現を的確に把握する。
	近代欧米の哲学と倫理	(3)	
幸福論・不幸論	(2)		
中間試験	(1)		
前期 末	宗教・芸術論・文化論・心理学における哲学と倫理	(5)	同上。
	現代の哲学と倫理	(2)	
	(期末試験)	(0)	
後期 中間	西洋政治思想	(2)	達成目標は同上。この分野は教科書の内容が手薄なので、講義を聴きながら、黒板を見て正確なノート作りをする習慣を身につける。
	西洋経済思想	(2)	
	西洋社会思想	(2)	
	中間試験	(1)	
後期 末	東洋および日本の哲学と倫理	(2)	達成目標は同上。西洋の哲学・倫理や思想を、江戸時代までは東洋思想の日本がどのように受け入れたかを理解する。また生命観・環境問題・情報社会・技術者倫理などの現代倫理問題に、自分なりの考え方をもつ。
	日本の宗教	(2)	
	日本の政治・経済・社会思想	(2)	
	現代日本の倫理的諸問題	(2)	
	学年末試験	(0)	
合計 30 週			
教科書	書名: 新倫理	著者: 城塚登ほか	発行所: 清水書院
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	定期試験4回で80%、小テストや授業への取組20%の総合評価。教科書レベルのキーワードを理解していれば合格点。		
オフィスアワー	授業実施日の昼休み(菊地)および16:00~17:00		

教科目名: **数学 I**

( **Mathematics I** )

担当教員: 野々村和晃・木村太郎・茨木貴徳・田阪文規

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 4 単位 通年 週 ( 前期 4 ) ( 後期 4 ) 時間 ( 合計 120 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要	
はじめに、式の計算について学ぶ。これは、数学における基本中の基本である。次に、指数関数・対数関数・三角関数について学ぶ。これらの関数は、さまざまな分野で使われている使用頻度の高い関数である。最後に、直線や円などの平面上の図形について学ぶ。直線と円は、平面図形の中では最も基本的なものである。	
関連科目: 数学 I (2・3年)、数学 II (1・2・3年)	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中期 1. 整式の計算 (1) 整式の加減乗除 (1) (2) 因数分解 (2) (3) 有理式 (1) 2. 数 (1) (1) 絶対値 (1) (2) 平方根 (前期中間試験) (1)	1. 整式の加減乗除ができる。因数分解の公式を使いこなすことができる。因数分解を使って有理式の加減乗除ができる。 2. 絶対値、平方根の計算ができる。
前期 期末 3. 指数関数 (1) 指数の拡張 (2) 指数法則 (1) (3) 指数関数のグラフ (1) (4) 方程式・不等式 (2) 4. 対数関数 (1) 対数の性質 (1) (2) 対数関数のグラフ (1) (3) 方程式・不等式 (2) (前期末試験) (0)	3. 累乗根、有理指数の意味がわかり、計算ができる。指数関数のグラフがかけられる。方程式・不等式を解くことができる。 4. 対数の意味がわかり、計算ができる。対数関数のグラフが描ける。方程式・不等式を解くことができる
後期 中期 5. 三角関数 (1) 三角比 (1) (2) 一般角と弧度法 (1) (3) 三角関数の相互関係 (1) (4) 加法定理・三角関数の合成 (1) (5) 三角関数のグラフ (1) (6) 方程式・不等式 (1) (後期中間試験) (1)	5. 一般角の三角関数を理解し、三角関数のグラフを描くことができる。 三角関数の相互関係と加法定理を使い三角関数の値を求めることができる。三角関数の合成ができる。 簡単な方程式・不等式を解くことができる。
後期 期末 (7) 三角形の面積 (1) (8) 正弦定理・余弦定理 (1) 6. 平面図形 (1) 座標 (1) (2) 直線の方程式 (2) (3) 2直線の関係 (1) (4) 円 (2) (学年末試験) (0)	三角形の面積が求められる。 正弦定理・余弦定理を使って三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 6. 二点間の距離、直線の方程式を求めることができる。 2直線の平行・垂直を傾きの条件で理解ができる。 円の方程式や円の接線を求めることができる。
合計 30 週	
教科書	書名: 新編 高専の数学 1 第 2 版 著者: 田代嘉宏・難波完爾 編 発行所: 森北出版 新編 高専の数学 1 問題集 著者: 田代嘉宏 編 発行所: 森北出版
参考書	書名: チャート式 基礎と演習 著者: 山口 清 発行所: 数研出版 「数学 I」, 「数学 II」, 「数学 A」
評価方法と基準	前期中間試験 15%, 前期末試験 15%, 後期中間試験 15%, 学年末試験 15%, その他授業中に行うテスト (小テスト等) 15%, レポート 15%, 授業への取り組み 10% で評価し、総合評価 50 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。
オフィスアワー	授業日の 16:00 ~ 17:00

教科目名: 数学 II

( Mathematics II )

担当教員: 佐藤浩・佐藤修一・上松和弘

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要	
<p>2次関数を中心に、いろいろな関数を取りあげ、関数についての基本的な考え方・取り扱い方を学ぶ。2次方程式・高次方程式・1次不等式・2次不等式の解き方を学ぶ。グラフと方程式・不等式の関係を知る。ものごとを論理的に数え上げる方法を学ぶ。問題演習により、知識の定着をはかり、応用力を身につける。レポート・小テストなどにより理解を深め、計算力・思考力を高める。</p> <p>関連科目: 数学 I (1年)</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>1. 2次関数</p> <p>(1) 2次関数のグラフ (2)</p> <p>(2) 2次関数の最大・最小 (1)</p> <p>(3) 2次方程式の解の公式 (1)</p> <p>(4) 複素数 (1)</p> <p>(5) 2次方程式の解 (1)</p> <p>(前期中間試験) (1)</p>	<p>1. 2次関数</p> <p>(1) 2次関数のグラフが描くことができる。</p> <p>(2) 2次関数の最大値・最小値を求めることができる。</p> <p>(3) 解の公式を使って2次方程式を解くことができる。</p> <p>(4) 複素数の加減乗除ができる。</p> <p>(5) 2次方程式は複素数の範囲で常に解を持つことを理解することができる。</p>
<p>(6) 判別式 (2)</p> <p>(7) 解と係数の関係 (2)</p> <p>(8) グラフと方程式の解 (2)</p> <p>(9) 1次不等式・2次不等式 (2)</p> <p>(前期末試験)</p>	<p>(6) 判別式の意味がわかる。</p> <p>(7) 解と係数の関係を使って対称式の値を求めることができる。</p> <p>(8) 2次関数のグラフと直線のグラフの共有点の座標を求めることができる。また、共有点の個数と判別式の関係が理解できる。</p> <p>(9) 1次不等式・2次不等式を解くことができる。</p>
<p>2. 等式と不等式</p> <p>(1) 恒等式 (1)</p> <p>(2) 因数定理 (1)</p> <p>(3) 高次方程式 (1)</p> <p>3. 関数とグラフ</p> <p>(1) 関数と逆関数 (1)</p> <p>(2) べき関数 (1)</p> <p>(3) 分数関数 (1)</p> <p>(後期中間試験) (1)</p>	<p>2. 等式と不等式</p> <p>(1) 恒等式になるように整式の係数を決定できる。</p> <p>(2) 因数定理を使いこなすことができる。</p> <p>(3) 因数定理を使って、高次方程式を解くことができる。</p> <p>3. 関数とグラフ</p> <p>(1) 関数、逆関数とは何であるかを理解できる。</p> <p>(2) べき関数のグラフが描くことができる。</p> <p>(3) 分数関数のグラフが描くことができる。</p>
<p>(4) 無理関数 (2)</p> <p>4. 個数の処理</p> <p>(1) 場合の数 (1)</p> <p>(2) 順列 (2)</p> <p>(3) 組合せ (2)</p> <p>(4) 二項定理 (1)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>(4) 無理関数のグラフが描くことができる。無理方程式を解ける。</p> <p>4. 個数の処理</p> <p>(1) 和の法則・積の法則を理解できる。</p> <p>(2) 順列がいくつあるかを計算できる。</p> <p>(3) 組合せがいくつあるかを計算できる。</p> <p>(4) 二項定理を使って展開式の係数を求めることができる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 新編 高専の数学 1 第2版 著者: 田代嘉宏・難波完爾 発行所: 森北出版</p> <p>新編 高専の数学 1 問題集 第2版 著者: 田代嘉宏 発行所: 森北出版</p>
参考書	<p>書名: 白チャート 基礎と演習「数学 I+A」 著者: 山口 清 発行所: 数研出版</p> <p>白チャート 基礎と演習「数学 II」 著者: 山口 清 発行所: 数研出版</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験 15%、前期末試験 15%、後期中間試験 15%、学年末試験 15%、その他授業中に行うテスト (課題テスト・小テスト等) 15%、レポート 15%、授業への取り組み 10% で評価し、総合評価 50 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に即した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。</p>
オフィスアワー	<p>授業日の 16:00 ~ 17:00</p>

教科目名: 化学

( Chemistry )

担当教員: 上 條 利 夫

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要

物質の構造・状態・変化の基礎知識を理解する。具体的には様々な化学反応を化学式を用いて表し、反応の量的関係をつかみ、反応を深く理解できるようにする。また、実験を通して注意力、観察力、判断力を磨き、工学的素養を涵養する。

関連科目: 数学、化学(2年)

授業内容		(W)	達成目標
前期中間	1. 物質の研究	(3)	1. 混合物, 化合物, 単体の分類ができる。また, 分離の方法と仕組みを理解する。ワインを蒸留すると何が得られるか調べる。 2. 原子の構造と周期表の関係, 周期表の性質を理解する。粒子の結びつき(イオン結合, 共有結合, 金属結合)や性質から物質の性質を理解する。
	2. 原子・イオン・分子	(4)	
	前期中間試験	(1)	
前期末	3. 物質と化学反応式	(3)	3. 原子量と分子量・式量の関係を理解する。化学反応式と物質量の関係を理解する。 4. 反応熱, 熱化学方程式, 反応熱とエネルギーについて理解し, ヘスの法則の計算問題が解ける。 5. 酸・塩基の定義や性質および分類について学理解する。また, 日常生活や自然の中の酸・塩基について調べ, 酸・塩基の理解を深める。
	4. 化学反応と熱	(2)	
	5. 酸と塩基(1)	(2)	
	前期末試験	(0)	
後期中間	6. 酸と塩基(2)	(3)	6. 中和反応について, 中和滴定の実験を通して理解を深める。 7. 電子のやりとりに注目した酸化還元反応について理解する。金属のイオン化傾向について理解し, 電池の仕組みや電気分解について理解する。
	7. 酸化還元反応	(4)	
	後期中間試験	(1)	
後期末	8. 気体・液体・固体	(2)	8. 粒子間に働く力と融点・沸点の関係を理解する。 9. 気体の状態方程式, 分圧の法則を用いた計算が解ける。気体の状態方程式, 分圧を用いて圧力を算出する。 10. 溶解度の計算ができる。沸点上昇, 凝固点降下, 浸透圧について理解する。
	9. 気体の性質	(2)	
	10. 溶液	(3)	
	後期末試験	(0)	

合計 30 週

教科書	書名: 化学 I 新訂版 化学 II 新訂版	著者: 井口洋夫他 井口洋夫他	発行所: 実教出版(株) 実教出版(株)
参考書	書名: アクセスノート化学 I サイエンスビュー 化学総合資料	著者: 実教出版編集部 実教出版編集部	発行所: 実教出版(株) 実教出版(株)
評価方法と基準	試験4回(51%) (内訳: 前期中間試験(12%), 前期末試験(12%), 後期中間試験(13%), 後期末試験(14%)), 単元別テスト(20%), 実験レポート(20%), 授業・実験態度(9%)で総合評価する。総合評価50点以上を合格とする。試験問題は教科書の問題(章末問題を含む)レベルとし, 問題集からも出題する。単元別テスト対策としては問題集を解いておくこと。		
オフィスアワー	講義実施日の16:00 ~ 17:00		

教科目名: 音楽 ( Music )

担当教員: 山澤陽子

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要

1. 音楽の諸活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き創造的な表現と鑑賞の能力を高める。
2. 音楽文化についての理解を深め尊重する態度を育てるとともに、幅広い国際的な感覚を身につける。

関連科目: 歴史、地理、国語、英語、ドイツ語

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. 「校歌」 歌詞の思いを感じ取り、表現を工夫する (3)	1. 詩の内容を理解し、愛校心と高専生としての誇りを持って高らかに歌いあげる。 2. 明るく伸びやかなカンツオーネの雰囲気を楽しむ。 3. オペラの華やかな雰囲気を楽しむ。 4. オーケストラの色彩豊かな響きを楽しむ。
	2. イタリアの音楽 「O Sole mio」 旋律の流れを生かしなめらかな表現を工夫する イタリア語の特徴を生かした原語唱 (3)	
	3. オペラ「カルメン」 (2) 物語のあらすじと総合芸術としてのオペラの理解 前奏曲 アリア 重唱曲 合唱曲の鑑賞	
	4. 組曲「展覧会の絵」 作者と編曲者、楽曲の理解 (2) オーケストラの楽器の理解・ピアノ演奏との比較	
前期末	5. ポピュラー音楽 「Yesterday」 (3) ビートルズについての理解 歌詞の理解と原語唱・コードの理解と演奏	5. コード進行を感じながらビートに載ってポピュラーソングを楽しむ。 6. 曲の魅力を引き出し楽しく演奏できるアレンジに挑戦してみる。
	6. ヴォイスアンサンブル1 (2) 選曲 曲のイメージづくり 担当決め アレンジ (設定コードをもとに、コーラスベース・パーカッションの各パートづくり) (前期末試験) (0)	
	7. ヴォイスアンサンブル2 (3) ペア・グループでのアンサンブルの練習 パート間のバランスの工夫・発表会	
後期中間	8. 交響曲第九番合唱付 (3) 作曲者の生涯と楽曲についての理解 古典派音楽からロマン派音楽への 移り変わり時代背景の理解 < An Die Freude > 歌詞の理解と原語による合唱	7. ハーモニーを感じながら演奏を楽しむ。 8. 歓喜に満ちた合唱曲を味わいドイツ語で歌ってみる。
	9. ドイツ楽曲「Heidenroslein」 作詞者と歌詞の内容についての理解、シューベルトの音楽の特徴の理解と原語唱 (3)	
後期末	10. 日本歌曲 「この道」 作詞者・作曲者についての理解 (2) 楽曲の特徴についての理解と歌詞唱	9. 詩と旋律との絶妙なバランスを感じ取りながら表現を工夫する。 10. 旋律と言葉の抑揚を生かした表現を工夫する。 11. オーケストラと和楽器とが織りなす独特な世界を味わってみる。 12. 伝統音楽と近代以降の日本の音楽の歩みを知る。
	11. 「November steps」 鑑賞 琵琶・尺八の音色と表現効果を感じとる。 (2) 和楽器とオーケストラが融合した響きを感じとる	
	12. 日本の作曲家と作品についての理解 (2) (後期末試験) (0)	

合計 30 週

教科書	書名: 高校生の音楽 I	著者: 畑中良輔 ほか 8 名	発行所: 教育芸術社
参考書	書名: New Music Note	著者: 教芸音楽研究グループ	発行所: 教育芸術社
評価方法と基準	各学期ごとに、学習態度 20% (授業への取り組み姿勢・表現活動での練習態度・提出物の状況) 期末試験 80% を基本にして総合的に評価する。		
オフィスアワー	授業の前後		

教科目名: 保健・体育 (保健)

( Health Education )

担当教員: 本 間 浩 二

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>社会の変化にともなって、我々の健康や安全に関わる問題も変化している。生涯を通じて心身の健康を保持増進していくためには、適切な生活行動の選択と実践、そして我々をとりまく環境を改善する努力が必要である。1年保健では、健康問題に適切に対応できるようにするために、必要な知識の獲得と、それら知識を自分自身の生活に結びつけ、実践できる態度を養うことをねらいながら授業を進めていく。</p> <p>関連科目: 体育実技、現代社会、生物</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中間</p> <p>1. 健康の考え方と日常の生活行動 (5)</p> <p>1) わが国の健康水準</p> <p>2) 健康のとらえ方</p> <p>3) 健康と意志決定・行動選択</p> <p>4) 日常の生活行動と生活習慣病</p> <p>2. エイズとその予防 (1)</p>	<p>1. 健康の概念を理解し、健康問題を正確にとらえ、適切な対処の在り方について認識を深める。</p> <p>1) 現在の健康水準や病気の傾向について理解する。</p> <p>2) 健康のとらえ方や考え方の変化について知る。</p> <p>3) 適切な意志決定と行動選択の重要性について理解する。</p> <p>4) 生活習慣と健康の関わりについて理解を深める。</p> <p>2. エイズとその現状と対策についての知識を得て、実生活に活かすことができる。</p>
<p>前期 末</p> <p>3. 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 (4)</p> <p>4. 応急手当 (5)</p> <p>1) 応急手当の意義とその基本</p> <p>2) 心肺蘇生法</p> <p>3) 日常的な応急手当</p> <p>(前期末試験) (0)</p>	<p>3. 現代社会で一生を健康に過ごすため、喫煙・飲酒・薬物乱用などの問題に適切に対応する必要性を知る。</p> <p>4. 事故や災害に対応するために必要な知識、手順・方法について理解を深める。</p> <p>1) 応急手当の意義と手順について理解を深める。</p> <p>2) 心肺蘇生法の意義と原理について知識を得る。</p> <p>3) 日常的な応急手当の方法について理解を深める。</p>
<p>後期 中間</p> <p>5. 精神の健康 (2)</p> <p>1) 欲求と適応機制</p> <p>2) 心身の相関とストレス (2)</p> <p>3) 自己実現 (1)</p> <p>6. 生涯の各段階における健康 (2)</p> <p>1) 思春期における心身の発達と健康</p>	<p>5. 我々の健康状態は、心身の調和によって成り立つことを知る。</p> <p>1) 人間の持つ様々な欲求と適応機制の働きを知る。</p> <p>2) 心と体の関わりとストレス対処について理解する。</p> <p>3) 自己実現と心の健康との関わりについて理解を深める。</p> <p>6. 生涯の各ライフステージにおける特徴的な健康課題とそれぞれに応じた健康づくりの考え方について理解を深める。</p> <p>1) 思春期における心身の発達過程について理解を深める。</p>
<p>後期 末</p> <p>2) 性意識と性行動の選択 (2)</p> <p>3) 健康な結婚生活 (2)</p> <p>4) 妊娠・出産と健康 (2)</p> <p>5) 家族計画と人工妊娠中絶 (2)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>6.</p> <p>2) 性意識の男女差と性的欲求についての知識を得て、適切な性行動の選択ができるようにする。</p> <p>3) 結婚・家庭生活と家族の健康の在り方について理解を深める。</p> <p>4) 妊娠・出産に関わる理解を深め、将来の家庭生活への実践につなげる。</p> <p>5) 家族計画の意義と避妊法について理解を深める。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 新保健体育 著者: 発行所: 大修館書店</p>
参考書	<p>書名: 学習内容に則したワークシート 著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>授業中のプリント書き込み状況 20% (授業に望む態度・姿勢を考慮)、前期末試験 40%、学年末試験 40%とし、総合的な評価を行う。</p> <p>なお、各試験については、授業で使用したワークシートから内容を精選し出題することとする。</p>
オフィスアワー	<p>講義日の 12:30~13:00、または 16:00~17:00</p>

教科目名: 保健・体育 (体育)

( Physical Education )

担当教員: 伊藤堅治・本間浩二

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>各種運動の実践を通して、運動技能を高めると同時に、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。また、自己の体調を整え、体力の向上を図りながら、公正、協力、責任などの社会的態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。武道(柔道)では、伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。</p> <p>関連科目: 保健、生物、現代社会</p>	
授業内容	達成目標
<p>1. 選択制種目 (5)</p> <p>1) ソフトボール</p> <p>2) バスケットボール</p> <p>3) ソフトバレー</p> <p>4) 卓球</p>	<p>1. - 1) ~ 3)</p> <p>・各種目の基本技術を習得するとともに、基本的ルールを理解し、簡易ゲームができる。</p> <p>・自己の能力に応じ、楽しみながら意欲的にゲームに参加できる。</p>
<p>2. 柔道 (前期 1 5 時間実施)</p> <p>3. ソフトボール (雨天時はバスケットボール) (6)</p> <p>4. スポーツテスト (4)</p>	<p>2. 柔道の基本動作(礼法・体捌き・組み方・補助運動・受け身)ができる。</p> <p>3. 種目特性を理解して、基本技術を習得するとともに、自己の能力に応じ、楽しみながらゲームに参加できる。</p> <p>4. 新体力テストの結果から、自己の身体能力の特性を把握し、向上・改善のための努力ができる。</p>
<p>5. 球技</p> <p>1) ソフトボール (3)</p> <p>2) サッカー (3)</p> <p>(室内で行う場合はフットサル)</p> <p>3) バスケットボール (3)</p>	<p>5. - 1) ~ 3)</p> <p>・種目の特性を理解し、基本技能を活用しながら、楽しく意欲的に競技や練習に向かうことができる。</p> <p>・競技マナーや競技規則を守り、公正な態度でゲームに参加することができる。</p> <p>・場所や人数の変化に応じて競技の仕方、あるいは戦術を工夫して攻防の展開ができる。</p> <p>・安全に配慮した用具・器具の使い方や練習方法を習得する。</p>
<p>4) バレーボール (3)</p> <p>(ソフトバレーボール)</p> <p>5) 卓球・バドミントン (3)</p> <p>※それぞれの時数配分としては、上記の通りだが、複数種目を同時に行ったり、天候等に応じて種目を設定するなど、臨機応変な内容設定とする。</p>	<p>5. - 4) ~ 5)</p> <p>・種目の特性を理解し、基本技能を活用しながら、楽しく意欲的に競技や練習に向かうことができる。</p> <p>・競技マナーや競技規則を守り、公正な態度でゲームに参加することができる。</p> <p>・場所や人数の変化に応じて競技の仕方、あるいは戦術を工夫して攻防の展開ができる。</p> <p>・安全に配慮した用具・器具の使い方や練習方法を習得する。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: Active Sports</p> <p>著者:</p> <p>発行所: 大修館書店</p>
参考書	<p>書名:</p> <p>著者:</p> <p>発行所:</p>
評価方法と基準	<p>各種目毎に、個人的技能、集団的技能の到達度、競技ルール規則等の理解について、それぞれの競技特性に応じた観点から評価し、点数化する。その際、日常の取り組みの様子についての評価を含め学期を通しての総合的な評価になるように配慮する。出欠席状況を含む参加態度 20%、実技到達度 80%とする。また、学期内に授業で取り上げた種目数が複数の場合は、それぞれの点数の合計を種目数で割り、学期の実技点数とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義日の 12:30~13:00、または 16:00~17:00</p>

教科目名: 国 語

( Japanese )

担当教員: 大河内 邦 子

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>本授業は、他者とのコミュニケーションの基本となる日本語能力の、総合的な向上を図る。具体的には、情報を正確に受け取る力すなわち「聞く能力」および「読む能力」と、情報を正確に伝達する力すなわち「書く能力」および「話す能力」の、基礎力を育成することを目標とする。課題提出・小テストは目標達成のため、適宜行う予定である。なお実際の授業の展開上、授業の順序・内容を変更することもあるが、その都度口頭で指示する。</p> <p>関連科目: 倫理、地理、歴史</p>	
授業内容	達成目標
<p>前期中間</p> <p>1. 話す聞く 「スピーチ」 (1)                  2. 「隣の校庭」 話す聞く・書く 「聞き書き」 (2)                  3. 「とんかつ」 (1)                  4. 「おカネでは買えぬもの」 (1)                  5. 『語彙・言葉の意味』 I 四級問題 (1)                  (前期中間試験) (1)</p>	<p>1. コミュニケーションに必要な「話す・聞く」ことの基本姿勢を学び実践する。                  2. 随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方、表現の仕方を読み取る。自分のものの見方による「随想」を書く。具体的には、校外研修時に訪れる各所について予習し、関係者にインタビューをしたことも書き込む。                  3. 小説の文章に親しみ、情景や人物の心情を、表現に即して読み味わう。                  4. 発想のユニークさに注意し、論旨を理解する。                  5. 『語彙・言葉の意味』の四級問題を学び、身につける。</p>
<p>前期末</p> <p>6. 「青春のうた」等 (3)                  7. 「沖縄の手記から」 (2)                  8. 書く 「通知と案内」 (2)                  9. 『語彙・言葉の意味』 II 三級問題 (1)                  (前期期末試験) (0)</p>	<p>6. 優れた短歌・俳句を読み味わい、鑑賞力を養う。俳句賞に入選してきた本校学生の作品に親しみ、俳句の実作をする。                  7. 長い小説を読む。歴史の中に巻き込まれた人間の姿を見つめ、生き方について考える。                  8. 手紙の基礎知識を学び、目上の人への手紙を書く。                  9. 『語彙・言葉の意味』の三級問題を学び、身につける。</p>
<p>後期中間</p> <p>10. 「説話に親しむ」 (2)                  11. 「羅生門」等 (3)                  12. 「シーソー」 (1)                  13. 『語彙・言葉の意味』 III 二級問題 (1)                  (後期中間試験) (1)</p>	<p>10. 古文を読む基礎を学び、説話のおもしろさを通して古文の世界に親しむ。                  11. 小説の主題をとらえ、虚構のしくみを考える。同時に、人間の心理について考えを深める。「羅生門」以外の芥川龍之介の短編小説を読み、心を捉えられた一行を取り出して、感想文を書く。                  12. 筆者の生き方や考え方に触れて、社会や文化、人生について考える。                  13. 『語彙・言葉の意味』の二級問題を学び、身につける。</p>
<p>後期末</p> <p>14. 「漢文に親しむ」 (3)                  15. 「爆弾のような問い」 (2)                  16. 書く 「意見文」等 (1)                  17. 『語彙・言葉の意味』 IV 一級問題 (1)                  (学年末試験) (0)</p>	<p>14. 漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解する。格言や故事を読み、漢文の世界に親しむ。                  15. 文章の構成・展開を理解し、論旨を的確に捉える。                  16. 1年間の学習を振り返り、コミュニケーションのあり方について再検討する。他者理解を深めた上で、自分の考え、意見・主張を論理的に述べる文章を書く。                  17. 『語彙・言葉の意味』の一級問題を学び、身につける。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 新編国語総合                  語彙・言葉の意味</p> <p>著者: 小町谷照彦ほか                  栗又正博ほか</p> <p>発行所: 東京書籍                  東京書籍</p>
参考書	<p>書名: 任意の国語辞典・電子辞書を用意する。                  図書館使用の学習の折に指示する。</p> <p>著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>授業への取り組み姿勢 10 %、随時行うレポート・課題の提出状況 10 %、前期中間試験 20 %、前期末試験 20 %、後期中間試験 20 %、学年末試験 20 %の配分を基本に、到達度を総合的に評価する。各試験においては、到達目標に即した内容を出題する。試験問題のレベルは、教科書および授業内容と同程度とする。</p>
オフィスアワー	授業日の放課後

教科目名: 英語 I

( English I )

担当教員: 田邊英一郎・畑江美佳

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要		
限られた時間で英語を効果的に学習するには英文法の知識は必要不可欠です。この授業では、中学で学習したことを復習しながら、これから本格的に英語を身につける土台としての英文法を勉強します。併せて、単語力養成のため、英単語集を用いた学習も行なっていきます。		
関連科目: 英語 II、語学演習、工業英語		
授業内容	(W)	達成目標
前期 中間	(1) 動詞と時制 (1) (2) 動詞と時制 (2) (3) 動詞と時制 (2) (4) 完了形 (1) (5) 完了形 (2) (6) 助動詞 (1) (7) 『音読英単語 Section 1-6』	(1) 現在形、現在進行形の基本的な形式と意味が理解できる。(2) 過去形、過去進行形の基本的な形式と意味が理解できる。(3) 未来を表すさまざまな表現の基本的な形式と意味が理解できる。(4) 現在完了形の基本的な形式と意味が理解できる。(5) 過去完了形の基本的な形式と意味が理解できる。(6) さまざまな助動詞の意味が理解できる。(7) 基本 150 語を、音読を通して暗誦し、運用ができるようになる。
	前期中間試験 (1)	
前期 末	(8) 助動詞 (2) (9) 態 (1) (10) 態 (2) (11) 不定詞 (1) (12) 不定詞 (2) (13) 不定詞 (3) (14) 『音読英単語 Section 7-12』	(8) さまざまな助動詞の意味が理解できる。(9) 受動態の基本的な形式と意味が理解できる。(10) さまざまな形の受動態の基本的な意味が理解できる。(11) 不定詞の名詞的用法と形容詞的用法の基本的な形式と意味が理解できる。(12) 不定詞の副詞的用法の基本的な形式と意味が理解できる。(13) 不定詞の否定語の位置が理解できる。「使役動詞/知覚動詞+不定詞」構文の基本的な形式と意味が理解できる。(14) 基本 300 語を、音読を通して暗誦し、運用ができるようになる。
	前期末試験 (0)	
後期 中間	(15) 動名詞 (16) 分詞 (1) (17) 分詞 (2) (18) 分詞 (3) (19) 比較 (1) (20) 比較 (2) (21) 『音読英単語 Section 13-18』	(15) 動名詞の基本的な形と意味が理解できる。(16) 現在分詞、過去分詞の基本的な形式と意味が理解できる。(17) 分詞を用いたさまざまな表現の基本的な形式と意味が理解できる。(18) 分詞構文の基本的な形式と意味が理解できる。(19) 原級、比較級、最上級の基本的な形式と意味が理解できる。(20) 原級や比較級を用いた比較表現の基本的な形式と意味が理解できる。(21) 最上級を用いた比較表現の基本的な形式と意味が理解できる。(21) 基本 450 語を、音読を通して暗誦し、運用ができるようになる。
	後期中間試験 (1)	
後期 末	(22) 関係詞 (1) (23) 関係詞 (2) (24) 関係詞 (3) (25) 仮定法 (1) (26) 仮定法 (2) (27) 『音読英単語 Section 19-24』	(22) 関係代名詞の基本的な用法が理解できる。(23) 前置詞+関係代名詞、関係代名詞 what の基本的な用法が理解できる。関係代名詞の限定用法と継続用法の形式や意味の違いが理解できる。(24) さまざまな関係副詞の基本的な用法が理解できる。(25) 仮定法過去、仮定法過去完了の基本的な形式と意味が理解できる。(26) 仮定法を用いたさまざまな表現の基本的な形式と意味が理解できる。(27) 基本 600 語を、音読を通して暗誦し、運用ができるようになる。
	学年末試験 (0)	
合計 30 週		
教科書	書名: Framework English Grammar 音読英単語 Stage 1	著者: 桐原書店編集部 Z 会編集部
参考書	書名: スーパー・アンカー英和辞典 (最新版)	著者: 発行所: 桐原書店 Z 会 学研
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 20%、後期中間試験 15%、学年末試験 20%、小テストもしくは提出物 15%、授業への取り組み 15% で総合的に評価する。	
オフィスアワー	授業実施日の放課後。それ以外でも申し出があれば随時対応する。	

教科目名: 英語 I

( English I(Communication Workshop) )

担当教員: 原 京子

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要

The purpose of this course is to give you the opportunity to continue using and increasing the English you have learned at Junior High School. To stimulate your interest in the culture from which the language has been formed and how to use the language in all sorts of real every day situations.

関連科目: 英語 II

	授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	Getting to know each other, Classroom English (2) Meeting people (2) Interesting places (2) Routines and times (2)	Introducing oneself and responding. Greetings, giving opinions, talking about their lifestyles and interesting places.
前期 末	Food and meals (2) Occupations (2) Going places (3)	Students should be able to use their English, in simple conversations such as, ordering food and drink, future occupations and giving directions.
後期 中間	Home life (2) Possessions (2) Enjoying the outdoors (3)	Students should be able to use their English, in simple conversations with increasing confidence. Such as, asking permission, talking about outdoor activities.
後期 末	Shopping (2) Tourism (3) Biographies (3)	Students will learn the vocabulary to be able to travel and buy things in a foreign country and talk about their information about themselves.

合計 30 週

教科書	書名: JOIN IN Student book 1	著者: Jack C. Richards Kerry O'sullivan	発行所: Oxford
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	Presentations, speeches, or quizzes 40% Participation in class work 40% Homework 20%		
オフィスアワー	12:30~13:00 in course day		

教科目名: 英語 II

( English II )

担当教員: 阿部 秀樹

学年・学科/専攻名: 1 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要

英語で聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いて伝えたりするための、基本的な能力を養います。友情、異文化、環境、先端技術、職業、平和などの幅広いジャンルの題材に関心と問題意識を持ち、広い視野と豊かな教養を身につけるべく内容を深く味わいたいと思います。さらに、さまざまなコミュニケーション・スキルに触れ、授業や日常において、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけるように努めます。

関連科目: 英語 I、語学演習、工業英語

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	Lesson 1 We Have Hopes and Dreams-J U ST LIKE YOU! (3)	・基本文型 ①(S+V, S+V+C, S+V+O)、基本文型 ②(S+V+O+O, S+V+O+C) ・現在進行形/過去進行形 ・S+V (+O) +O (=how など +to+ 動詞の原形) ・現在完了 などの文法事項を理解し、文章を読解できるようになる。授業中、教員やクラスメイトと積極的に英語でコミュニケーションをとることができる。
	Lesson 2 We Love Ice Cream (2)	
	前期中間試験 (1)	
前期末	Lesson 3 We Make Friends through Cambodian Dances (3)	・受け身 ・不定詞 ① (名詞的用法) ・分詞の形容詞的用法 (現在分詞) ・分詞の形容詞的用法 (過去分詞) ・S+V (+O) +O (=that 節) ・不定詞 ② (形容詞的用法) ・動名詞 ・不定詞 ③ (副詞的用法) ・It is + ~ (for ~) + to 不定詞 などの文法事項を理解し、文章を読解できるようになる。授業中、教員やクラスメイトと積極的に英語でコミュニケーションをとることができる。
	Lesson 4 The Story of a Little Wooden Flute (3)	
	Lesson 5 A Flying Wheelchair (3)	
	前期末試験 (0)	
後期中間	Lesson 6 The Most Beautiful Sight in the World (3)	・比較級 ・最上級 ・関係代名詞 ①(who) ・S+V (+O) +O (=what などで始まる節) ・関係代名詞 ②(what) などの文法事項を理解し、文章を読解できるようになる。授業中、教員やクラスメイトと積極的に英語でコミュニケーションをとることができる。
	Lesson 7 The Role of Zoos (2)	
	後期中間試験 (1)	
後期末	Lesson 8 Color Associations (3)	・S+V+O+C (=動詞の原形) ・S+V+O+C (=現在分詞) ・S+V(+O)+C (=if / whether 節) ・現在完了進行形 ・助動詞を含む受け身 ・比較を使った倍数の表現 ・S+V+O+C (=過去分詞) ・seem + to 不定詞 ・過去完了 ・It + be 動詞 + 形容詞 + that 節 などの文法事項を理解し、文章を読解できるようになる。授業中、教員やクラスメイトと積極的に英語でコミュニケーションをとることができる。
	Lesson 9 A Plastic That Returns to the Earth (3)	
	Lesson 10 What is Meaningful International Cooperation? (3)	
	学年末試験 (0)	

合計 30 週

教科書	書名: WORLD TREK English Course I	著者: 浅羽亮一他	発行所: 桐原書店
参考書	書名: 高校総合英語 Forest	著者: 石黒昭博監修	発行所: 桐原書店
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 20%、後期中間試験 15%、学年末試験 20%、提出物および小テスト 15%、授業への取り組み 15% で総合評価する。		
オフィスアワー	授業日の放課後 (16:00 ~ 17:00)		

教科目名: 歴史 I

( History I )

担当教員: 山田充昭・山内清

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

**授業の概要**  
 古代から近代にいたる日本歴史の流れを把握し、外国史とも比較しながら、日本政治史・社会史の独自性を認識する。また、その歴史的経緯が現代の日本社会にいかなる影響をおよぼしているのかを考察する。  
 歴史用語や人名の暗記に終始するのではなく、例えば、「承久の乱はなぜおこったのか?」、「太閤検地の結果社会はどのように変わったのか?」というように、歴史事象間の因果関係を理解するよう心掛ける。  
 関連科目: 歴史 II、国際政治

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	世界の原始文明と日本 (1) 日本文化の誕生 (旧石器・縄文・弥生時代史) (2) 大和朝廷の出現 (古墳・飛鳥・白鳳時代史) (3)	○原始社会を飛躍的に発展させる農耕・牧畜が、日本では外国に比して遅れていたことを理解できる。 ○大和朝廷の内政・外交は、中国王朝の影響を強く受けていたことを理解できる。
	前期中間試験 (1)	
前期末	律令社会の諸相 (奈良時代史) (3) 貴族政治の展開と武士の出現 (平安時代史) (3) 武士政治の成立 (鎌倉時代史) (2)	○天皇との外戚関係に留意して、貴族政治の本質を把握できる。また、当時の都と地方の関係を理解できる。 ○朝廷と幕府の関わり方や、外国と日本の関係に注目して、鎌倉幕府興亡のながれを理解することができる。
	武士政治の展開 (南北朝・室町時代史) (3) 支配階級の再編成 (戦国時代史) (1) 織豊政権の構造 (安土・桃山時代史) (3)	○朝廷・室町幕府・大名・国人等の動向を認識して、支配階級の再編成があったことを理解できる。 ○日本再統一を実現させた政治・経済・社会政策の内容を把握できる。また、西洋文明がおよぼした日本政治・社会への影響を理解することができる。
	後期中間試験 (1)	
後期末	幕藩体制の確立 (江戸時代史前半) (2) 近代化のはじまり (江戸時代史後半) (2) 武士社会の終焉 (明治維新史) (1) 脱亜の理論 (明治外交史) (2)	○当時の外圧と日本社会の変革・発展との因果関係を理解することができる。 ○日本のアジア侵略の端緒を理解することができる。

合計 30 週

教科書	書名: 高校日本史改訂版 世界の歴史 改訂版	著者: 石井進他 柴田三千雄他	発行所: 山川出版社 山川出版社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	授業への取り組み姿勢 20 %、提出物の提出状況および内容 10 %、前期中間試験 15 %・前期末試験 15 %・後期中間試験 15 %・学年末試験 25 %をもとに総合的に評価する。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは、板書、授業ノートと同程度とする。		
オフィスアワー	授業実施日の 15 : 40 ~ 16 : 40		

授業の概要		
<p>数列・極限值・微分法・積分法についての基本的概念を理解させ、それらを的確に活用できる能力を身数に付けさせる。問題を数多く解くことによって、知識の定着をはかり、応用力を鍛える。演習、レポート、小テストなどによって、理解を深め、思考力と計算力をたかめる。</p>		
<p>関連科目: 数学 I (1 年)、数学 I (3 年)</p>		
	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. 数列 (1) 等差数列・等比数列 (2) (2) いろいろな数列 (1) (3) 無限数列 (1) (4) 無限級数とその和 (1) 2. 微分法 (1) (1) 関数の極限 (1)	・等差数列・等比数列の一般項を求めることができる。 ・等差数列・等比数列の和の公式を使うことができる。 ・総和記号 $\Sigma$ を使う計算ができる。 ・無限数列の極限值と無限級数の和を求めることができる。 ・関数の極限の意味を理解し、極限值を求めることができる。
	(前期中間試験) (1)	
	前期末	(2) 微分係数 (1) (3) 導関数 (1) (4) 関数の増減 (1) (5) 極値 (1) (6) 最大・最小 (1) (7) 積と商の導関数 (2)
(前期末試験) (0)		
後期中間		(8) 合成関数の導関数 (1) (9) いろいろな関数の導関数 (2) 無理関数・対数関数・指数関数・三角関数 (10) 導関数の応用 (2) 方程式・不等式・接線・法線 3. 積分法 (1) (1) 不定積分 (1)
	(後期中間試験) (1)	
	後期末	(2) 不定積分における置換積分・部分積分 (2) (3) 定積分 (2) (4) 定積分における置換積分・部分積分 (2) (5) 面積 (1) (6) 体積 (1)
(学年末試験) (0)		
合計 30 週		
教科書	書名: 新編 高専の数学 2 第 2 版 新編 高専の数学 2 問題集 第 2 版	著者: 田代嘉宏・難波完爾 田代嘉宏
参考書	書名: 白チャート 基礎と演習 「数学 A」 白チャート 基礎と演習 「数学 II」	著者: 山口 清、小西 岳 山口 清、小西 岳
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 15%、後期中間試験 15%、学年末試験 15%、随時行う小テスト 15%、レポート 15%、授業への取り組み 10%をもとに達成度を総合評価し、50点以上を合格とする。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは板書と同程度とする。	
オフィスアワー	授業日の 16:00 ~17:00	

授業の概要	
<p>まず、2次曲線の基本について学習する。また、不等式と領域についても学ぶ。次に、ベクトルについて学ぶ。はじめは、成分表示は使わず、平面と空間の区別をせずに、ベクトルの演算について学習する。そのあとに成分表示を使って、平面と空間の場合に分けて学習する。問題演習によって知識の定着をはかり、応用力を身につける。レポート・小テストなどにより理解を深め、計算力・思考力を高める。</p> <p>関連科目: 数学 I (1年・2年)、数学 II (1年)</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>1. 平面図形                      (1) 2次曲線 (2)                      (2) 2次曲線と直線の関係 (1)                      (3) 不等式と領域 (2)</p> <p>2. ベクトル                      (1) ベクトルの定義 (1)</p> <p>(前期中間試験) (1)</p>	<p>1. 平面図形                      (1) 2次曲線の標準形のグラフが描ける。                      (2) 2次曲線と直線の位置関係がわかる。                      (3) 不等式の表す領域が図示できる。</p> <p>2. ベクトル                      (1) ベクトルの定義が分かる。</p>
<p>(2) ベクトルの演算 (2)                      (3) 内分点の位置ベクトル (1)                      (4) ベクトルの内積 (2)</p> <p>3. 平面ベクトル                      (1) 平面ベクトルの成分表示 (1)                      (2) 平面ベクトルの内積 (2)</p> <p>(前期末試験) (0)</p>	<p>(2) ベクトルの和・差・実数倍が計算でき図示できる                      (3) 内分点の位置ベクトルを求めることができる。                      (4) 内積の定義と性質が分かる。内積を使って平行四辺形の面積を求めることができる</p> <p>3. 平面ベクトル                      (1) 成分表示されたベクトルの和・差・実数倍やその大きさを求めることができる。                      (2) 内積を成分で計算できる。2つのベクトルのなす角を求めることができる。</p>
<p>(3) 平面の直線の方程式 (3)                      (4) 点と直線の距離 (2)                      (5) 円の方程式</p> <p>4. 空間ベクトル                      (1) 空間の座標と空間ベクトルの成分表示 (2)</p> <p>(後期中間試験) (1)</p>	<p>(3) 直線のベクトル方程式・媒介変数方程式・普通の意味での方程式を求めることができる                      (4) 点と直線の距離を求めることができる。                      (5) 円の方程式が求められ、意味が理解できる。</p> <p>4. 空間ベクトル                      (1) 成分表示された空間ベクトルの和・差・実数倍およびその大きさを求めることができる。</p>
<p>(2) 空間ベクトルの内積 (1)                      (3) 空間直線の方程式 (2)                      (4) 平面の方程式 (2)                      (5) 球面の方程式 (2)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>(2) 内積を成分で計算できる。2つの空間ベクトルのなす角を求めることができる。                      (3) 直線のベクトル方程式・媒介変数方程式・普通の意味での方程式を求めることができる。                      (4) 平面の方程式と点と平面の距離が求められる。                      (5) 球面の方程式を求めることができる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 新編 高専の数学 1, 2 第2版 著者: 田代嘉宏・難波完爾 発行所: 森北出版                      新編 高専の数学 1, 2 問題集 第2版 著者: 田代嘉宏 発行所: 森北出版</p>
参考書	<p>書名: チャート式 基礎と演習 「数学 III+C」 著者: 山口 清 発行所: 数研出版                      チャート式 基礎と演習 「数学 B」 著者: 小西 岳 発行所: 数研出版</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験 15%, 前期末試験 15%, 後期中間試験 15%, 学年末試験 15%, その他授業中に行うテスト (小テスト等) 15%, レポート 15%, 授業への取り組み 10% で評価し、総合評価 50 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。</p>
オフィスアワー	<p>授業日の 16:00 ~ 17:00</p>

教科目名: 物 理

( Physics )

担当教員: 岡崎幹郎・吉木宏之

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( E )

授業の概要	
<p>科学技術の基礎となっている物理について、本校では『物理』および『応用物理』で学ぶ。2年生では、物理現象の最も基本的な「物体の運動」について、「運動の法則」や「力」などの基本事項、さらに「力学的エネルギー」を学び理解する。授業形態は、講義と問題演習および演示実験である。学習を通して、物理現象を系統的・論理的に捉える能力を養う。</p> <p>関連科目: 数学(1・2年)、物理(3年)、応用物理(3・4年)</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中間</p> <p>1. 学習ガイダンス 2. 運動の表し方 2-1. 直線運動の速度 (2) 2-2. 直線運動の加速度 (2) 2-3. 落体の運動 (2) (前期中間試験) (1)</p>	<p>2-1. 物体の運動の「速さ」と「速度」の違い、さらに「相対速度」を理解し、関連した問題が解ける。 2-2. 等加速度直線運動の公式を導くことができ、関連した問題が解ける。 2-3. 自由落下、鉛直投射、水平投射および斜方投射した物体の運動を理解し、関連した問題が解ける。</p>
<p>前期 末</p> <p>3. 運動の法則 3-1. いろいろな力 (2) 3-2. 力のつりあい (3) 3-3. 運動の法則 (3) (前期末試験) (0)</p>	<p>3-1. 重力、垂直抗力、弾性力とフックの法則、圧力、浮力について理解し、関連した問題が解ける。 3-2. 「力の合成・分解」や「力のつり合いの式」を理解し、関連した問題が解ける。 3-3. 「運動の3法則」を理解し、「運動方程式」を立ててそれを解ける。</p>
<p>後期 中間</p> <p>3-4. 摩擦の抵抗力を受ける運動 (2) 3-5. 剛体にはたらく力 (3) 4. 仕事と力学的エネルギー 4-1. 仕事 (2) (後期中間試験) (1)</p>	<p>3-4. 物体に働く「静止摩擦力・動摩擦力」を理解し、関連した問題が解ける。 3-5. 力のモーメントについて理解し、剛体のつり合いの式を立ててそれが解ける。さらに「剛体の重心」について理解し、関連した問題が解ける。 4-1. 物理や工学でいう「仕事」について理解を深め、関連した問題が解ける。</p>
<p>後期 末</p> <p>4-2. 運動エネルギー (2) 4-3. 位置エネルギー (2) 4-4. 力学的エネルギーの保存 (3) (学年末試験) (0)</p>	<p>4-2. 「運動エネルギー」および「運動エネルギーと仕事の関係」を理解し、関連した問題が解ける。 4-3. 「重力による位置エネルギー」や「弾性力による位置エネルギー」について理解し、関連した問題が解ける。 4-4. 「力学的エネルギー保存則」について理解し、関連した問題が解ける。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 高等学校 物理 I 著者: 國友正和 発行所: 数研出版</p>
参考書	<p>書名: 問題集「トライアル物理 I」 フォトサイエンス物理図録 著者: 数研出版編集部 数研出版編集部 発行所: 数研出版 数研出版</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験10%、前期末試験20%、後期中間試験15%、学年末試験25%、および(小テスト+レポート+授業に対する取組姿勢)30%で総合評価する。総合評価50点以上を合格とする。試験問題は各達成目標に則した内容で、問題のレベルは教科書の問題および問題集のA・B問題程度とする。</p>
オフィスアワー	<p>授業実施日の16:00~17:00</p>

教科目名: 化学 (ME) ( Chemistry )

担当教員: 小 泉 信 三

学年・学科/専攻名: 2 年 機械工学科・電気電子工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要	
無機物質や有機化合物の性質・特徴を理解し、産業や生活を通じて利用されていることを理解する。 化学 (科学の) の歴史を知り、環境と化学、科学技術等を考え工学的素養を涵養する。	
関連科目: 化学 (1 年)、数学	
授業内容 (W)	達成目標
前期中間	
前期末	
後期中間	1. 1 年次で学んだことを復習し、物質が人間生活に深いかわりをもつことから化学と人間生活の関係を理解し、今後の学習につなげる。 2. 非金属元素の性質を理解し、生活と関連づけて考える。 3. 典型金属元素の性質を理解し、生活と関連づけて考える。 4. 遷移金属元素の性質を理解し、生活と関連づけて考える。
後期中間試験 (1)	
後期末	5. 有機化合物の特徴を理解し、生活と関連づけて考える。 6. 炭化水素について理解し、生活と関連づけて考える。 7. 官能基を含む有機化合物を理解し、生活と関連づけて考える。 8. これまで学んだ知識から化学と環境、科学技術について考え、工学的素養を養う。
後期末試験 (0)	
合計 15 週	
教科書	書名: 新版化学 I 著者: 金網秀典他 発行所: 大日本図書 (株)
参考書	書名: プロジェ化学 I・II 著者: 大日本図書編集部 発行所: 大日本図書 (株)
評価方法と基準	中間試験 (35%)、期末試験 (35%)、課題レポート (20%)、実験レポート (5%)、平常点 (授業態度・ノート) (5%) の総合評価とする。総合評価 50 点以上を合格とする。 試験問題は教科書の問題程度とするが、配布するプリントを中心にし、自分で考えることも重視する。
オフィスアワー	授業の前後

教科目名: 化学(I) ( Chemistry )

担当教員: 上 條 利 夫

学年・学科/専攻名: 2 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要	
無機物質や有機物質の特徴・性質を理解し、産業や生活を通じて利用されていることを理解する。	
関連科目: 化学(1年)、数学	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	非金属元素の性質 (2) 典型金属元素の性質 (2) 遷移金属元素の性質 (2) 後期中間試験 (1)
後期 末	炭化水素 (2) 酸素を含む化合物 (3) 芳香族化合物 (3) 後期期末試験 (0)
合計 15 週	
教科書	書名: 新版化学 I 著者: 金網秀典他 発行所: 大日本図書(株)
参考書	書名: プロジェ化学 I・II 著者: 大日本図書編集部 発行所: 大日本図書(株)
評価方法と基準	中間試験(25%), 期末試験(26%), 単元別テスト(20%), 実験レポート(20%), 授業・実験態度(9%)で総合評価する。総合評価50点以上を合格とする。試験問題は教科書の問題(章末問題を含む)レベルとし、問題集からも出題する。単元別テスト対策には、問題集(プリント)を解いておくこと。
オフィスアワー	講義実施日の16:00~17:00

教科目名: 化学(B) ( Chemistry )

担当教員: 上 條 利 夫

学年・学科/専攻名: 2 年 物質工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要

化学反応の速度と速度を変える因子を理解し、実験を通して体験する。また、化学平衡と平衡移動の因子を理解し、実験を通して体験する。

関連科目: 数学、化学(1年)、物質工学科専門科目

授業内容		(W)	達成目標
前 期 中 間	化学反応の速さ	(2)	エネルギーの出入りと粒子の集合状態から化学変化の起こる向きを予測できる。
	反応速度と影響因子	(2)	濃度、温度と反応速度の関係を理解し、反応速度の計算問題が解ける。
	触媒	(2)	触媒の働きと触媒の利用について理解する。 実験では、反応条件を変え、反応速度の変化を測定する。
	(前期中間試験)	(1)	
前 期 末	可逆反応	(2)	逆反応と平衡状態の考えを理解する。
	平衡定数	(2)	平衡定数の作り方、利用法を理解する(酸塩基の電離定数、溶解平衡)。平衡定数の式が作れる。計算問題が解ける。
	化学平衡の移動	(2)	平衡移動の原理、物質合成への応用、平衡移動と平衡定数との関係を理解し、問題が解ける。
	水溶液中での平衡	(2)	平衡移動の実験では、実験結果から反応熱の正負を推測できるようにする。また、実験からルシャトリエの法則について確認する。
	(前期期末試験)	(0)	
後 期 中 間			
後 期 末			

合計 15 週

教科書	書名: 新版化学 II	著者: 金網秀典他	発行所: 大日本図書(株)
参考書	書名: プロジェ化学 I・II 問題集	著者: 大日本図書編集部	発行所: 大日本図書(株)
評価方法と基準	中間試験(25%), 期末試験(26%), 単元別テスト(20%), 実験レポート(20%), 授業・実験態度(9%)で総合評価する。総合評価50点以上を合格とする。試験問題は教科書の問題(章末問題を含む)レベルとし、問題集からも出題する。単元別テスト対策としては章末問題・問題集を解いておくこと。		
オフィスアワー	講義実施日の16:00 ~ 17:00		

教科目名: 生 物 ( Biology )

担当教員: 佐 藤 浩

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要	
自然科学の一分野である生物学の学習によって「生命現象」の”共通性”について理解を深める	
関連科目: 1年化学	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間 1. 細胞 1. 1. 細胞の構造と機能 (4) 1. 2. 細胞の増殖と生物体の構成 (2)  (前期中間試験) (1)	細胞の構造・機能、細胞の構造体の働きを理解する。 細胞分裂の仕組みと生物体の構成について理解する。
前期 末 2. 生殖と発生 2. 1. 生殖 (1) 2. 2. 発生 (1) 3. 遺伝 3. 1. 遺伝の法則 (3) 3. 2. 遺伝子と染色体 (3)  (前期期末試験) (0)	生命を受け継ぐしくみを理解する。 受精卵が個体になるしくみを理解する。  遺伝の基本的な法則を理解する。 遺伝子と染色体の関係について理解する。
後期中間	
後期末	
合計 15 週	
教科書	書名: 高等学校改訂生物 I 著者: 田中隆荘他 発行所: 第一学習社 (株)
参考書	書名: スクエア最新図解生物 著者: 発行所: 第一学習社
評価方法と基準	中間試験 (40%)、期末試験 (50%)、授業の取り組み態度 (10%)などを総合評価する。
オフィスアワー	授業の前後

教科目名: 美術

( Arts )

担当教員: 江川 満・江川てる子

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要

陶器製作の全行程を経験することによって、陶器というものを理解し、立体造形を通して観察力を高めさせる。さらに、絵画制作全般を通して日常の美に対する捉え方や感性を高めさせる。

関連科目:

		授業内容	(W)	達成目標
前期 中間		1. 土練り	(2)	1. 粘土の性質を知る。
		2. ひも作り	(4)	2. 立体造形における視点の置き所を掴む。
		3. 釉薬がけ	(2)	3. 陶器における色彩感覚を掴む。
前期 末		4. 土練り	(1)	4. 前回に引き続き粘土の性質を知る。
		5. 板作り	(3)	5. デザイン的造形の訓練。
		6. 釉薬がけ	(2)	6. 陶器における色彩感覚をつかむ。
		7. 電動ロクロ	(1)	7. その他の成型方法を見る。
後期 中間		8. 石膏デッサン	(5)	8. 絵画制作の基礎的表現方法 - デッサンを通して観察力を高め、対象をよりの確に捉え表現する方法を見につける。 9. 友達又は自画像 - 自画像(友達画)を描くことで自己を見つめ直し、表面上の形だけでなく内面(精神的)の表現を目指す。
		9. 人物画	(5)	
後期 末		10. 想像画	(5)	10. 一つのテーマを基にした心象表現 - 一つの"ことば"をテーマにして想像力を駆使し、1枚の絵に表現する。想像力が創造力につながる。

合計 30 週

教科書	書名: 美術 II	著者:	発行所: 光村図書
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	授業への取組み姿勢 (20%) と提出作品 (80%) により総合的に評価する。		
オフィスアワー			

教科目名: 保健・体育

( Health and Physical Education )

担当教員: 伊藤堅治・本間浩二

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
1 年次の授業を土台に、体力および運動技能の向上を図りながら、継続的に展開する。また、健康管理・事故防止に十分注意をはらいながら、多くの運動種目を取り入れ、運動に対する親しみや興味を深め、楽しく運動実践できるようにする。	
関連科目: 保健、生物、現代社会	
授業内容 (W)	達成目標
前期 1. 選択制種目 (5) 1) ソフトボール 2) バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 卓球 2. 選択制種目 1) ソフトボール (2) 2) ソフトバレーボール (2)	1. - 1) ~ 3) ・各種目の基本技術とルール理解度を高め、自主的にゲーム運営ができる。 ・チーム内における自己の役割を果たし、協力してゲームを楽しむことができる。また、場所や人数の変化に応じて競技の運営や戦術を工夫して攻防展開ができる。
前期末 3) 卓球 (2) 4) バスケットボール (2) 5) 水泳 (2) ※時数配分と内容については、学生の実態に則し、臨機応変な設定とする。	2. - 1) ~ 5) ・各種目の基本技術とルール理解度を高め、自主的にゲーム運営ができる。 ・チーム内における自己の役割を果たし、協力してゲームを楽しむことができる。また、場所や人数の変化に応じて競技の運営や戦術を工夫して攻防展開ができる。
後期中間 3. 球技 1) ソフトボール (3) 2) サッカー (2) (室内で行う場合はフットサル) 3) バスケットボール (2) 4) バレーボール (2) (ソフトバレー)	3. - 1) ~ 4) ・各種目の基本技術とルール理解度を高め、自主的にゲーム運営ができる。 ・チーム内における自己の役割を果たし、協力してゲームを楽しむことができる。また、場所や人数の変化に応じて競技の運営や戦術を工夫して攻防展開ができる。
後期末 5) 卓球 (2) 6) バドミントン (2) 4. スキー (2) ※時数配分と内容については、学生の実態に則し、臨機応変な設定とする。	3. - 5) ~ 6) ・各種目の基本技術とルール理解度を高め、自主的にゲーム運営ができる。 ・チーム内における自己の役割を果たし、協力してゲームを楽しむことができる。また、場所や人数の変化に応じて競技の運営や戦術を工夫して攻防展開ができる。 4. 自己の能力、適性に応じた技術を習得できる。
合計 30 週	
教科書	書名: Active Sports 著者: 発行所: 大修館書店
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	各種目毎に、個人的技能、集団的技能の到達度、競技ルール規則等の理解について、それぞれの競技特性に応じた観点から評価し、点数化する。その際、日常の取り組みの様子についての評価を含め、学期を通しての総合的な評価になるように配慮する。(出欠席状況を含む参加態度 20%、実技到達度 80%) また、学期内に授業で取り上げた種目数が複数の場合は、それぞれの点数の合計を種目数で割り、学期の実技点数とする。
オフィスアワー	講義日の 12:30~13:00、または 16:00~17:00

教科目名: 国 語

( Japanese )

担当教員: 加 田 謙一郎

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>他者とのコミュニケーションの基本となる日本語能力の、総合的な向上を目指す。具体的には情報を正確に受け取り(読む・聞く)、また情報を正確に伝える(書く・話す)技術を磨く。そして、日本語が日本文化の一翼を担ってきたことへの理解を深める。なお実際の授業の展開上、授業内容・順序を変更することがある。その都度、口頭で指示する。</p>	
<p>関連科目: 倫理、地理、歴史</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中間</p> <p>1. 「ニワシドリの庭」「ある少女の眼」 (1) 2. 「山月記」 (2) 3. 「場所と経験」「記録すること、表現すること」 (2) 4. 文法 (日本語検定公式領域別問題集 文法) (1)</p> <p>(前期中間試験) (1)</p>	<p>1. 異なる視点で書かれた2つの随想作品を読むことで、視野を広げることの大切さを学ぶ。 2. 小説作品に親しみ、感想を短作文にまとめ、他者に作品紹介をする演習を行う。 3. 辞書を引きながら論理的な文章に親しむ。適宜、段落分け・要約を行い、文章の構成を理解する。 4. 文法の基礎を学ぶ。(I)</p>
<p>前期 末</p> <p>5. 中野重治「歌」等、詩・短歌 (1) 6. 「桃花源記」 (1) 7. 「木曾殿の最期」 (1) 8. 「共生システム」「手を見つめる」 (3) 9. 実用の文章 (1) 10. 文法 (日本語検定公式領域別問題集 文法) (1)</p> <p>(前期期末試験) (0)</p>	<p>5. 日本の詩歌に親しみ、大きな声で朗唱し、コミュニケーションに大切な「人前で大きな声で話す」ことの訓練をする。 6~7. 中国・日本の古典籍に触れ、古人を偲ぶ。特に「はかなし」「無常」という伝統的美意識を学ぶ。 8. 社会世話を営む上で必要とされる「情報」の基本的な取り扱い方を学ぶ。 9. 演習として「手紙」「広告」「報告」を作成し、相互批評・評価する。 10. 文法の基礎を学ぶ。(II)</p>
<p>後期 中間</p> <p>10. 「濠端の住まい」「みどりのゆび」 (2) 11. 「映画という反復の快楽」 (2) 12. 文法 (日本語検定公式領域別問題集 文法) (1) 13. プロジェクトマネジメントとコミュニケーション (1)</p> <p>(後期中間試験) (1)</p>	<p>10. 登場人物の心情・情景などの描写を的確に捉え、小説作品への理解を深める。作者の意図(もしくは人情の機微)を、できるだけ正確に読みとる努力・演習を行う。 11. 予習段階は、自力で、辞書を引きながら読む。授業では、段落分け・要約等を行い文章理解を深め、できるだけ正確に筆者の意図を読む取る思考訓練を行う。 12. 文法を実際に応用できる。(I) 13. コミュニケーションと開発・設計の効率をプロジェクトマネジメントの視点で考える。</p>
<p>後期 末</p> <p>14. 『『であること』と『すること』』 (2) 15. 「陰翳礼賛」 (1) 16. 「ことばの宇宙」 (1) 17. 「こころ」 (2) 18. 文法 (日本語検定公式領域別問題集 文法) (1) 19. 無常ということ (1)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>14~16. 予習段階は、自力で、辞書を引きながら読む。授業では、段落分け・要約等を行い文章理解を深め、できるだけ正確に筆者の意図を読む取る思考訓練を行う。 17. 「文章に書かれていること」を正確に捉えることで、「文章に書かれていないこと」を論理的に把握する演習を行う。 18. 文法を実際に応用できる。(II) 19. 近代批評の白眉である該作品を読み、自分自身の人生を見つめ直す契機とする。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 精選現代文改訂版 日本語検定公式領域別問題集文法</p> <p>著者: 秋葉康浩ほか 安達雅夫ほか</p> <p>発行所: 筑摩書房 東京書籍</p>
参考書	<p>書名: 論文・小論文の文章作法がよく分かる本</p> <p>著者: 有地智枝子</p> <p>発行所: 秀和システム</p>
評価方法と基準	<p>授業への取り組み姿勢 10%、随時行うレポート・課題の提出状況 10%、前期中間試験 20%、前期末試験 20%、後期中間試験 20%、学年末試験 20% で、到達度を総合的に評価する。試験問題は到達目標と授業内容に即して出題し、問題のレベルは、教科書及び授業内容と同程度とする。なお上記の他に『精選現代文改訂版準拠課題ノート』(監修:『精選現代文』編集委員会。発行所:筑摩書房)を副教材として使用し、また『明解国語総合』(著者:中渕正堯ほか、発行所:三省堂)も持ち上がりで使用する。</p>
オフィスアワー	各授業実施日の午後 4 : 0 0 ~ 5 : 0 0

教科目名: 英語 I

( English I )

担当教員: 阿部秀樹・窪田眞治・長谷川佐知子

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要	
限られた時間で英語を効果的に学習するには英文法の知識は必要不可欠です。この授業では、中学及び本校の一学年で学習した文法の知識を土台にして、さらに一歩進んだ英文法を勉強します。あわせて、単語力養成のため、英単語集を用いた学習も行なっていきます。	
関連科目: 英語 II、語学演習、工業英語	
授業内容	(W) 達成目標
前期 中期 第1章 動詞と時制 (1) 第2章 動詞と時制 (2) 第3章 動詞と時制 (3) 第4章 完了形 (1) 第5章 完了形 (2) まとめ 『音読英単語 Section 25-30』 前期中間試験	(1) 時制に関するルールを理解し、正しい運用ができる。 (2) 現在完了の基本表現を理解し、実際に活用できる。 (3) 高校レベルの単語の後半部をよく理解すると共に、発音が出来、適切な運用ができる。
前期末 第6章 助動詞 (1) 第7章 助動詞 (2) 第8章 受動態 (1) 第9章 受動態 (2) まとめ 『音読英単語 Section 31-36』 前期期末試験	(1) 助動詞を含む基本表現を理解し、実際に活用できる。 (2) 受動態に関するルールを理解し、正しい運用ができる。 (3) 高校レベルの単語の後半部をよく理解すると共に、発音が出来、適切な運用ができる。
後期中間 第10章 不定詞 (1) 第11章 不定詞 (2) 第13章 動名詞 第14章 分詞 (1) 第15章 分詞 (2) 『音読英単語 Section 27-42』 後期中間試験	(1) 不定詞・動名詞を含む基本表現を理解し、実際に活用できる。 (2) 現在分詞・過去分詞に関するルールを理解し、正しい運用ができる。 (3) 高校レベルの単語の後半部をよく理解すると共に、発音が出来、テキストの全範囲の完成を目指す。
後期末 第17章 比較 (1) 第18章 比較 (2) 第19章 関係詞 (1) 第20章 関係詞 (2) 第22章 仮定法 (1) 第23章 仮定法 (2) 『音読英単語 Section 43-48』 後期期末試験	(1) 比較級・関係詞を含む基本表現をと文法規則を理解し、実際に活用できる。 (2) 仮定法の基本を理解し、正しい運用ができる。 (3) 高校レベルの単語の後半部をよく理解すると共に、発音が出来、テキストの全範囲の完成を目指す。
合計 30 週	
教科書	書名: Framework ワークブック 音読英単語 Stage 1 著者: 桐原書店編集部 Z 会編集部 発行所: 桐原書店 Z 会
参考書	書名: スーパー・アンカー英和辞典 著者: 山岸他 発行所: 学習研究社
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 20%、後期中間試験 15%、学年末試験 20%、小テストもしくは提出物 15%、授業への取り組み姿勢 15% で総合的に評価する。
オフィスアワー	授業実施日の放課後。それ以外でも申し出があれば随時対応する。

授業の概要

The purpose of this course is to give you the tools you need to speak effectively in English. These tools are called conversation strategies and they can help you to take some control of a conversation. We will look at the different parts of a conversation and learn what is expected of in each stage.

関連科目: 英語 II

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	Meeting new people: Greetings and introductions (1) Small talk (1) Ending a conversation (1) Grammar : Simple present tense (1) Yes / no Questions (1) Wh- / How Questions (1) Pronunciation r / l (1)	We will begin the semester by learning how to introduce ourselves to another person and make small talk (general, light conversation). We will learn about the different parts of a conversation and some useful English words and phrases to use in those parts. I will expect Students to make an effort to use English as much as possible in class. We will also review some basic grammar and pronunciation.
前期末	Talking to a teacher: Opening the conversation (1) Stating the problem (1) Resolving the problem (1) Ending the conversation (1) Grammar : Present continuous tense (1) Yes / no Questions (1) Pronunciation s / sh (1) Conversation Test (1)	In the later part of the semester, you should feel a bit more confident about talking to each other in English. We will begin to learn how to solve a problem. The main theme of this unit is talking to a teacher, but much of the English we will learn about would also be useful in other contexts.
後期中間	Talking to a friend: Casual greetings (1) Giving an opinion (1) Giving a summary (1) Giving details (1) Grammar : Simple past tense (1) Wh- / How Questions (1) Pronunciation b / v / f (1)	This unit will be about talking to a friend, and telling them about what you did on the weekend. We will learn about using the past tense (過去形) to tell a story about the weekend.
後期末	Review / Practice (7) Conversation Test (1)	In the last part of the course, we will review what we have learned through the year, and practice different kinds of conversations in preparation for the final test.

合計 30 週

教科書	書名: Encounters, book 1 (日本語版)	著者: Ichiyama and others	発行所: Nan' un-do (南雲堂)
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	Students will be evaluated in three areas as follows; (1) class participation and effort (30%) (2) class work and quizzes (30%) (3) conversation test (40%)		
オフィスアワー			

教科目名: 英語 II

( English II )

担当教員: 田邊英一郎・主濱祐二・長谷川佐知子

学年・学科/専攻名: 2 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

**授業の概要**  
 1 年生の英語 II を発展させ、現代社会の幅広い話題に関する英文を題材に、単語と文法の知識を使って、書かれている内容をさらに深く正確に理解できるようにすることが、この授業の狙いです。リーディングと文法の練習だけではなく、音読、リスニング、スピーキング、ライティングなど他のスキルとも関連させて、総合的な英語力を鍛えます。(小テスト・課題の内容や方法については、各担当教員の指示に従うこと。)

関連科目: 英語 I、語学演習

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	Lesson 1 Greetings from the Heart 5 文型 (SV, SVC, SVO, SVOO, SVOOC)	(3) ・各レッスンで扱う英文について、その内容を正確に聞き取り、かつ読み取ることができる。
	Lesson 2 New Rules for Themselves 節を含む SVO と SVC, seem to~/ it seems that~	(3) ・各レッスンで扱う話題について、自分の考えを概ね読み手に書いて伝えることができる。
	Lesson 3 Messages from the Sea 現在分詞、分詞構文	(1) ・様々な会話の場面を想定して、適切に口頭でのコミュニケーションができる。
	前期中間試験	(1)
前期末	Lesson 3 の続き	(2) ・各レッスンで扱う英文について、その内容を正確に聞き取り、かつ読み取ることができる。
	Lesson 4 A Model of the Atomic Bomb Dome 過去分詞、分詞構文	(3) ・各レッスンで扱う話題について、自分の考えを概ね読み手に書いて伝えることができる。
	Reading 1 The Case of the Missing Will	(2) ・様々な会話の場面を想定して、適切に口頭でのコミュニケーションができる。
	前期末試験	(0)
後期中間	Lesson 5 Kaneko Misuzu 前置詞+関係代名詞、関係詞の非制限用法	(3) ・各レッスンで扱う英文について、その内容を正確に聞き取り、かつ読み取ることができる。
	Lesson 6 Wonders of Memory 現在完了進行形、未来進行形	(3) ・各レッスンで扱う話題について、自分の考えを概ね読み手に書いて伝えることができる。
	Lesson 7 Nowhere Man 仮定法過去、I wish~, as if~	(1) ・様々な会話の場面を想定して、適切に口頭でのコミュニケーションができる。
	後期中間試験	(1)
後期末	Lesson 7 の続き	(2) ・各レッスンで扱う英文について、その内容を正確に聞き取り、かつ読み取ることができる。
	Lesson 8 Aboriginal Art in Australia 仮定法過去完了、強調構文	(3) ・各レッスンで扱う話題について、自分の考えを概ね読み手に書いて伝えることができる。
	Reading 2 The Weeping Camel	(2) ・様々な会話の場面を想定して、適切に口頭でのコミュニケーションができる。
	学年末試験	(0)

合計 30 週

教科書	書名: EXCEED English Course II	著者: 森住衛他	発行所: 三省堂
参考書	書名: 高校総合英語 Forest	著者: 石黒昭博監修	発行所: 桐原書店
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 15%、後期中間試験 15%、後期末試験 15%、小テスト・提出物 20%、授業への取り組み姿勢 20% で総合評価します。		
オフィスアワー	授業日の放課後		

教科目名: 歴史 II

( History II )

担当教員: 山内 清・澤 祥・山田充昭

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要

ヨーロッパ近代社会成立以降の世界の歴史を、政治史を中心に概観し、大まかなその流れを把握することで、現在の世界がどのようにして形成され、どのような特長を持つのかを理解する。

関連科目: 歴史 I、国際政治

授業内容		(W)	達成目標
前期中間	I. 近代と世界の変容		
	1. ヨーロッパ近代社会の形成	(3)	1. ヨーロッパにおける近代市民社会の形成の過程とその特徴を理解することができる。
	2. ヨーロッパ勢力の世界進出	(4)	2. 大航海以降のヨーロッパ勢力の世界進出の過程と、その従属下に置かれた諸地域の、抵抗と改革の状況を理解することができる。
前期末	II. 20世紀の世界		
	1. 二つの世界大戦	(4)	1. 「帝国主義」や「ファシズム」などのキーワードから、なぜ、二度の世界大戦が起きたのかを理解することができる。
	2. 第二次世界大戦後の世界	(4)	2. 東西冷戦下の世界の緊張、第三世界の形成とその動向、冷戦終結後の世界の状況等について理解することができる。
	(前期末試験)	(0)	
後期中間			
後期末			

合計 15 週

教科書	書名: 世界の歴史 改訂版 詳説日本史 改訂版	著者: 柴田三千雄他 石井進他	発行所: 山川出版社 山川出版社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	授業への取り組み姿勢 20%、提出物の提出状況および内容 10%、定期試験 70%をもとに総合的に評価する。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは、板書、授業ノートと同程度とする。		
オフィスアワー	授業実施日の 15:40~16:40		

教科目名: 政治・経済

( Policy and Economy )

担当教員: 山内 清

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
現代日本の政治・経済のシステムと諸問題を授業する。「政治」は日本国憲法を基礎に、政党や地方自治および法律的素養を、「経済」は国家独占資本主義または混合経済といわれる経済のシステムと農業や年金などの周辺の具体的問題を授業する。	
関連科目: 倫理、歴史 I・II	
授業内容	達成目標
日本国憲法の逐条解説 (前文・天皇、国民の権利義務) 中間試験 (6) (1)	日本国憲法の正確な理解と現実の政治諸問題との関係がわかる。
日本国憲法の解説 (国会・内閣・司法・地方自治・改正) 選挙制度・政党・現代の政治的課題 定期試験 (6) (2) (0)	同上。
自由競争の資本主義の価格機構と市場の失敗 独占資本主義と株式経済 国家独占資本主義とケインズ政策 中間試験 (3) (2) (1) (1)	価格機構・市場の失敗・独占形態・ケインズ失業理論・GDP概念・租税体系・信用創造などのキーワードを正確に理解する。大学センターテスト過去問を勉強し、18歳の学生に要求される経済教養を身につける。
日本経済の財政・金融 人口・医療・年員・環境の経済学 労働・消費・生活問題 グローバル経済 定期試験 (2) (3) (2) (1) (0)	身近な経済問題の理解を深める。経済数値に強くなる。国際経済の理論的問題とグローバル化時代の最新の国際経済問題に強くなる。
合計 30 週	
教科書	書名: 政治・経済 著者: 佐々木毅ほか 発行所: 東京書籍
参考書	書名: 政治・経済資料 著者: 発行所: とうほう
評価方法と基準	定期試験4回80%、小テストや授業への取組20%の総合評価。憲法や教科書レベルのキーワードを理解し、正確に表現できれば合格点。
オフィスアワー	実施日の16:00~17:00

**授業の概要**  
 行列と行列式および偏微分法について学ぶ。行列では行列の演算、逆行列を使った連立1次方程式の解法、1次変換と行列の関係、固有値と対角化について学習する。行列式では行列式の計算、クラメル公式、掃き出し法について学習する。偏微分法では主要な偏微分に関する公式と2変数関数の極値について学習する。問題演習により知識の定着をはかり、応用力をつけると共に、レポートなどにより理解を深め、思考力を高める。  
 関連科目: 数学I(1・2年)、数学II(1・2年)

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	1. 行列 (1) 行列の定義 (1) (2) 行列の積 (1) (3) 逆行列 (1) (4) 連立1次方程式 (1)	・行列の和・差・定数倍を計算できる。 ・行列の積を計算できる。 ・行列の積の非可換性を理解できる。 ・2次正方行列の逆行列を求められる。 ・逆行列を使って2変数の連立1次方程式を解くことができる。
	2. 1次変換 (1) 1次変換の定義 (1) (2) 1次変換の合成 (1) (前期中間試験) (1)	・1次変換と行列の関係を説明できる。 ・1次変換の合成変換を求められる。 ・回転を表す1次変換の行列を求められる。
	(3) 1次変換の逆変換 (1) (4) 1次変換の応用 (2)	・1次変換の逆変換を求められる。 ・1次変換による直線の像・原像を求められる。
	3. 行列式 (1) 行列式の定義 (1) (2) 行列式の性質 (2) (3) 行列式の展開と積 (1) (4) 行列式と連立1次方程式 (1) (前期末試験) (0)	・2次・3次の正方行列の行列式を計算できる。 ・行列式の性質を使って、4次以上の正方行列の行列式を計算できる。 ・クラメル公式を使って、連立1次方程式を解くことができる。
後期中間	(5) 掃き出し法 (2) 4. 行列の固有値と対角化 (1) 固有値と固有ベクトル (2) (2) 行列の対角化 (1)	・掃き出し法で、連立1次方程式を解いたり、逆行列を求めたりすることができる。 ・行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 ・2次・3次の正方行列を対角化できる。
	5. 1・2年数学の復習 (1) 1年数学の復習 (1) (後期中間試験) (1)	・1年数学の基本的な問題を解ける。
後期末	(2) 2年数学の復習 (2)	・2年数学の基本的な問題が解ける。
	6. 偏微分法 (1) 2変数関数 (1) (2) 偏導関数 (1) (3) 合成関数の微分・偏微分 (1) (4) 陰関数の微分 (1) (5) 2変数関数の極値 (2) (学年末試験) (0)	・2変数関数とその極限や偏微分の意味が分かり、その偏微分、全微分を求められる。 ・合成関数の微分・偏微分の公式を使いこなせる。 ・陰関数のグラフの接線・法線の方程式が求められる。 ・2変数関数の極値を求めることができる。

合計 30 週

教科書	書名: 新編 高専の数学2 第2版 新編 高専の数学3 第2版	著者: 田代嘉宏・難波完爾 田代嘉宏・難波完爾	発行所: 森北出版 森北出版
参考書	書名: 白チャート 基礎と演習「数学III+C」	著者: 山口 清	発行所: 数研出版
評価方法と基準	前期中間試験15%、前期末試験15%、後期中間試験15%、学年末試験15%、その他授業中に行うテスト(課題テスト・小テスト等)15%、レポート15%、授業への取り組み10%で評価し、総合評価50点以上を合格とする。各試験においては達成目標に即した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。		
オフィスアワー	授業日の16:00~17:00		

教科目名: **数学 II**

( **Mathematics II** )

担当教員: 佐藤浩・上松和弘・野々村和晃・木村太郎

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( )

授業の概要

2 年生で学んだ微分法・積分法を使って、更に深い知識を習得する。今までは扱わなかった形の関数を微分・積分する方法を学ぶ。複数回微分することにより、関数のグラフをより詳しく調べたり、関数を多項式で近似したりする。微分法を利用して関数の極限値を調べたり、積分法を利用して、面積や体積、更には曲線の長さを計算したりする。

関連科目: 数学 I ( 1・2 年)、数学 II ( 1・2 年)

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. 微分法とその応用 (1) 極値 (1) (2) 関数の凹凸 (1) (3) 逆関数の導関数 (1) (4) 逆三角関数 (2) (5) 媒介変数方程式とその導関数 (2)  (前期中間試験) (1)	1. 微分法とその応用 (1) 第 2 次導関数を使って極値を求められる。 (2) 関数の凹凸を調べることができる。 (3) 逆関数の導関数の公式を使うことができる。 (4) 逆三角関数の値と導関数を求めることができる。 (5) 媒介変数方程式の意味が分かり、その導関数を求めることができる。
	(6) 平均値の定理 (1) (7) ロピタルの定理 (2) (8) 高次導関数 (1) (9) マクローリン展開 (3)  (前期末試験) (0)	(6) 平均値の定理の意味が分かる。 (7) ロピタルの定理を使って極限が計算できる。 (8) 高次導関数を求めることができる。 (9) 基本的な関数のマクローリン展開を求められる。
後期中間	2. 積分法 (1) 分数関数の不定積分 (2) (2) 無理関数の不定積分 (1) (3) 三角関数の不定積分 (2) (4) 定積分の意味 (1)  (後期中間試験) (1)	3. 積分法 (1) やや複雑な分数関数の不定積分が計算できる。 (2) やや複雑な無理関数の不定積分が計算できる。 (3) やや複雑な三角関数の不定積分が計算できる。 (4) 定積分の意味と区分求積法が理解できる。
	(5) 面積 (2) (6) 体積 (2) (7) 曲線の長さ (2) (8) 広義積分 (2)  (学年末試験) (0)	(5) 定積分を使って面積を求めることができる。 (6) 定積分を使って体積を求めることができる。 (7) 定積分を使って曲線の長さを求められる。 (8) 広義積分の意味を理解し、広義積分の値を計算できる。

合計 30 週

教科書	書名: 新編 高専の数学 3 (第 2 版) 新編 高専の数学 3 問題集	著者: 田代嘉宏・難波完爾 編 田代嘉宏 編	発行所: 森北出版 森北出版
参考書	書名: 白チャート 基礎と演習 「数学 III+C」	著者: 山口 清	発行所: 数研出版
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 15%、後期中間試験 15%、学年末試験 15%、随時行う小テスト 15%、レポート 15%、授業への取り組み 10%をもとに達成度を総合評価し、50 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは板書と同程度とする。		
オフィスアワー	授業日の 16:00 ~ 17:00		

教科目名: 物 理 ( Physics )

担当教員: 岡崎幹郎・鈴木建二

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 前期 週 ( 前期 4 ) ( 後期 0 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( E )

授業の概要

2年で履修した「物理」に引き続き「物体の衝突・分裂の際の運動量保存則」「熱と温度」「熱と仕事」「熱力学第一法則」および「エネルギーの変換と保存」について学ぶ。次に、様々な「波動現象」を理解するために「波の基本的な性質」および「音波」について学ぶ。

講義と問題演習および演示実験を通して、物理現象を系統的・理論的に捉える能力を養う。

関連科目: 物理(2年)、数学(1年・2年)、応用物理(3年・4年)

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	1. 運動量の保存則 1-1. 運動量と力積 (1) 1-2. 運動量保存則 (2)	1. 「運動量」「運動量変化と力積の関係」および「物体の衝突における運動量保存則」を理解し記述できる。また関連した問題が解ける。 2. 「熱容量」「比熱」「熱量保存則」「気体の圧力」「ボイルシャルルの法則」および「熱力学第一法則」を理解し、関連した問題が解ける。
	2. 熱とエネルギー 2-1. 熱と温度 (1) 熱容量、比熱、熱量の保存 2-2. 熱と仕事 (2) 気体の圧力、ボイルシャルルの法則、熱力学第一法則 前期中間試験 (1)	
	2-3. エネルギーの変換と保存 (1) いろんなエネルギー、エネルギーの変換と保存	
	3. 波・波動 3-1. 波の性質 横波・縦波、波の干渉 (2) 3-2. 定常波、波の反射・屈折・回折 (2) 3-3. 音波 音の伝わり方、うなり (3) 発音体の振動、共振・共鳴、ドップラー効果 前期末試験 (0)	
後期中間		
後期末		

合計 15 週

教科書	書名: 高等学校 物理 I 高等学校 物理 II	著者: 國友正和 他 國友正和 他	発行所: 数研出版 数研出版
参考書	書名: 問題集「トライアル物理 I」「同 II」 フォトサイエンス物理図解	著者: 数研出版編集部 数研出版編集部	発行所: 数研出版 数研出版
評価方法と基準	前期中間試験 30%、前期末試験 40%、および(随時行う小テスト+レポート+授業に対する取組姿勢) 30%で総合評価する。総合評価 50点以上を合格とする。 試験問題は各達成目標に即した内容で、問題のレベルは教科書の問題および問題集の A・B 問題程度を出題する。		
オフィスアワー	授業実施当日の 16:00~17:00		

授業の概要	
2年次の授業を土台に、体力および運動技能の向上をさらに図りながら、継続的に展開していく。 また、健康管理や事故防止には十分注意をはらいながら、スポーツの楽しさ、喜びを自覚させ、公正・協力、そして責任のある行動ができるようにする。	
関連科目: 保健	
授業内容	(W) 達成目標
1. 選択制種目 1) ソフトボール 2) バスケットボール 3) ソフトバレー 4) 卓球  ※時数配分と内容については、学生の実態に則し、臨機応変な設定とする。	(5) ・グループをつくり、その中で自分たちで学習計画を立案して楽しくゲームができる。
2. ソフトボール (雨天時はバスケットボール)  3. 選択制種目 1) テニス 2) 卓球 3) ソフトバレー 4) 水泳  ※時数配分と内容については、学生の実態に則し、臨機応変な設定とする。	(6) 2. 3. ・各種目の特性に応じた競技の運営や戦術を工夫しながら、協力してゲームを楽しむことができる。 (4) ・競技マナーや競技規則を理解し、公正な態度でゲームに参加できる。
4. 軟式野球  5. バスケットボール  6. バレーボール  ※時数配分と内容については、学生の実態に則し、臨機応変な設定とする。	(3) 4. ・安定したトスバッティングができる。 (2) ・正しいバッティングフォームができる。 ・力強いスイングでボールを打つ技術を習得できる。 (2) ・正しくルールを理解し、審判についても実践できる。 5. 6. ・基本的な技術を習得できる。 ・ルールを理解し、個々の技術を活かしながら楽しくゲームができる。
7. 選択制種目 1) フットサル 2) バドミントン 3) ソフトバレー 4) バスケットボール  ※時数配分と内容については、学生の実態に則し、臨機応変な設定とする。	(8) 7. -1) ~ 4) ・各種目の特性を理解しながら、基本的な技術を習得することができる。 ・各種目のルールを理解して、それぞれの戦略、攻防をゲームの中で活かすことができる。
合計 30 週	
教科書	書名: Active Sports 著者: 発行所: 大修館書店
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	各種目毎に、個人的技能・集団的技能の到達度、競技ルール・規則等の理解について、それぞれの競技特性に応じた観点から評価し、点数化する。その際、日常の取り組みの様子についても評価を含め、学期を通しての総合的な評価になるよう配慮する。(出欠席状況を含む参加態度20%、実技到達度80%) また、学期内に授業で取り上げた種目数が複数の場合には、それぞれの点数の合計を種目数で割り、学期の実技点数とする。
オフィスアワー	講義実施日の12:30~13:00、または16:00~17:00

教科目名: 国 語

( Japanese )

担当教員: 大河内邦子・加田謙一郎・有地智枝子

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>社会人として最低限必要な、「聞く」・「読む」・「書く」・「話す」ことの、総合的な能力向上を目指す。具体的には次の2点に力点を置く。① 論理的思考能力の育成のために、日本語を学び直し、正確な読解力を身につける。② グループワークを中心に、他者とのコミュニケーションの向上を図る。課題提出等は、目標達成のため適宜行う。なお、授業の展開上、授業内容・順序の変更がある場合には、指示する。</p> <p>関連科目: 倫理、地理、歴史</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期中間</p> <p>1. 敬語 (日本語検定公式領域別問題集 敬語) (1)</p> <p>2. 自己紹介 (1)</p> <p>3. ノートやメモの取り方 (2)</p> <p>4. メールの書き方 (1)</p> <p>5. 鞆 (教科書) (1)</p> <p>(前期中間試験) (1)</p>	<p>1. 敬語の基礎を身に付ける。(I)</p> <p>2. 自分を客観的に見つめ、具体的に表現する。</p> <p>3. 自発的に学ぶためのノートの取り方、5W1Hを使った確実なメモの取り方を練習する。</p> <p>4. 社会人に必要なメールのスキルを身に付ける。</p> <p>5. 小説が描き出す世界に親しみ、感想をまとめたり、紹介する文を書く。</p>
<p>前期末</p> <p>6. 敬語 (日本語検定公式領域別問題集 敬語) (2)</p> <p>7. 手紙の書き方 (1)</p> <p>8. 説明のコツ (1)</p> <p>9. 大学生の調べ方 (2)</p> <p>10. アンケートの取り方 (1)</p> <p>11. 記号論と生のリアリティ (教科書) (1)</p> <p>(前期期末試験) (0)</p>	<p>6. 敬語の基礎を身に付ける。(II)</p> <p>7. 手紙の基本的な書式やマナーを身に付ける。</p> <p>8. 聞き手が理解しやすい説明をするための練習をする。</p> <p>9. わからない言葉や知りたい情報の入手法について学ぶ。図書館を利用してみる。</p> <p>10. 調査目的にあった効率的なアンケートを行うための要素を学ぶ。</p> <p>11. 論理的な文章を読解し、筆者の主張や論理の展開方法を理解する。</p>
<p>後期中間</p> <p>12. 敬語 (日本語検定公式領域別問題集 敬語) (1)</p> <p>13. 資料の読み取り (1)</p> <p>14. 効果的なプレゼンテーション (1)</p> <p>15. レポートの書き方 (2)</p> <p>16. 藤野先生 (教科書) (1)</p> <p>(後期中間試験) (1)</p>	<p>12. 敬語を応用できる。(I)</p> <p>13. 表・図・グラフから正しい情報を読みとるためのポイントをつかむ。</p> <p>14. 伝えたい事を的確に伝えるための発表の方法を学ぶ。</p> <p>15. 堅実なレポートを書くための、具体的手順と表記方法を学ぶ。</p> <p>16. 小説の面白さを味わい、人物の心の動きや時代背景を読みとる。</p>
<p>後期末</p> <p>17. 敬語 (日本語検定公式領域別問題集 敬語) (2)</p> <p>18. 履歴書の作成 (1)</p> <p>19. 面接の受け方 (1)</p> <p>20. 小論文の書き方 (2)</p> <p>21. エッセイを書いてみよう (1)</p> <p>22. 日本文化の雑種性 (教科書) (1)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>17. 敬語を応用できる。(II)</p> <p>18. インターンシップや就職を意識し、好印象を持たれるような履歴書を書けるようにする。</p> <p>19. 就職活動において大きなウエイトを占める面接の受け方をしっかりと学ぶ。</p> <p>20. 出された課題について、決められた時間内に決められた字数が書けるように練習する。</p> <p>21. 自分の興味のあることについて、読み手を意識しながら、自由に書いてみる。</p> <p>22. 評論文を通して、日本文化と世界の関連について考えを深める。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 大学生のための日本語表現トレーニング 現代文新訂版</p> <p>著者: 橋本修ほか 紅野謙介ほか</p> <p>発行所: 三省堂 筑摩書房</p>
参考書	<p>書名: 日本語表現法 論文・小論文の文章作法がよく分かる本</p> <p>著者: 名古屋大学日本語表現研究会 有地智枝子</p> <p>発行所: 三弥井書店 秀和システム</p>
評価方法と基準	<p>授業への取り組み姿勢 10%、随時行うレポート・課題の提出状況 10%、前期中間試験 20%、前期期末試験 20%、後期中間試験 20%、学年末試験 20% で、到達度を総合的に評価する。各試験においては、到達目標と授業で行った練習に即した出題をする。試験問題のレベルは、教科書及び授業内容と同程度とする。なお上段で書ききれなかったが敬語の教科書として、『日本語検定公式領域別問題集 敬語』(著者: 速水博司ほか、発行所: 東京書籍)を使用する。</p>
オフィスアワー	<p>授業直後、アポイントメントを取ってください。</p>

教科目名: 英語 I

( English I )

担当教員: 畑 江 美 佳

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>必須文型 100 を含む興味深い内容の英文エッセーを読みます。Shadowing, Phrase Reading, Oral Composition などの発信型練習を通して、「読む」「聞く」及び「話す」「書く」といった総合的な英語力のレベルアップを図ります。また、各章に書かれている内容をしっかりと理解することで、幅広い教養と豊かな人間性を身につけることを目指します。学生は Web を使って授業をサポートする e ラーニング (LINGUAPORTA) を利用することができ、個別学習により「英語力」を高めることができます。</p>	
<p>関連科目: 英語 II</p>	
授業内容	(W) 達成目標
<p>前期中間</p> <p>Chapter 1 A Lesson from Bhutan (2)                      Chapter 2 The Story of Mother's Day (2)                      Chapter 3 George Morikami's Dream (2)                      Chapter 4 Pizza:An international Favorite (1)</p> <p>前期中間試験 (1)</p>	<p>・ Reading Passage を何回も Shadowing することで、自然な読みや、基本文型・重要表現が身につく。Phrase Reading の訓練を通して速読の技法を学び、英文を読む楽しさが実感できるようになる。</p>
<p>前期末</p> <p>Chapter 5 The Story of the Red Rose (2)                      Chapter 6 Madame Butterfly and Intercultural Marriages (2)                      Chapter 7 A Siesta Makes You Smarter! (2)                      Chapter 8 Unwanted Pets and Eco-Disasters (1)</p> <p>前期末試験 (0)</p>	<p>・ Dialogue の CD をよく聴き、Shadowing や Role Playing を繰り返す。発音・抑揚などにも注意を払い、基本文型を使って生き生きとした対話ができる。Oral Composition の学習で基本構文を身につけることができる。</p>
<p>後期中間</p> <p>Chapter 9 Going Green (2)                      Chapter 10 Laughter Keeps You Healthy (2)                      Chapter 11 A Lesson from the Nagasaki Islands (2)                      Chapter 12 A Lesson from the Olympics (1)</p> <p>後期中間試験 (1)</p>	<p>・ Essential Basic Sentence Patterns で、日本語を読んだ瞬間に自然と英語が言えるようになる。Phrase Reading を継続し、感情の乗った英文を読むことができるようになる。</p>
<p>後期末</p> <p>Chapter 13 Terry Fox: The Marathon of Hope (2)                      Chapter 14 Hachiko and Balto: Two Famous Dogs (2)                      Chapter 15 Hisako Nakamura:Live Your Life with Gratitude (2)                      Chapter 16 Nobuyuki Tsujii:Music plus a Positive Attitude (1)</p> <p>学年末試験 (0)</p>	<p>・ PC と携帯で授業外学習を支援する Web 英語学習システム (LINGUAPORTA) を利用し、課題や予習・復習に個別に対応することで、各自の力に合わせた学習をすることができる。</p>
<p>合計 30 週</p>	
教科書	<p>書名: Enjoyable Reading                      著者: Joan McConnell 武田修一                      発行所: 成美堂</p>
参考書	<p>書名: 著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験 15 %、前期末試験 20 %、後期中間試験 15 %、学年末試験 20 %、e ラーニングの活用 15 %、小テストもしくは提出物 15 %で総合的に評価する。</p>
オフィスアワー	<p>授業日の放課後</p>

教科目名: 英語 II

( English II )

担当教員: 田邊英一郎・長谷川佐知子

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

**授業の概要**  
 これまで学習した基本的な英語の単語や文法を復習することで、TOEIC 対策のための基礎固めをします。前期は TOEIC への橋渡しとして TOEIC Bridge のテキストを使用します。後期は TOEIC のテキストで①TOEIC 特有の出題形式に慣れること、② 400 点程度のスコアを取るために最低限必要な語彙力、文法知識、及びできるだけ要領よく正解を選ぶコツを身につけることを目指します。  
 関連科目: 英語 I、語学演習

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	My First TOEIC TEST を使用 ・例題 (1) ・ Unit 1～6 (1)	1) TOEIC の問題形式に慣れる。 2) 品詞を理解し、英文の構造を知る。 3) トピックを聴き取り、話し手を特定する。 4) wh で始まる疑問文を理解する。 5) 手紙・図表・グラフなどの読み取りに慣れる。
	(1)	
	(1)	
	(1)	
	(1)	
	前期中間試験 (1)	
前期末	My First TOEIC TEST を使用 ・ Unit 7～14 (1)	1) TOEIC の問題形式に慣れる。 2) 接続詞・前置詞の使い分けができる。 3) 付加疑問文、発話に対する返答ができる。 4) ニュース記事・広告などの読み取りに慣れる。
	(1)	
	(1)	
	(1)	
	(1)	
	前期末試験 (0)	
後期中間	Starting on the TOEIC Test を使用 Unit 1 Eating (1) Unit 2 Leisure (6)	1) TOEIC の問題形式に慣れる。 2) 頻出の基本単語を定着させる。 3) 文法・語法の理解を深め、要領よく迅速に正解を導く。
	Unit 3 Sports	
	Unit 4 Shopping	
	Unit 5 Campus Life	
	Unit 6 Travel	
	後期中間試験 (1)	
後期末	Starting on the TOEIC Test を使用 Unit 7 Health (7) Unit 8 Work Unit 9 Weather Unit 10 Cooking Unit 11 Parties Unit 12 Movies	1) TOEIC の問題形式に慣れる。 2) 日常生活・ビジネスで良く使われる表現を理解できる。 3) 文法・語法の理解をさらに深め、さらに要領よく迅速に正解を導く。
	(7)	
	(7)	
	(7)	
	(7)	
	後期末試験 (0)	

合計 30 週

教科書	書名: My First TOEIC TEST Starting on the TOEIC TEST	著者: 光富省吾 他 安浪誠祐 他	発行所: 朝日出版 朝日出版
参考書	書名: 総合英語 Forest	著者: 石黒昭博	発行所: 桐原書店
評価方法と基準	前期中間試験 15 %、前期末試験 15 %、後期中間試験 15 %、後期末試験 15 %、小テスト 20 %、授業への取り組み姿勢 20 %で総合評価し、50 点以上を合格とします。		
オフィスアワー	授業で指示します。		



教科目名: 保健・体育

( Health and Physical Education )

担当教員: 伊藤 堅治

学年・学科/専攻名: 4 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>選択制授業を通して、共に教え、学び合う姿勢を大切にしながら、自ら運動する意欲を培い、生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成する。</p> <p>関連科目: 保健、生物、現代社会</p>	
授業内容	達成目標
<p>1. 選択制種目 (7)</p> <p>1) ソフトボール</p> <p>2) バスケットボール</p> <p>3) ソフトバレー</p> <p>4) 卓球</p>	<p>1. -1) ~ 4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な管理運営ができ、ゲームなどが支障なくできる。</li> <li>・各種目のルール解説と競技の運営、そして安全な管理の方法を知る。</li> </ul>
<p>2. 選択制種目 (8)</p> <p>1) ソフトボール</p> <p>2) ソフトテニス</p> <p>3) サッカー</p> <p>4) バドミントン</p> <p>5) バレーボール</p> <p>※屋外種目選択者は雨天時を考慮して屋外種目も選択する。</p>	<p>2. -1) ~ 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して仲間との交流を深め、他と協調し、思いやる心をはぐくむ。</li> <li>・計画的な運動の実践を通して、高度な技能と審判法を習得できるとともに、技能を発揮してゲームをすることができる。</li> </ul>
<p>3. 選択制種目 (7)</p> <p>1) ソフトボール</p> <p>2) ソフトテニス</p> <p>3) サッカー</p> <p>4) バドミントン</p> <p>5) バレーボール</p> <p>※屋外種目選択者は雨天時を考慮して屋外種目も選択する。</p>	<p>3. -1) ~ 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して仲間との交流を深め、他と協調し、思いやる心をはぐくむ。</li> <li>・計画的な運動の実践を通して、高度な技能と審判法を習得できるとともに、技能を発揮してゲームをすることができる。</li> </ul>
<p>4. 選択制種目 (8)</p> <p>1) バスケットボール</p> <p>2) バレーボール</p> <p>3) バドミントン</p>	<p>4. -1) ~ 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して仲間との交流を深め、他と協調し、思いやる心をはぐくむ。</li> <li>・計画的な運動の実践を通して、高度な技能と審判法を習得できるとともに、技能を発揮してゲームをすることができる。</li> </ul>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: Active Sports</p> <p>著者:</p> <p>発行所: 大修館書店</p>
参考書	<p>書名:</p> <p>著者:</p> <p>発行所:</p>
評価方法と基準	<p>各種目毎に、個人的技能・集団的技能の到達度、競技ルール・規則等の理解について、それぞれの競技特性に応じた観点から評価し、点数化する。その際、日常の取り組みの様子についても評価を含め、学期を通しての総合的な評価になるよう配慮する。(出欠席状況を含む参加態度20%、実技到達度80%) また、学期内に授業で取り上げた種目数が複数の場合には、それぞれの点数の合計を種目数で割り、学期の実技点数とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の12:30~13:00、または16:00~17:00</p>

教科目名: 英語 I

( English I )

担当教員: 主 濱 祐 二

学年・学科/専攻名: 4 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要	
この授業では、1月下旬に4年生全員が受験する TOEIC IP テストの試験対策を行います。TOEIC300 点台後半から 400 点以上獲得のために必要なリスニング・リーディングスキルの習得を目指します。前期中間試験 (6 月)、前期末試験 (9 月)、後期中間試験 (11 月)、冬休み明け単語テスト (1 月) を実施し、1 月の TOEIC テストに向けて、段階的に英語力を高めていきます。	
関連科目: 英語 II (3 年次)、工業英語	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中期 < TOEIC への基礎固め > Unit 1 Daily Life (1) Unit 2 Places (1) Unit 3 People (1) Unit 4 Travel (1) Unit 5 Business (1) Unit 6 Office (1) Unit 7 Technology、前期中間試験 (1)	・ TOEIC 重要語句 (約 120 項目) が理解できる。 ・ 話し手が次に何と言うか推測しながら、対話の内容を聞き取ることができる。 ・ 英語で書かれた掲示や文章を読み、その目的や主旨を理解することができる。
前期末 Unit 8 Personnel (1) Unit 9 Management (1) Unit 10 Purchasing (1) Unit 11 Finances (1) Unit 12 Media (1) Unit 13 Entertainment (1) Unit 14 Health (1) Unit 15 Restaurant (1) 前期末試験 (0)	・ TOEIC 重要語句 (約 120 項目) が理解できる。 ・ 少し長めの対話を聞き、その内容を概ね理解することができる。 ・ 問題文で問われていることが、英文のどこに書かれているか指摘することができる。
後期中間 < TOEIC 実戦演習 > 練習問題 1 (1) 練習問題 2 (1) 練習問題 3 (1) 練習問題 4 (1) 練習問題 5 (1) 練習問題 6 (1) 練習問題 7、後期中間試験 (1)	・ TOEIC 頻出語句 (約 120 項目) が理解できる。 ・ 少し長めの対話やアナウンスを聞き、その内容を概ね理解することができる。 ・ 様々なフォーマットの英文に慣れ、その内容を概ね読み取ることができる。
後期末 練習問題 8 (1) 練習問題 9 (1) 練習問題 10、単語テスト (1) 練習問題 11、TOEIC IP テスト (1) 練習問題 12 (1) 練習問題 13 (1) 練習問題 14 (1) 練習問題 15 (1) 学年末試験 (0)	・ 同 上
合計 30 週	
教科書	書名: Successful Keys To The TOEIC Test 2 著者: 水本篤 他 発行所: 桐原書店
参考書	書名: 新 TOEIC テスト 470 点攻略本 著者: パク・ドゥグ 発行所: 旺文社
評価方法と基準	前期中間試験 15 %、前期末試験 20 %、後期中間試験 15 %、学年末試験 20 %、単語テスト 10 %、TOEIC IP テスト成績 20 % の割合で総合評価し、60 点以上を合格とする。
オフィスアワー	授業日の放課後

教科目名: ドイツ語

( German )

担当教員: 窪田 眞 治

学年・学科/専攻名: 4 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要		
<p>短い文章の音読の反復で、文章のリズム、文法構造、表現力を身につける。冠詞の格変化、人称代名詞の格変化、規則変化動詞の現在人称変化は 100% 記憶する。形容詞の格変化語尾屈折は、法則の理解は求めるが、屈折そのものの記憶は求めない。また欧州社会に対する理解を深め、日本の社会との違い、日本の社会の特徴にも目を向ける。語学学習における情報カードの利用法を知る。</p> <p>関連科目: 英語 I、英語 II</p>		
	授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	<p>ガイドンス、綴り字の発音、情報カードの使い方 人称代名詞と規則変化動詞の現在人称変化、動詞の位置 名詞の性、名詞の格、冠詞の格変化</p> <p>(1) (3) (3)</p>	<p>情報カードを語学学習に利用する方法を知る。動詞の人称変化ができるようになる。欧州の言語では名詞に性と格があることを知り、運用出来るようになる。人称代名詞を格変化させることが出来るようになる。</p>
前期 末	<p>不規則変化動詞の現在人称変化、命令法 名詞の複数形、定冠詞類、不定冠詞類 前置詞の格支配</p> <p>(3) (3) (2)</p>	<p>基本的な不規則変化動詞に習熟し、パターンを記憶の効率化に利用する。冠詞類の格変化を暗記する。前置詞に格支配があることを知り、英語と対照して理解出来るようになる。</p>
	<p>前期末試験</p> <p>(0)</p>	
後期 中間	<p>分離動詞、非分離動詞 非人称の es 話法の助動詞 接続詞、副文</p> <p>(2) (1) (2) (2)</p>	<p>形容詞の比較変化を習得し、語学のデータ読み取り試験が比較表現の問題であることを知る。ドイツ語の副文で動詞定形を文末に置けるようになる。</p>
後期 末	<p>形容詞の格変化 zu 不定詞 動詞の 3 基本形 現在完了、過去時制 再帰代名詞と再帰動詞</p> <p>(1) (2) (2) (1) (2)</p>	<p>形容詞の格変化の法則を理解できるようになる。格変化の暗記は必須ではない。動詞の時の表現するところが英語と少し違いがあることを学ぶ。形容詞・副詞の比較変化、関係代名詞、接続法は次年度の学習項目とする。</p>
	<p>学年末試験</p> <p>(0)</p>	
合計 30 週		
教科書	<p>書名: Kreuzung NEO クラウン独和辞典</p>	<p>著者: 小野寿美子 et al. 濱川祥枝 et al.</p>
参考書	<p>書名: 必携ドイツ文法総まとめ【改訂版】 知的生産の技術</p>	<p>著者: 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧 梅棹忠夫</p>
発行所:	<p>朝日出版社 三省堂</p>	
発行所:	<p>白水社 岩波書店</p>	
評価方法と基準	<p>期末試験を 2 回行う。通年で一人 3 回、授業時間ごとに数人ずつ教科書から暗唱試験を行う。暗唱試験に関しては合格点に達しない場合は合格点に達するまで、日を変えて繰り返し挑戦してもらう。自発的再挑戦も認める。口頭の文法小テストを頻繁に実施する。夏休み明けを期限として、課題図書のリポートを課す。期末試験 2 回分を 50%、暗唱試験分を 30%、口頭文法小テスト及びレポートを 20% 配分して最終評価とし、60% 以上を合格とする。</p>	
オフィスアワー	<p>木曜日 16:00 ~ 17:00 ドイツ語教員室にて。その他随時。</p>	



教科目名: 保健・体育

( Health and Physical Education )

担当教員: 比留間 浩 介

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要

最新の体育・スポーツ科学研究の観点から、生涯を通じてスポーツに親しむ態度を養えるようにする。また、身体のしくみを知り、健康を保つための基礎的知識を身に付け、実際に活用できるようにする。

関連科目: 保健、物理

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	1. 体育・スポーツ科学研究とその実用例 1) 体育・スポーツ分野でみられる研究について (1) 2) スポーツバイオメカニクスの研究分野とその実用例 (2) 3) スポーツ心理学の研究分野とその実用例 (2) 4) 運動生理学の研究分野とその実用例 (2)	科学的な面からスポーツを理解することができる。 研究で得られた知見を日常生活や動作に応用できるようにする。
前期末	2. 健康科学 1) 体力と健康について (1) 2) 身体のしくみについて (1) 3) 体力測定の方法とその活用法について (2) 4) トレーニングの原理、原則 (2) 5) トレーニングの種類 (2)	健康を保つ意義や方法を理解し、運動を通して自らの健康を管理することができるようにする。
後期中間		
後期末		

合計 15 週

教科書	書名: 使用しない。資料を配布する。 著者: 発行所:
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	出欠席状況を含む参加態度 50 %、レポートを含む提出物 50 % で総合的に評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義実施日の 12 : 30 ~ 13 : 00

教科目名: ドイツ語

( German )

担当教員: 窪田 眞 治

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (講義) 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要

ドイツで発行される新聞・雑誌の記事を講読する。Die Zeit 誌等の科学、技術関連の記事を読むことから始める。授業の進行状況に応じて、後期は違うテキストを扱うことになる予定。

関連科目: 英語 I、英語 II

	授業内容	(W)	達成目標
前期中間	形容詞の格変化 未来時制 接続法 報道記事の講読	(1) (1) (2) (3)	動詞の法の3形態、直説法、命令法、接続法を整理する。 報道記事のタイトルの語学上の特徴を理解し、読むに値する記事かどうか、判断出来るようになる。報道記事の中での固有名詞の扱いに日本と欧米で違いがあることを意識し、書き手の姿勢の違いを学ぶ。
	報道記事の講読	(8)	報道記事に多く見られる、接続法を用いた間接引用文を適切に把握出来るようになる。報道文の中に描かれた社会関係が、欧米と日本とで異なることを学ぶ。
後期中間	前期末試験	(0)	
	報道記事の講読	(7)	予定は報道記事の講読であるが、進捗状況によってはその他のジャンル、例えば文学テキストを読む可能性もある。
後期末	報道記事の講読	(8)	予定は報道記事の講読であるが、進捗状況によってはその他のジャンル、例えば文学テキストを読む可能性もある。
	学年末試験	(0)	

合計 30 週

教科書	書名: それ行け、ドイツ語! アクセス独和辞典	著者: 櫻井麻美、信岡資生 在間進 et al.	発行所: 第三書房 三修社
参考書	書名: 必携ドイツ文法総まとめ【改訂版】 知的生産の技術	著者: 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧 梅棹忠夫	発行所: 白水社 岩波書店
評価方法と基準	期末試験を2回行う。通年で一人3回、授業時間ごとに数人ずつ指定テキストの暗唱試験を実施する。暗唱の再挑戦も認める。夏休み明けを期限として、課題図書レポートを課す。期末試験2回分に50%、テキストの暗唱試験分に30%、レポートと授業ごとに実施する口頭文法試験に20%を配分して最終評価とし、60%以上を合格とする。		
オフィスアワー	木曜日 16:00~17:00 ドイツ語教員室にて。その他随時。		

教科目名: 語学演習 (畑江)

( Language Seminar )

担当教員: 畑江美佳

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要

英会話の授業です。流暢な英語の発音、ためになる語彙や表現を身につけるために、リスニングと発話練習を繰り返し行います。Class activity では様々な場面における英語でのやり取りの実践を通して、英語コミュニケーション能力を高めます。また、授業で異文化に触れることでグローバルな知識と視野を育みます。

関連科目: 工業英語、英語表現法

	授業内容	(W)	達成目標
前期中間	1. Jobs / Daily activities	(2)	Students will be able to talk about: different types of jobs; everyday activities. current activities; feelings and emotions. famous people; popular cities.
	2. Current activities / Feelings	(2)	
3. People we admire / Cities	(3)		
前期末	4. On the weekend / On vacation	(2)	Students will be able to talk about: weekend activities; things on vacation. recreational activities; types of music. things in a city; public transportation.
	5. Entertainment / Music	(3)	
	6. A city square / Public transportation	(3)	
	前期末試験	(0)	
後期中間	7. At a supermarket / Clothes and colors	(2)	Students will be able to talk about: items in a supermarket; types of clothing. types of stores; places in town. things to collect or play; indoor sports.
	8. Shops and stores / Places around town	(3)	
	9. Hobbies / Indoor exercise	(3)	
後期末	10. Travel plans / Trip preparations	(2)	Students will be able to talk about: things to do while traveling. amounts; kitchen activities. abilities needed for jobs; artistic talents.
	11. Quantities / Cooking	(2)	
	12. Job skills / Artistic talents	(3)	
	後期末試験	(0)	

合計 30 週

教科書	書名: Talk Time Student Book 2	著者: Susan Stempleski	発行所: Oxford University Press
参考書	書名: 英和辞典や電子辞書	著者:	発行所:
評価方法と基準	前期末試験 30 %、学年末試験 30 %、授業への取り組み 30 %、提出物 10 %により、総合的に評価する。試験はスピーキングテストを予定している。		
オフィスアワー	授業日の放課後		

教科目名: 語学演習 (田邊)

( Language Seminar )

担当教員: 田邊 英一郎

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要

TOEIC 対策がこの授業の中心です。目標スコアは 450 点以上です。これまで学習した単語や連語、文法、構文を復習しながら、問題演習を行います。問題演習では、TOEIC によく出題される単語や連語を多く覚えることに加えて、できるだけ要領よく正解を選ぶスキルを体得することも目指します。

関連科目: 工業英語

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	Unit 1 Arts & Amusement (2)	・芸術/娯楽、ランチ/パーティー、医療/健康および交通/旅行に関する基本的な単語の意味が分かる。 ・品詞を正しくかつ即座に区別することができる。
	Unit 2 Lunch & Parties (2)	
	Unit 3 Medicine & Health (2)	
	Unit 4 Traffic & Travel (2)	
前期末	Unit 5 Ordering & Shopping (2)	・注文/買い物、工場/生産、研究/開発およびコンピューター 科学技術に関する基本的な単語の意味が分かる。 ・文の構造が正しくかつ即座に把握できる。
	Unit 6 Factories & Production (2)	
	Unit 7 Research & Development (2)	
	Unit 8 Computers & Technology (1)	
	前期末試験 (0)	
後期中間	Unit 9 Employment & Promotions (2)	・雇用/昇進、広告/人事、電話/伝達、銀行/金融に関する基本的な単語の意味が分かる。 ・リスニング、リーディングを問わず、4 割以上の正解率で、できるだけ迅速に答を選ぶことができる。
	Unit 10 Advertisements & Personnel (2)	
	Unit 11 Telephone & Messages (2)	
	Unit 12 Banking & Finance (2)	
後期末	Unit 13 Office Work & Equipment (2)	・オフィスでの仕事/事務用品、住宅/資産、ビジネス/経営に関する基本的な単語の意味が分かる。 ・リスニング、リーディングを問わず、5 割以上の正解率で、できるだけ迅速に答を選ぶことができる。
	Unit 14 Housing & Properties (2)	
	Unit 15 Business & Management (3)	
	学年末試験 (0)	

合計 30 週

教科書	書名: TOEIC テストへのニューアプローチ	著者: 大佐賀直子他	発行所: 成美堂
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	前期末試験 20 %、学年末試験 20 %、小テスト 15 %、授業への取り組み 15 % および TOEIC(IP)30 % で総合的に評価する。評価に利用する TOEIC のスコアは、これまでに受検した TOEIC のスコアでなく、今年度 (平成 23 年度) に受検した TOEIC のスコアとする。		
オフィスアワー	授業日の 15:50 から 17:15 まで		

教科目名: 語学演習 (阿部)

( Language Seminar )

担当教員: 阿部 秀樹

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要

実用英検や TOEIC 等の外部試験の結果から時に散見される不振の原因が語彙力と構文力の不足と思われる現状に鑑み、本講では基礎的な語彙力の習得と基本に忠実な英作文能力の養成に努める。受講生は各週の課題となる範囲の語彙と例文を自学自習し、教室ではプリントを用いた演習を行い理解力の確認を図る。進度は1週あたりおよそ100語。個人差を考慮しても各週2時間程度の自学自習時間が必要と思われる。

関連科目: 英語 I,II、工業英語

	授業内容	(W)	達成目標
前期中間	Section A Unit 1 - 8 Section B Unit 1 - 8 Section C Unit 1 - 8	(8)	・授業では各セクションから1ユニットずつ進める。例えば第1週は「Section A, Unit 1, Section B Unit 1, Section C Unit 1」を学習し、次週は各セクションのUnit 2となる。当該範囲で扱った語彙を出来る限りすべて理解し運用ができる。
	Section A Unit 9 - 16 Section B Unit 9 - 16 Section C Unit 9 - 16	(7)	・前期中間の範囲に続いて、全セクションの各ユニットで扱った語彙を出来る限りすべて理解し運用ができる。 ・前回8週間の学習に続いて、各語彙のコロケーションを意識した英文表現ができる。
前期末	前期末試験	(0)	
後期中間	Section A Unit 17 - 24 Section B Unit 17 - 24 Section C Unit 17 - 24	(8)	・前期と同じ方針を続け、全セクションの各ユニットで扱った語彙を出来る限りすべて理解し運用ができる。また、Native speaker のような発音でなくても良いので、意思疎通に支障がない程度の流暢な読み上げができる。 ・コロケーションを意識した英文表現ができる。
	Section A Unit 25 - 30 Section B Unit 25 - 30 Section C Unit 25 - 30	(7)	・1年の学習の総決算。語彙の意味理解だけでなく、正しい発音で語彙と例文の音読ができるようになる。意思疎通に支障がない程度の流暢な読み上げができる。 ・コロケーションを意識した英文表現が完全にできるようになる。
後期末	学年末試験	(0)	

合計 30 週

教科書	書名: 語感を鍛える英単語演習	著者: 語彙力向上研究会	発行所: 朝日出版
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	前期末試験 30 %、学年末試験 40 %、授業への取り組み 15 % および提出物 15 % で総合的に評価する。		
オフィスアワー	授業日の 15:50 から 17:15 まで		

教科目名: 語学演習 (主演)

( Language Seminar )

担当教員: 主 濱 祐 二

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要			
5年生が取り組んでいる「進路実現」「テクノロジー」の問題、そして興味があると思われる「スポーツ」「音楽」の題材を扱っている記事(新聞、Wikipedia)や映画を用いて、総合的に英語力を高めるのが授業の狙いです。授業の前半は英文記事の単語、文法、内容の確認、後半は映画を見ながらリスニングとライティングの演習を行います。授業は主に英語で行います。分からない場合は質問するなど、積極的な受講姿勢が必要です。			
関連科目: 工業英語、英語表現法			
	授業内容 (W)	達成目標	
前期中間	シラバスとログイン方法の確認 (1)	・進路実現に関連する単語 100 語 (carrer, resume など) の意味を理解する。 ・進路実現に関する英文記事の内容を概ね理解できる。 ・進路実現に関する映画の台詞を概ね聞き取ることができる。 ・進路実現に関する映画の内容について、自分の意見を英語で書くことができる。	
	自分の本当にやりたいこと (1)		
	自分の本当にやりたいこと (2)		
	自分の本当にやりたいこと (3)		
	自分の本当にやりたいこと (4)		
	自分の本当にやりたいこと (5)		
	自分の本当にやりたいこと (6)		
自分の本当にやりたいこと (7)			
前期末	サッカーの魅力 (1)	・スポーツに関連する単語 100 語 (match, referee など) の意味を理解する。 ・スポーツに関する英文記事の内容を概ね理解できる。 ・スポーツに関する映画の台詞を概ね聞き取ることができる。 ・スポーツに関する映画の内容について、自分の意見を英語で書くことができる。	
	サッカーの魅力 (2)		
	サッカーの魅力 (3)		
	サッカーの魅力 (4)		
	サッカーの魅力 (5)		
	サッカーの魅力 (6)		
	サッカーの魅力 (7)		
	前期末試験 (0)		
後期中間	前期末試験の解説と後期の進め方の確認 (1)	・音楽に関連する単語 100 語 (rhythm, lyric など) の意味を理解する。 ・音楽に関する英文記事の内容を概ね理解できる。 ・音楽に関する映画の台詞を概ね聞き取ることができる。 ・音楽に関する映画の内容について、自分の意見を英語で書くことができる。	
	ジョン・レノンの青春 (1)		
	ジョン・レノンの青春 (2)		
	ジョン・レノンの青春 (3)		
	ジョン・レノンの青春 (4)		
	ジョン・レノンの青春 (5)		
	ジョン・レノンの青春 (6)		
ジョン・レノンの青春 (7)			
後期末	科学技術と人間の未来 (1)	・テクノロジーに関連する単語 100 語 (friction, molecule など) の意味を理解する。 ・テクノロジーに関する英文記事の内容を概ね理解できる。 ・テクノロジーに関する映画の台詞を概ね聞き取ることができる。 ・テクノロジーに関する映画の内容について、自分の意見を英語で書くことができる。	
	科学技術と人間の未来 (2)		
	科学技術と人間の未来 (3)		
	科学技術と人間の未来 (4)		
	科学技術と人間の未来 (5)		
	科学技術と人間の未来 (6)		
	科学技術と人間の未来 (7)		
	卒業試験 (0)		
合計 30 週			
教科書	書名: 使用しない	著者:	発行所:
参考書	書名: 授業で視聴する DVD 等	著者:	発行所:
評価方法と基準	毎回の授業への取り組み状況 20 %、課題の提出とその内容 20 %、前期末試験の成績 30 %、卒業試験の成績 30 %の割合で総合評価し、60 点以上を合格とする。		
オフィスアワー	授業日の放課後		

# 専 門 科 目

(平成23年度 第1・2・3・4学年に係る教育課程)

制 御 情 報 工 学 科								
区 分	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 履 修 単 位 数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 科 目	プログラミング言語	3	2	1				
	ソフトウェア工学	2			2			
	実践情報処理	2				2 <sup>*(二)</sup>		
	応用数学	5				3	2	
	応用物理	4			2	2		
	情報処理	1	1					
	信号処理	2						2 <sup>*(一)</sup>
	情報ネットワーク	1						1
	データ構造	2					2 <sup>*(一)</sup>	
	アルゴリズム入門	2					2 <sup>*(一)</sup>	
	ハードウェア概論	1		1				
	プログラミング演習	1			1			
	材料力学	3			2	1 <sup>*(一)</sup>		
	機械運動学	1				1		
	数値解析	2					2 <sup>*(一)</sup>	
	水力学	2					2	
	熱力学	1						1 <sup>*(一)</sup>
	電気工学	2			2			
	マイクロコンピュータ	2			2			
	論理回路	2					2 <sup>*(一)</sup>	
	電子回路	2					2 <sup>*(一)</sup>	
	電子デバイス工学	1					1 <sup>*(一)</sup>	
	電気工学演習	2					2 <sup>*(二)</sup>	
	制御工学Ⅰ	1					1	
	制御工学Ⅱ	2						2 <sup>*(一)</sup>
	計測工学	2						2 <sup>*(一)</sup>
	システム制御	2						2 <sup>*(一)</sup>
	ロボット工学	1						1 <sup>*(一)</sup>
	工業英語	2					1	1
	制御情報工学実験・実習	9		2	3	2 <sup>*(三)</sup>		2
卒業研究	13						13	
機械・電気製図	5	2	2	1				
創造実習	1		1					
創造工学ゼミ	2					2 <sup>*(二)</sup>		
履 修 単 位 数		86	5	7	15	30	29	

\* 印は学則第13条3項に基づく学修単位

\*<sup>(一)</sup> は講義, \*<sup>(二)</sup>は演習,ゼミ, \*<sup>(三)</sup>は実験,実習である

# 専 門 科 目

(平成23年度 第5学年に係る教育課程)

制 御 情 報 工 学 科								
区分	授 業 科 目	単位数	学 年 別 履 修 単 位 数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	プログラミング言語	3	2	1				
	ソフトウェア工学	2			2			
	実践情報処理	2				2 <sup>*(二)</sup>		
	応用数学	5				3	2	
	応用物理	4			2	2		
	コンピュータ入門	1	1					
	C G 入門	1	1					
	信号処理	2						2 <sup>*(一)</sup>
	情報ネットワーク	1						1
	データ構造	2				2 <sup>*(一)</sup>		
	アルゴリズム入門	2				2 <sup>*(一)</sup>		
	ハードウェア概論	1		1				
	プログラミング演習	1			1			
	材料力学	3			2	1 <sup>*(一)</sup>		
	機械運動学	1				1		
	数値解析	2				2 <sup>*(一)</sup>		
	水力学	2				2		
	熱力学	1						1 <sup>*(一)</sup>
	電気工学	2			2			
	マイクロコンピュータ	2			2			
	論理回路	2				2 <sup>*(一)</sup>		
	電子回路	2				2 <sup>*(一)</sup>		
	電子デバイス工学	1				1 <sup>*(一)</sup>		
	電気工学演習	2				2 <sup>*(二)</sup>		
	制御工学Ⅰ	1				1		
	制御工学Ⅱ	2						2 <sup>*(一)</sup>
	計測工学	2						2 <sup>*(一)</sup>
	システム制御	2						2 <sup>*(一)</sup>
	ロボット工学	1						1 <sup>*(一)</sup>
	工業英語	2				1	1	
制御情報工学実験・実習	9		2	3	2 <sup>*(三)</sup>	2		
卒業研究	12						12	
機械・電気製図	5	2	2	1				
創造実習	1		1					
創造工学ゼミ	2				2 <sup>*(二)</sup>			
履 修 単 位 数		86	6	7	15	30	28	

\* 印は学則第13条3項に基づく学修単位

\*<sup>(一)</sup> は講義, \*<sup>(二)</sup> は演習, ゼミ, \*<sup>(三)</sup> は実験, 実習である

教科目名: プログラミング言語

( Programming Language )

担当教員: 内海 哲史

学年・学科/専攻名: 1 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要

プログラミング言語の仕組み、プログラムの作成から実行までの手順を C 言語をとおして学習する。C 言語の基本的構文を学習し、簡単なプログラムの作成を実習する。講義と実習を交互に行い、パソコンを使って実際にプログラミングを経験することで理解を深める。

関連科目: 情報処理、プログラミング演習

	授業内容	(W)	達成目標
前期中間	1. まずは慣れよう ・ 計算結果を表示 ・ 変数 ・ 読み込みと表示	(4)	1. プログラミング言語とコンピュータについて学び、簡単なプログラムの作成から実行までの一連の操作ができる。C 言語の基本を学び、自分の名前をディスプレイに表示するプログラムを作成できる。データの入出力方法を学び、キーボードからデータを入力し、処理結果をディスプレイに表示するプログラムを作成できる。 2. 演算と型を理解し、演算と型を意識したプログラムを作成できる。
	2. 演算と型 ・ 演算 ・ 型	(3)	
前期末	3. プログラムの流れの分岐 ・ if 文 ・ switch 文	(3)	3. 条件判断を理解し、これらの制御文を使ったプログラムを作成できる。 4. 繰り返しを理解し、これらの制御文を使ったプログラムを作成できる。 5. 配列の考え方を理解し、配列を使ったプログラムを作成できる。特に、繰り返し構造と配列を組み合わせたプログラムを作成できる。
	4. プログラムの流れの繰り返し ・ do 文、while 文、for 文 ・ 多重ループ	(3)	
	5. 配列 ・ 配列、多次元配列 (前期末試験)	(2) (0)	
後期中間	6. 関数 ・ 関数とは ・ 関数の設計 ・ 有効範囲と記憶域期間	(7)	6. C 言語の基本となる関数について学び、main 関数の役割を説明できる。 ・ 標準ライブラリ関数を使うことができる。 ・ ユーザ定義関数を作ることができる。 ・ 関数のプロトタイプ宣言を行うことができる。 ・ 引数、関数の値、ローカル変数の概念を理解できる。 ・ 値による呼び出しのメカニズムを理解できる。 ・ 配列を引数とした関数を作成できる。
	後期中間試験	(1)	
後期末	7. いろいろなプログラムを作ってみよう ・ 関数形式マクロ ・ 列挙体 ・ 再帰 ・ 入出力と文字  (学年末試験)	(7) (0)	7. 関数形式マクロ、列挙体、再帰について理解し、それらを用いたプログラムを作成できる。

合計 30 週

教科書	書名: 明解 C 言語 (入門編)	著者: 柴田望洋	発行所: ソフトバンククリエイティブ
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	実習への取り組み 10%、前期末試験 25%、後期中間試験 30%、学年末試験 35% で総合評価し、50 点以上を合格とする。前期末試験、後期中間試験は、各達成目標を確認する内容とし、学年末試験は、授業全体の内容を確認するような問題とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00		

教科目名: 情報処理

( Information Processing )

担当教員: 西山 勝彦

学年・学科/専攻名: 1 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要

現代社会において、コンピュータによる報告書作成、プレゼンテーションそして電子メールによるコミュニケーション等、コンピュータをより効果的に使用する割合が多くなってきている。この授業では、コンピュータによる文書作成、表計算、プレゼンテーションそして電子メールの基本を学び、同時に電子メールのマナーも学ぶ。これにより、コンピュータによる技術報告書作成、プレゼンテーション資料の作成・発表等の基本を習得する。

関連科目: プログラミング言語

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. WINDOWS の基本操作、電子メールの基本とマナー (2) 2. タイピングの基本 (2) 3. ワープロによる文書作成の基本 (4) (前期中間試験) (1)	1. Windows の基本操作、電子メールによるテキストの送受信や添付ファイルによる送受信ができる。 2. タイピングにおいて、ブライドタッチによる入力ができる。 3. 文書の入力、漢字変換、数式の作成、表の作成、図の挿入ができる。
前期末	5. 表計算の基本 (3) 6. プレゼンテーションの基本 (3) (前期期末試験) (0)	1. データの入力、数式・関数による各種計算、グラフの作成ができる。 2. パワーポイントによるプレゼンテーションができる。
後期中間		
後期末		

合計 15 週

教科書	書名: 入門 情報リテラシー	著者: 高橋参吉、松永公廣、若林茂、黒田芳郎	発行所: コロナ社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	前期中間試験 30%、前期期末試験 40%、プレゼンテーション 30% として総合的に評価し、50 点以上を合格とする。各試験においては、達成目標に則した内容を出題する。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00 ~ 17:00		

授業の概要

機械製図に関する日本工業規格を理解し、投影法・製図法を学習するとともに、簡単な部品の作図を通して、加工法を考えた図面を製図できる能力を養う。

関連科目: 数学 I

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	1. 製図の基礎 (1) 製図と規格、製図用具 (2) (2) 線と文字 (1) (3) 投影法と投影図 (5)	(1) 製図規格の基礎、製図用具の使い方を理解できる。 (2) 製図に用いられる各種の線と文字をかくことができる。 (3) 投影法を理解し、第三角法で簡単な部品のかくことができる。
	(4) 等角図 (1) (5) 展開図 (1)	(4) 等角法を理解し、かくことができる。 (5) 展開を理解し、かくことができる。
前期末	2. 製作図のかき方 (1) 表題欄と部品欄、図面の様式、図面のつくり方 (1) (2) 主投影図・断面図 (3) (3) 寸法記入法 (2)	(1) 表題欄、部品欄等作図する前の用紙を準備することができる。 (2) 主投影図の選択や断面図を理解し、かくことができる。 (3) 寸法記入法を理解し、かくことができる。
	(4) 表面性状、寸法公差とはめあい (1)	(4) 表面性状の表し方、寸法公差とはめあいを理解し、かくことができる。
後期中間	3. 機械部品の製作図 (1) ねじの製図 (3) (2) 鋳物部品-1の製図 (3)	(1) ねじ部品のかくことができる。 (2) 鋳物部品の素材形状を理解し、簡単な部品のかくことができる。
	(3) 鋳物部品-2の製図 (3)	(3) 鋳物部品の素材形状を理解し、簡単な部品のかくことができる。
後期末	(4) 鋼材部品-1の製図 (4)	(4) 鋼材の素材形状を理解し、簡単な部品のかくことができる。

合計 30 週

教科書	書名: 製図 著者: 原田 昭 発行所: 実教出版
参考書	書名: 製図に関する図書 著者: (図書館にもある) 発行所:
評価方法と基準	提出作品 (提出期限、小テストも含む) 80%、受講状況 20% で総合評価する。50 点以上を合格とする。
オフィスアワー	月曜日 16:00~17:00



教科目名: プログラミング言語

( Programming Language )

担当教員: 吉 住 圭 市

学年・学科/専攻名: 2 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要

プログラミング言語の仕組み, プログラムの作成から実行までの手順を C 言語をとおして学習する。C 言語の基本的構文を学習し, 簡単なプログラムの作成を実習する。講義と実習を交互に行い, パソコンを使って実際にプログラミングを経験することで理解を深める。

関連科目: プログラミング言語 (1 年)、ハードウェア概論、プログラミング演習

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. C 特有の演算子 (5) ・演算子の種類と優先順位 ・ビット演算子, 前置演算子, 後置演算子 ・条件演算子, カンマ演算子	1. C 特有の演算子について学び, 演算子優先順位の表を読むことができる。 ・論理演算とビットごとの演算子の関係を説明できる。
	2. 構造体 (2) ・構造体の宣言	2. 構造体について学び, 配列と構造体の違いを説明できる。 ・構造体配列を用いた簡単なプログラムを作成できる。
	前期中間試験 (1)	
前期末	2. 構造体 (続き) (3) ・構造体配列 ・構造体の一括代入	3. データ型と記憶クラスについて学び, データ型とメモリサイズの表を読むことができる。 ・固定小数点方式の内部表現方法を理解し, ビットパターンが示されたときに, それが表す数値に変換できる。
	3. データ型と記憶クラス (4) ・データ型 ・enum 型 ・型変換とキャスト	・ローカル変数とグローバル変数が理解できる。 ・自動変数と静的変数の違いを理解し, 適切に使い分けができる。
	(前期末試験) (0)	
後期中間	3. データ型と記憶クラス (続き) (3) ・通用範囲 ・静的変数, 外部変数, 初期化	4. プリ・プロセッサについて学び, 単純なマクロを使う利点を説明できる。
	4. プリ・プロセッサ (1) ・単純なマクロ	5. 標準ライブラリ関数について学び, 乱数関数を使った簡単なプログラムを作成できる。 ・文字列と配列の関係を説明できる。
	5. 標準ライブラリ関数 (5) ・乱数関数 ・文字列処理関数 後期中間試験 (1)	
後期末	6. ファイル処理関数 (5) ・ファイル処理の基本操作 ・ファイルから入力するプログラム ・ファイルへ出力するプログラム	6. ファイル処理について学びファイル操作の基本を理解できる。 ・ファイルのオープン, クローズの説明ができる。 ・ファイルからデータを入力し, 処理するプログラムを作成できる。 ・プログラムで EOF の検出ができる。 ・処理結果をファイルに出力するプログラムを作成できる。
	(学年末試験) (0)	

合計 30 週

教科書	書名: C 言語	著者: 河西朝雄	発行所: ナツメ社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	実習への取り組み (実習メモ) 10%, 前期中間試験 20%, 前期末試験 20%, 後期中間試験 20%, 学年末試験 30% で総合評価し, 50 点以上を合格とする。前期末試験, 後期中間試験は, 各達成目標を確認する内容とし, 学年末試験は, 授業全体の内容を確認するような問題とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00		

教科目名: ハードウェア概論

( Introduction to Hard Ware )

担当教員: 吉 住 圭 市

学年・学科/専攻名: 2 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
基本的な情報技術全般の中のハードウェアの基礎について学習する。基数変換・数値の表現方法・数値の精度と誤差・コンピュータの構成と動作原理・CPU・ブール代数の基礎・記憶装置・入出力装置などの基本知識を習得するとともに、それぞれの機能を理解する。	
関連科目: プログラミング言語、マイクロコンピュータ、論理回路	
授業内容 (W)	達成目標
前期 1. 情報の基礎理論 (6) 1) 基数変換 2) 2進数およびN進数の加減算 3) 負の整数の表現  前期中間試験 (1)	2進数・8進数・16進数の基数の概念を理解できる。 各進数の相互変換を理解できる。 各進数の整数と小数の表し方、負の数の表し方を理解できる。
前期末 4) シフト演算 (8) 5) 固定小数点と浮動小数点 (IEEE形式) 6) 数値の精度と誤差 7) ゾーン10進数とパック10進数  (前期末試験) (0)	2進数のシフト演算を理解できる。 コンピュータが数値を表すときに生じる誤差の種類と性質を理解できる。 数値の内部表現について、説明できる。
後期中間 8) 文字データの表現 (7) 9) 論理演算と論理回路 10) 真理値表・ブール代数・ベーン図 MIL記号 11) ド・モルガンの定理  後期中間試験 (1)	文字コード体系について説明することができる。 いろいろな論理回路を論理演算・MIL記号・ベーン図で表わすことができる。
後期末 12) 加算回路とフリップフロップ回路 (7)  2. ハードウェア 1) コンピュータの構成要素 2) コンピュータの動作原理 3) 命令の実行サイクルとレジスタ 4) 命令とアドレス指定方式  (学年末試験) (0)	加算回路・フリップフロップ回路を学習し、記憶・加算の原理を理解できる。 コンピュータはどのようにして動作するのかを理解できる。 命令の解釈と実行サイクル、有効アドレスの指定方法などを理解できる。
合計 30 週	
教科書	書名: 春期 基本情報技術者試験 合格教本 著者: 定平誠、兼平敦 共著 発行所: 技術評論社
参考書	書名: 情報技術者試験等の問題演習書 著者: 発行所:
評価方法と基準	前期中間試験 20%, 前期末試験 30%, 後期中間試験 20%, 学年末試験 30% で達成度を総合評価し、50点以上を合格とする。試験は、各達成目標に即した内容で出題する。
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00

教科目名: 制御情報工学実験・実習

( Experiments on Control and Information Engineering )

担当教員: 大久保準一郎・安齋弘樹

学年・学科/専攻名: 2 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修得 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( A )

授業の概要		
情報系, 電気系, 制御系, 機械系の各テーマの実習を通して, それらの基礎工学の理解を深めるとともに, 結果に対する考察力と批判力を養う。また, 報告書の書き方の基本を身につける。		
関連科目: プログラミング言語、ハードウェア概論、電気工学		
	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. 安全教育と基礎授業 (2)	実習時における諸注意を行なう。また, 実習に必要な知識について授業を行なう。
	2. テスターの製作と校正 (3)	適切な半田付けができる。電圧・電流計、直流安定化電源などを使って、製作したテスターの校正ができる。
	3. マイコン制御-1 (3)	マイコン H8 を起動させるプログラムを C 言語で作成し, LED の点灯などの実習を行ない、マイコンによる機器制御を理解できる。後期のマイコン制御実習においても同様の実習を行なう。
前期末	4. HTML によるホームページ作成 (3)	HTML 言語・自己 Web サーバにより、自己紹介のホームページを作成し、インターネットの概要を理解できる。
	5. 立フライス盤の基本操作 (3)	立フライス盤を操作できるようになる。さらに、角柱を製作することで立フライス盤の構造を知ることができる。
後期中間	6. オシロスコープと電気回路の実習 (4)	オシロスコープを使って電気信号を表示させ、信号波形から電圧、周波数などの諸量を解析することができる。
	7. マイコン制御-2 (4)	マイコンによる DC モータおよびステップモータの制御、オームの法則、合成抵抗・合成容量の意味を理解できる。
後期末	8. PERL と JavaScript のプログラム実習 (4)	PERL 言語によるアクセスカウンタのプログラムを作成できる。JavaScript によりアナログ時計・フォーム・ラジオボタンなどのプログラムを作成できる。
	9. マシニングセンタのプログラミング実習 (4)	APT 言語のプログラムを作成し、自己のイニシャルプレートをマシニングセンタで製作することができる。
合計 30 週		
教科書	書名: 各実習テーマごとの実習指導書 著者:	発行所:
参考書	書名: 物理の授業で使用している教科書など 著者:	発行所:
評価方法と基準	レポート (70%)・実習態度や出欠状況 (20%) で評価し、50 点以上を合格とする。 機械系の実習については、レポート (50%)・実習態度・実習への取り組み姿勢・出欠状況 (50%) で評価する。	
オフィスアワー	実習実施日の 16:30 ~ 17:30	

授業の概要	
製図法の基礎を理解する。また、機械要素（ボルト、ナットや軸継手）の製図法を理解し、製作図を作成する。CAD（Computer Aided Drawing）の基礎的機能を理解し、図面作成を行う。	
関連科目: 1年 機械・電気製図、3年 機械・電気製図	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間 1. 表面あらさと面の肌および図示法 (1) 2. 寸法の許容限界およびはめあい (2) 3. ねじの種類とねじの製図 (6) ボルト・ナットの呼び方と図示法 ボルト・ナットの製図	1. 表面あらさについて理解し、図示できる。 2. 寸法の許容限界やはめあいについて理解し、図示できる。 3. ねじやボルト・ナットについて理解し、六角ボルト・ナットを正しく製図することができる。
前期末 4. キー・軸継手の概説 (6) 軸継手の製図	4. キーや軸継手について理解し、フランジ形たわみ軸継手を正しく製図することができる。
後期 中間 CAD 1. 操作法およびコマンド (2) 2. 三相誘導電動機の部品図 I (8)	1. CAD の基礎的機能を理解し、CAD を使用できるようにする。 2. 図面の例題として三相誘導電動機の部品図を描くことにより CAD の使い方を習得する。
後期末 3. 三相誘導電動機の部品図 II (5)	3. 図面の例題として三相誘導電動機の部品図を描くことにより CAD の使い方を習得する。
合計 30 週	
教科書	書名: 製図 やってトライ Auto Cad LT2004 著者: 原田 昭 三辻 茂樹 発行所: 実教出版 ソフトバンク
参考書	書名: 適宜プリントを配布する 著者: 発行所:
評価方法と基準	提出作品（提出期限も含む）80%、受講状況（演習も含む）20%で総合評価する。 50点以上を合格とする。
オフィスアワー	授業終了後の休み時間

教科目名: 創造実習

( Creating Practice )

担当教員: 宍戸道明

学年・学科/専攻名: 2年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( G ) ( C ) ( A )

授業の概要	
<p>自らアイデアを出し与えられた課題を解決するため、設計、加工、組立ておよび評価までを行う開発実習を行う。この学習においては、自ら問題点を見つけ解決してゆく能力を身につける。各自が作成した成果に関する発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。</p>	
<p>関連科目:</p>	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	<p>1) 各自のアイデアを具体化する過程で設計図を作製し、作成案を固める。各自のアイデアを図面にしてまとめ、説明することが出来る。設計案は、申告して提出する。</p> <p>2) 作成案にしたがい加工と組立てが出来る。</p> <p>3) 技術者として重要なプレゼンテーションの訓練が出来る。</p>
後期 末	<p>1) 成果の見直しと再設計が行える。</p> <p>2) 改良後の製品を作ることにより、技術の改良の仕方が知ることが出来る。</p> <p>3) 学習成果を文章や図で記述することが出来る。</p>
合計 15 週	
教科書	<p>書名: プリント (指導書)</p> <p>著者:</p> <p>発行所:</p>
参考書	<p>書名: 適宜紹介する</p> <p>著者:</p> <p>発行所:</p>
評価方法と基準	<p>後期中間でのプレゼンと製品評価を 30%、後期末のプレゼンと製品評価を 50%、レポート内容 10%、実習態度 10% で達成度を評価する。総合評価 50 点以上を合格とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16:00~17:00</p>





教科目名: 応用物理

( Advanced Physics )

担当教員: 鈴木 建二

学年・学科/専攻名: 3 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 4 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( ) ( )

授業の概要	
3 年前期の「物理」に引き続き、「光の性質・光の干渉・回折」および「レンズの写像公式」を学ぶ。「原子・電子と物質の性質」についても学修する。授業形態は講義・問題演習である。学習を通して基本事項を理解し、物理現象を系統的、理論的にとらえる能力を養う。	
関連科目: 物理 { 2・3 年 }、応用物理 ( 4 年 )	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期末	
後期中間	1. 光 1-1. 光の性質, 光の速さ, 偏光 (3) 光の反射・屈折, 全反射 光の散乱, 光の分散 1-2. レンズ (3) 凸レンズ・凹レンズ, 写像公式 後期中間試験 (1)
後期末	1-3. 光の干渉と回折 (3) ヤングの干渉実験, 回折格子 薄膜による干渉 2. 原子・電子と物質の性質 2-1. 電子 (2) 2-2. 原子の構造 (2) 2-3. 固体の性質と電子 (1) 学年末試験 (0)
合計 15 週	
教科書	書名: 高等学校 物理 I 著者: 國友正和 他 発行所: 数研出版 高等学校 物理 II 著者: 國友正和 他 発行所: 数研出版
参考書	書名: 問題集「トライアル物理 I」「同 II」 著者: 数研出版編集部 発行所: 数研出版 フォトサイエンス物理図解 著者: 数研出版編集部 発行所: 数研出版
評価方法と基準	後期中間試験 30%、学年末試験 40%、および ( 随時行う小テスト + レポート + 授業への取り組み姿勢 ) 30% で総合評価する。総合評価 50 点以上を合格とする。 試験問題は各達成目標に即した内容で、問題のレベルは教科書の問題および問題集の A・B 問題程度のものを出題する。
オフィスアワー	授業実施日の 16:00 ~ 17:00

教科目名: プログラミング演習

( Practice on Programming )

担当教員: 吉 住 圭 市

学年・学科/専攻名: 3 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要

1 年, 2 年で学習した C 言語のプログラミング能力を高めることを目標とし, 少し大きな問題を解くことにより, プログラミングの勘所をつかむ。特に, 関数によるプログラムの機能分割に積極的に取り組むことにより, 構造化プログラミングの方法を理解し, 実践的なプログラミング能力を身につける。

関連科目: プログラミング言語、アルゴリズム入門

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. ガイダンス (1) ・ 授業の進め方 ・ 仕様メモの書き方 ・ 関数化 (小問題への分解) の方法 2. 課題 1 (5) ・ カレンダーを表示するプログラム	・ 与えられた課題 (問題) の内容を分析し, 適切な解法 (アルゴリズム) を見つけ出すことができる。特に, トップダウン的な解析方法を練習する。 ・ 問題を小問題に分解し, 関数分けを行うことができる。 ・ 事前にプログラム作成のための仕様メモを作成し, 作業の見通しを立てることができる。 ・ 作成したプログラムの解法・機能について, 適切に説明することができ, 文書化することができる。
前期末	3. 課題 2~課題 5 (8) ・ 整数を扱うプログラム ・ 疑似乱数を用いたプログラム ・ 計算を行うプログラム 5. 解説 (1) ・ 演習課題の考え方 ・ レポートの書き方	・ 演習課題を解くことで上記目標を達成する。
後期中間		
後期末		

合計 15 週

教科書	書名:	著者:	発行所:
参考書	書名: C 言語	著者: 河西朝雄	発行所: ナツメ社
評価方法と基準	各課題ごとに仕様メモと作成したプログラムを提出する。課題 2~課題 5 各 25% で達成度を総合評価し, 50 点以上を合格とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00		

授業の概要	
<p>機械や構造物を設計するためには、材料の強度に関する基本的な考え方を学ぶ必要がある。すなわち、単純な引張り・圧縮、せん断、曲げの問題を扱うことにより明確にし、材料力学の基本概念である「応力」、「ひずみ」について学習する。</p>	
<p>関連科目: 材料力学 (4 年)、材料力学特論 (専攻科)</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>1. 機械材料 (3)</p> <p>1. 1 構造材の性質 1. 3 非金属材料 1. 2 構造用金属材料 1. 4 複合材料</p> <p>2. 単純な引張り応力とせん断応力 (3)</p> <p>2. 1 材料の強さと応力 2. 5 せん断ひずみと応力 2. 2 変形とひずみ 2. 6 許容応力 2. 3 応力とひずみ 2. 7 基準強さの求め方 2. 4 せん断荷重とせん断応力</p> <p>前期中間試験 (1)</p>	<p>(1) 構造材の主な性質を理解し、構造用金属材料、非金属材料、複合材料の機械的特性、用途を把握できる。 (2) 荷重と応力、変形とひずみの違いを理解し、引張りとせん断によって生じる応力、ひずみが説明できる。フックの法則、許容応力が理解できる。</p>
<p>3. その他の応力</p> <p>3. 1 引張り (圧縮) 荷重を受けた物体に生じるせん断応力 (2) 3. 2 せん断荷重によって生じる引張り応力と圧縮応力 (2) 3. 3 材料の自重と引張り・圧縮応力 (1) 3. 4 衝撃荷重によって生じる応力 (1) 3. 5 熱応力 (1) 3. 6 各応力から荷重を受ける物体のひずみ (1)</p> <p>前期末試験 (0)</p>	<p>(1) 引張り (圧縮) 荷重を受ける棒の斜面に生じる応力を求めるための基本的な考え方を理解し、式が導出できる。 3 方向から同時に荷重を受ける物体のひずみを求めることができる。</p>
<p>4. 曲げ応力 (その1)</p> <p>4. 1 はり (3) 4. 2 曲げ荷重によって生じるせん断力と曲げモーメント (3)</p> <p>後期中間試験 (1)</p>	<p>(1) 片持ちはり、両端支持はりに作用する曲げ荷重によって生じるせん断力と曲げモーメントの計算ができる。 最大曲げモーメントの求め方を理解し、応用できる。</p>
<p>5. 曲げ応力 (その2)</p> <p>5. 1 単純な曲げだけを受けるはりに生じる応力 (2) 5. 2 平等強さのはり (4) 6. はりのたわみ (2)</p> <p>学年末試験 (0)</p>	<p>(1) 単純な曲げだけを受けるはりに生じる曲げ応力が計算でき、許容応力が与えられたときに、はりの断面寸法をきめることができる。 断面二次モーメント、断面係数の物理的な意味を理解し、各種断面について計算できる。 (2) たわみ曲線の微分方程式とその解法を理解し、片持ちはり、両端支持はりのたわみを求めることができる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 材料力学入門 著者: 堀野正俊 発行所: 理工学社</p>
参考書	<p>書名: わかりやすい材料強さ学 著者: 町田輝史 発行所: オーム社</p>
評価方法と基準	<p>中間試験 (45%)、前期末・学年末試験 (45%)、レポート・受講態度 (10%) を総合的に評価し、50 点以上を合格とする。定期試験問題のレベルは、教科書中の例題、章末の練習問題と同程度とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16:00 ~ 17:00</p>

教科目名: 電気工学

( Electrical Engineering )

担当教員: 安 齋 弘 樹

学年・学科/専攻名: 3 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

情報技術者に必要な電気工学の基本的な知識を体系的に習得する。電気と磁気との間に働く基本法則を学び電磁気現象に関する法則を習得し、電気回路では、電圧・電流・電力の瞬時値の問題について三角関数を使い確実に解くことを目標とする。特に、視覚的な理解を深めるため電磁気学ではラプラスの方程式の解法で差分近似を用いたソフトによるシミュレーションを行い、また、電気回路では SPICE による回路シミュレーションにより交流回路の理解を深め、授業への関心を高める。

関連科目: 基礎数学、電気工学演習、電子回路

授業内容		(W)	達成目標
前 期 中 間	1) ローレンツ力、Maxwell 方程式、単位 2) クーロンの法則 3) 真空中の電界 4) ガウスの法則	(2) (1) (1) (2)	1) 電磁気学の歴史的な背景と単位系を学ぶ。2) 静電気に関するクーロンの法則を理解し、静電力をベクトルを用いて解くことができる。3) ベクトル量である電界を理解し、電気力線を書くことができ、電位の問題を解くことができる。4) 対象性の問題についてガウスの法則を用いて電界や電位を計算できる。
	前期中間テスト	(1)	
前 期 末	5) 導体系と静電容量 6) キャパシタンスの接続 7) 誘電体中のガウスの法則 8) 誘電体境界面での境界条件	(2) (2) (1) (2)	5) 導体の電氣的性質を学び、種々の形状の静電容量が計算できる。6) キャパシタンスの直列、並列接続による合成静電容量が計算できる。7) 誘電体の分極と誘電率の概念が理解でき、電束に関するガウスの法則を用いて誘電体中の電界を計算できる。8) 誘電体表面での境界条件を理解し、異なる誘電体を挟んだ平行平板キャパシタの静電容量を計算できる。
	前期期末テスト	(0)	
後 期 中 間	9) オームの法則 10) 電力 11) ビオ・サバルの法則 12) アンペアの周回積分の法則	(2) (2) (2) (2)	9) オームの法則および消費電力を学び、電気抵抗と電流の関係を学び導電率や抵抗率を用いた計算ができる。10) 消費電力、電力量を学び計算できる。11) 磁界の磁束密度をあたえる法則について学び、ベクトル量の計算ができる。12) 電流と磁束密度の間の関係を学び、無限長円柱電流による磁界の計算等ができる。
	後期中間テスト	(1)	
後 期 末	13) ファラデーの法則 14) インダクタンス 15) 電磁力 16) 直列、並列回路	(1) (2) (2) (2)	13) 電磁力の問題をフレミングの左手の法則を用いて力の向きを求め、トルクの大きさを計算できる。14) ファラデーの法則を用いてコイルに発生する交流起電力が計算できる。15) 自己インダクタンスと相互インダクタンスが理解でき、合成インダクタンスの計算ができる。16) 直流回路に関する基本法則を学び、直列、並列回路の問題を解けるようにする。各種定理、法則を学び様々な問題演習を解くことができる。
	後期期末テスト	(0)	
合計 30 週			

教科書	書名: 演習 電気磁気学 英語で学ぶ 電気回路	著者: 大貫繁雄/安達三郎 永吉 浩、他	発行所: 森北出版 日新出版
参考書	書名: ファインマン物理学 III (電磁気学) 新交流回路基礎演習	著者: R.P.Feynman (宮島龍興 訳) 川上春夫/島田一雄	発行所: 岩波書店 工学図書
評価方法と基準	前期中間試験 15%、前期末試験 25%、後期中間試験 15%、レポート 5%、学年末試験 40% で達成度を総合評価する。総合評価 50 点以上を合格とする。中間試験、前期末試験は、各達成目標に則した内容の問題を出題する。学年末試験は授業全体を出題範囲とする。試験問題のレベルは教科書の基礎演習問題と同程度とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00 ~ 17:00		

教科目名: マイクロコンピュータ ( Microcomputer )

担当教員: 西山勝彦

学年・学科/専攻名: 3 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要

マイクロコンピュータ (マイコン) に関する基本的な考え方を理解する。C 言語によるプログラミング、マイコンボードの構造を理解することにより、マイコン利用技術を習得する。

関連科目: ハードウェア概論、制御工学 I

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. マイコン制御の基礎 (5) 2. マイコンでのデータ表現 (2)	1. マイクロコンピュータの基本構成、基本動作、マイコン制御の手順等について理解し説明できる。  2. コンピュータのデータ表現について説明できる。
	(前期中間試験) (1)	
前期末	3. H8 マイコンとは (1) 4. H8/3048F マイコンの基礎 (6)	3. H8 マイコン関連の知識について理解し説明できる。  4. H8/3048F マイコンの全体像を理解し説明できる。
	(前期期末試験) (0)	
後期中間	5. C 言語によるプログラミング (7)	5. C 言語によるプログラムの作成法と開発法についての基礎を学び説明できる。
	(後期中間試験) (1)	
後期末	6. アセンブラ言語 (7)	6. アセンブラ言語の基本的な事項を理解し説明できる。
	(学年末試験) (0)	

合計 30 週

教科書	書名: H 8 マイコン入門 著者: 堀桂太郎 発行所: 東京電機大学
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	前期中間試験 20 %、前期期末試験 30 %、後期中間試験 20 %、学年末試験 30 %で達成度を総合評価する。総合評価 50 点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義実施日の 16 : 00 ~ 17 : 00

授業の概要		
機械系, 電気系, 制御系それぞれのテーマを通じて, 基礎工学の理解を深めると共に, 工学的現象を感覚的に捉えられるセンスと, 結果に対する考察力, 批判力を養う. 加えて, 各関連教科内容を再認識する. また, 報告書の書き方の基本を身につける.		
関連科目:		
	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. レポートの書き方, 実験概要, 実験の心得 (1)	1. 実験の概要説明をする. 各実験時に留意すべきことを知らせる. また, 報告書の基本構成と書き方を指導する 2. 製造現場で多様されている工作機械のプログラミングを理解できる
	2. マシニングセンター (5)	
前期末	3. デジタル回路 (5)	3. TTL 論理 IC を利用した組合せ回路の作成と真理値表による動作解析ができる 4. AC モータ, DC モータ, ステッピングモータの原理・特性について理解できる
	4. サーボモータ (5)	
後期中間	5. 直流回路の基礎 (2)	5. 抵抗だけで構成される回路網において, 合成抵抗を利用した解析とキルヒホッフの法則を利用した解析ができる 6. R-L 直列回路ならびに R-C 直列回路において, 瞬時値法による解析ができる
	6. 交流回路の基礎 (3)	
後期末	7. 半導体デバイスの基礎特性 (5)	7. ダイオード, トランジスタの静特性を理解できる. 更に, ダイオードを用いた回路により, 波形整形の方法を理解できる 8. レポートを基に, 実験を振り返り, 再検討して, 理解を深めることができる. 各関連最新技術の紹介も行い, これによって技術動向を理解することができる.
	8. 各実験の復習と補填 (4)	
合計 30 週		
教科書	書名: プリント (指導書: 各担当教官著作)	著者: 発行所:
参考書	書名: 適時実験時に紹介する	著者: 発行所:
評価方法と基準	実験の心構えと態度, 提出レポート (100%) から問題解決のための調査・解析力などを総合的に判断して評価し, 50点以上を合格とする	
オフィスアワー	実験実施日の 12:30 ~ 13:00, または 16:00 ~ 17:00	

授業の概要	
前半は、基本的な論理回路について学び、CAD を使って、簡単な論理回路を設計、作成する。後半は、三次元 CAD を用いて簡単なモデルを作成し、基本操作を習得する。	
関連科目: 機械・電気製図 ( 1, 2 年)、基礎数学、物理	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間 1. 論理回路の作成 (1) 論理回路の概要 (1) アナログとデジタルの違い、ブール代数、論理式、論理ゲート、真理値表、カルノー図 (2) ソフトウェアの操作 (1) 基本的な論理回路の作図、シミュレーションの実行 (3) フリップフロップ (2) (4) カウンタ (2) (5) 半加算回路、全加算回路、複数ビットの加算回路 (2)	アナログとデジタルの違いを学び、抽象概念と物理動作の関係を把握できる。 論理式、論理ゲートの関係を学び、簡単な論理回路を描くことができる。 真理値表、カルノー図を学び、利用方法を理解できる。 ソフトウェアを使って論理回路を作成でき、シミュレーションによる動作検証ができる。 フリップフロップ、カウンタ、加算回路を理解し、基本的な論理回路を設計、作成できる。
前期 期末 (6) BCD カウンタ (1) 2. 三次元 CAD の基礎 (1) 3D-CAD の概要と基本操作、簡単な部品作成 (1) (2) アセンブリ (簡単なリンク機構) の作成 (1) (3) 基本ツールの利用 (1) ネジ、ボルト、歯車などの自動生成と三面図の生成 (4) 課題作成 (3)	BCD カウンタを理解し、基本的な論理回路を設計、作成できる。 三次元 CAD の基本操作を習得し、簡単な部品、アセンブリを作成できる。 三次元 CAD から二次元図面を生成できる。
後期中間	
後期末	
合計 15 週	
教科書	書名: ゼロから学ぶデジタル論理回路 著者: 秋田純一 発行所: 講談社
参考書	書名: SolidWorks による 3 次元 CAD 著者: 門脇重道, 高瀬善康 発行所: 実教出版
評価方法と基準	課題 (提出期限, 態度なども含む) 50%, 講義中に実施するテスト 50% で評価し, 総合点で 50 点以上を合格とする。
オフィスアワー	実施日の 16:00~17:00

教科目名: 実践情報処理

( Practice on Information Processing )

担当教員: 内海 哲史

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 演習 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要	
<p>基本的な情報技術全般の中のソフトウェア工学の後半について学習したあと、基本情報技術者試験の既出問題の演習を行いながら、実際的な情報技術分野を学ぶ。また、学習した項目を材料にしてC言語のプログラム作成と実習を行なう。さらに、情報技術に関係した基礎的な数学と物理学の問題演習も行なう。</p>	
<p>関連科目: アルゴリズム入門、ソフトウェア工学、ハードウェア概論</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中期</p> <p>1. ファイルとデータベース 1) データの正規化 2) DBMS 2. 通信の仕組み 1) 通信機器と通信回線 2) データ伝送のしくみ (接続方式と通信方式) 3) 同期制御とエラー制御 4) 伝送制御手順 小テストまたは演習テスト</p>	<p>データベースの構造・構築について学習する。 データ通信に関する多くの技術・原理を理解できる。 ソコン同士の接続方式や通信方式を学び、データ通信における制御手順について理解できる。</p>
<p>前期末</p> <p>3. ネットワークシステム 1) ネットワークアーキテクチャ 2) LAN の構成・接続方法・アクセス制御 3) インターネット技術 4) Web ページ 4. システム開発 1) システム開発と運用の概要 2) システムの内部設計と外部設計 期末テスト</p>	<p>情報技術者がシステムを構築するときの役割分担の全貌を知ることができる。システムを立ち上げたときのテスト方法や保守などの概要を知ることができる。</p>
<p>後期中間</p> <p>3) プログラム設計とプログラムテスト 4) システムの保守と作業管理 5. 情報システムと社会 1) システムの信頼性 2) セキュリティと標準化 3) 知的所有権 4) 企業の会計と経営分析 小テストまたは演習テスト</p>	<p>2年から4年にわたって学習してきた情報技術分野について総合復習しながら、問題演習を行ない、情報系の総合力を身につけることができる。</p>
<p>後期末</p> <p>6. 演習 1) 情報技術者試験の問題演習 2) 情報系の数学・物理の問題演習 小テストまたは期末テスト</p>	<p>情報技術全般の問題演習を行なうとともに、情報に関連した数学・物理の問題を演習することにより総合力を身につけることができる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 基本情報技術者試験合格教本 著者: 定平 誠 兼平 敦 発行所: 技術評論社</p>
参考書	<p>書名: 情報技術者試験等の演習書 著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>前期末・学年末試験 (50%)、小テスト (30%)、レポート・受講態度・出欠状況 (20%) を総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16:30 ~ 17:30</p>

教科目名: 応用数学

( Applied Mathematics )

担当教員: 野々村 和 晃

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 3 単位 通年 週 ( 前期 3 ) ( 後期 3 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( ) ( )

授業の概要

重積分、微分方程式、複素数、ラプラス変換についての知識の定着をはかり、応用力を鍛える。演習、レポート、小テストなどによって、理解を深め、思考力と計算力を高める。物事を論理的に考える能力を養う。

関連科目: 数学 I (第 1・2・3 学年)、数学 II (第 1・2・3 学年)

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	1. 重積分 (1) 微分・積分の復習 (2) (2) 重積分の定義と計算 (3) (3) 極座標による重積分の計算 (2)	1. 重積分 (1) 基礎的な公式を利用して計算する。 (2) 重積分の意味がわかる。累次積分の計算ができる。積分順序の変更ができる。体積が求められることができる。 (3) 極座標と極方程式の意味がわかり、極座標による重積分の計算ができる。
前期末	2. 微分方程式 (I) (1) 微分方程式の意味 (1) (2) 変数分離形 (2) (3) 同次数形 (1) (4) 線形微分方程式 (2) (5) 全微分方程式 (2) (前期末試験) (0)	2. 微分方程式 (I) (1) 微分方程式・一般解・特殊解・階数の意味がわかる。 (2) 変数分離形の微分方程式が解くことができる。 (3) 同次形の微分方程式が解くことができる。 (4) 1 階線形微分方程式が解くことができる。 (5) 全微分方程式が解くことができる。
後期中間	3. 微分方程式 (II) (1) 2 階微分方程式 (2) (2) 定数係数線形 2 階常微分方程式 (2) 4. 複素数 (1) 複素数の演算と複素数平面 (1) (2) 複素数の極表示 (1) (3) ド・モアブルの定理と応用 (1)	3. 微分方程式 (II) (1) 特別な場合に 2 階常微分方程式が解くことができる。 (2) 定数係数線形 2 階常微分方程式が解くことができる。 4. 複素数 (1) 複素数の計算ができ、複素数の平面表示ができる。 (2) 複素数の偏角と絶対値がわかり、極表示ができる。 (3) ド・モアブルの定理が理解でき、 $n$ 乗根が求められることができる。
後期末	5. ラプラス変換 (1) ラプラス変換の定義と性質 (3) (2) 逆ラプラス変換の性質 (3) (3) ラプラス変換の応用 (2) (学年末試験) (0)	5. ラプラス変換 (1) 簡単な関数のラプラス変換ができる。 (2) 簡単な逆ラプラス変換ができる。 (3) ラプラス変換と逆ラプラス変換を使って微分方程式が解ける。

合計 30 週

教科書	書名: 新編 高専の数学 3 第 2 版 新訂 応用数学 著者: 田代嘉宏・難波完爾 碓氷 久 他 発行所: 森北出版 大日本図書
参考書	書名: 新編 高専の数学 1~3 第 2 版 問題集 やさしく学べる 微分方程式 著者: 田代嘉宏 石村園子 発行所: 森北出版 共立出版
評価方法と基準	前期末試験 20%、学年末試験 20%、その他授業中に行うテスト (課題テスト・小テスト等) 30%、レポート 20%、授業への取り組み 10% で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に即した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。
オフィスアワー	授業日の 16:00 ~ 17:00

教科目名: 応用物理

( Advanced Physics )

担当教員: 吉 木 宏 之

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>科学技術の基礎である物理学の方法論を、講義・問題演習を通して学び、物理現象を系統的・論理的に捉える能力の育成を目指す。また、微分、積分等の数学的手法を活用して問題を解析する能力を養う。前期は「質点の力学」、「剛体の力学」、「単振動」を、後期は「減衰振動、強制振動」、「波動方程式」、「電場と磁場」を学ぶ。</p> <p>関連科目: 物理 ( 2・3年)、応用物理 ( 3年)、数学 ( 1・2・3年)</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期中間</p> <p>1. 質点の速度・加速度 (2)</p> <p>2. 運動方程式 (3)</p> <p>3. 仕事と運動エネルギー、保存力とポテンシャル (2)</p> <p>前期中間試験 (1)</p>	<p>1. 質点の位置ベクトルを時間微分することで、速度、加速度ベクトルを計算できる。</p> <p>2. 空気抵抗や時間に依存した力を受けて運動する質点の運動方程式を立て、それを解いて物理現象を把握できる。</p> <p>3. 質点に与えられた仕事と運動エネルギーの関係を微積分を用いて理解する。ポテンシャルから保存力を導出できる。また、力学的エネルギー保存則から質点の位置や速度を算出できる。</p>
<p>前期末</p> <p>4. 剛体とつり合い (2)</p> <p>5. 慣性モーメント (2)</p> <p>6. 剛体の平面運動 (2)</p> <p>7. 単振動 (1)</p> <p>前期末試験 (0)</p>	<p>4. 剛体に働く力のモーメントを理解し、つり合いの条件式を導出できる。</p> <p>5. 一様な棒、円板などの剛体の慣性モーメントを算出できる。</p> <p>6. 剛体の平面運動の方程式を導出できる。坂道を転がる物体や、滑車の回転運動を記述できる。</p> <p>7. バネや振り子の運動を記述できる。</p>
<p>後期中間</p> <p>8. 減衰振動と強制振動 (3)</p> <p>9. 波動方程式とその解 (3)</p> <p>後期中間試験 (1)</p>	<p>8. 減衰振動、強制振動の運動方程式を解き、現象を理解できる。</p> <p>9. 媒質の振動を記述する波動方程式の物理的意味を理解し、その解を求めることができる。</p>
<p>後期末</p> <p>10. 電場とガウスの法則 (2)</p> <p>11. 磁場と磁石 (2)</p> <p>12. 電流のつくる磁場 (2)</p> <p>13. 電磁誘導 (2)</p> <p>学年末試験 (0)</p>	<p>10. 電荷がつくる電場をイメージできて、電場を求めるガウスの法則を理解できる。</p> <p>11. 磁場についてイメージできる。種々の磁石について理解する。</p> <p>12. 電流がつくる磁場を算出できる。</p> <p>13. 電磁誘導の原理を理解し、身の回りの応用例を説明できる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 物理学 自作プリント</p> <p>著者: 小出昭一郎</p> <p>発行所: 裳華房</p>
参考書	<p>書名: 適時、講義において紹介する。</p> <p>著者:</p> <p>発行所:</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験 15%、前期末試験 20%、後期中間試験 15%、学年末試験 25%、課題レポート 15%、授業の取組姿勢 10% で達成度を総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。</p>
オフィスアワー	<p>授業実施日の 16:00 ~ 17:00</p>

授業の概要	
<p>プログラムを作成する上で大切なアルゴリズムとデータ構造の関係について学習する。データ構造を実現するモデル言語としてC言語を使い、実際にプログラムとして表現することによって、理論だけではなく、応用面も学習する。対象となるデータの性質から、適切なデータ表現方法・アルゴリズムを選択できる能力を学ぶ。</p>	
<p>関連科目: プログラミング演習、アルゴリズム入門</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中間</p> <p>1. アルゴリズムとデータ構造の基本 (2) ・計算量, 抽象データ型 ・配列, 構造体, ポインタ</p> <p>2. 基本的なデータ構造 (5) ・リスト, スタック, 待ち行列 ・連結リスト ・プログラムへの応用</p> <p>前期中間試験 (1)</p>	<p>1. アルゴリズムとデータ構造の基本について学び, 計算量の概念を理解し, 簡単なアルゴリズムについてその計算量を求めることができる。 ・アルゴリズムの評価に計算量を使う理由を説明できる。 ・抽象データ型の説明ができる。</p> <p>2. 基本的なデータ構造について学び, リスト, スタック, 待ち行列の特徴を説明できる。 ・連結リストの概念, 特徴を説明できる。</p>
<p>前期 末</p> <p>2. 基本的なデータ構造 (続き) (2) ・循環リスト, 双方向リスト ・順序木, 無順序木, 木のなぞり</p> <p>3. 探索 (5) ・ハッシュ法 ・二分探索木 ・平衡木 (AVL 木)</p> <p>(前期末試験) (0)</p>	<p>・連結リストの基本操作を説明できる。 ・木構造とその用語を説明でき, 木を3つの方法でなぞることができる。</p> <p>3. 探索について学び, ハッシュ法, 二分探索木の特徴について説明ができる。 ・AVL 木の回転操作を使って, 要素の挿入, 削除に対して木の変形ができる。</p>
<p>後期 中間</p> <p>4. 整列 (8) ・安定な整列 ・単純な整列アルゴリズム ・シェルソート ・マージソート ・ヒープソート ・比較によらないソート</p> <p>後期中間試験 (1)</p>	<p>4. 基本的な整列アルゴリズムが安定な整列かどうかを判定することができる。 ・基本的な整列アルゴリズムの特徴を説明できる。 ・基本的な整列アルゴリズムの計算量を示すことができる。 ・配列によるヒープのプログラムを作成できる。 ・比較によらない整列アルゴリズムとアルゴリズムの適用条件を説明できる。</p>
<p>後期 末</p> <p>5. 文字列 (3) ・正規表現とオートマトン ・正規表現から有限オートマトンへの変換</p> <p>6. いろいろなアルゴリズム (3) ・深さ優先探索法, 幅優先探索法 ・プログラムへの応用</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>5. 正規表現が表す文字クラスが分かる。 ・正規表現から非決定性有限オートマトンへ, さらに決定性有限オートマトンに変換することができる。</p> <p>6. 複雑な問題の解法について学び, バックトラック法, 幅優先探索法の特徴を説明できる。 ・バックトラック法を用いたプログラムを作成できる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: アルゴリズムとデータ構造 著者: 近藤嘉雪 発行所: ソフトバンクパブリッシング株式会社</p>
参考書	<p>書名: 著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>課題レポート ( 自学自習 ) 20%, 前期中間試験 15%, 前期末試験 20%, 後期中間試験 15%, 学年末試験 30% で達成度を総合評価し, 60 点以上を合格とする。前期中間試験, 後期中間試験は, 各達成目標を確認する内容で出題する。前期末試験, 学年末試験は, 授業全体の内容を確認するような問題とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16:00~17:00</p>

教科目名: アルゴリズム入門

( Algorithm for Beginner )

担当教員: 三 村 泰 成

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (講義) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要

技術者として必要なアルゴリズムの基礎を学び、その利用法を習得する。また、実際の工学で使われている例を多く用いることで、決まった答えを求めめるのではなく、コンピュータを用いた問題解決法を学ぶ。

関連科目: プログラミング言語、数値解析

授業内容 (W)		達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	ソートアルゴリズム概論 (1) 直接選択法, バブルソートの実装 (1) シェーカーソート, 基本挿入法, シェルソートの実装 (1) クイックソートの実装, 二分探索の実装 (1) CGの基礎, 2次元アフィン変換 (1) 簡単なアニメーションの実装 (2)	・最も基本的アルゴリズムであるソートとサーチを理解し, C言語で実現できる。 ・CGの基本である2次元アフィン変換を理解し, 実現できる。 ・簡単なアニメーションを実装できる。
後期末	後期中間試験 (1) 時間積分法(オイラ法, ヴェルレ法)の実装 (1) 放物運動, 空気抵抗 (2) バネと質点系の運動 (2) 重力による惑星軌道の計算 (2)	・時間積分の利用法を理解できる。 ・実際の物理現象の計算を実現することで, 多様な問題に対する解決能力を習得できる。
	学年末試験 (0)	

合計 15 週

教科書	書名: C言語によるはじめてのアルゴリズム	著者: 河西朝雄	発行所: 技術評論社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	後期中間試験 40%, 学年末試験 50%, 授業への取り組み状況 10%を元に達成度を総合評価する。総合評価 60点以上を合格とする。		
オフィスアワー	実施日の 16:00 ~ 17:00		

教科目名: 材料力学

( Strength of Materials )

担当教員: 三 村 泰 成

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 ( 前期 1 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 15 時間 )

単位種別: 学修単位 (講義) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

3年における基礎的な学習を踏まえ、やや複雑な材料力学の必須問題、すなわち、伝動軸の設計に欠かせないねじり応力、引張り（圧縮）と曲げ、あるいは引張りとねじりが同時に作用するような、より実際的な組み合わせ応力等の基礎について学び、機械や構造物を合理的かつ経済的に設計する際に必要となる知識を身に付ける。

関連科目: 材料力学（3年）

授業内容		(W)	達成目標
前 期 中 間	1. ねじり応力		丸軸のねじりによるひずみ、ねじり応力、トルクとねじり応力およびねじれ角の関係を理解し、伝動軸の設計に応用できる。
	1. 1 ねじりを受ける一様な太さの棒	(3)	
1. 2 動力伝動軸のねじり応力	(2)		
1. 3 動力伝動軸のねじれ角	(2)		
	前期中間試験	(1)	
前 期 末	2. 組み合わせ応力		棒材が軸荷重と同時に曲げやねじりの作用を受けるときの応力を理解し、最大応力が評価できる。曲げモーメントとねじりモーメントを受ける丸軸の曲げ応力およびねじり応力が計算でき、中実、中空丸軸の断面寸法を決めることができる。
	2. 1 引張り・圧縮と曲げを受ける場合	(2)	
	2. 2 引張りとねじりを受ける場合	(3)	
	2. 3 曲げモーメントとねじりモーメントを受ける場合	(2)	
	前期末試験	(0)	
後 期 中 間			
後 期 末			

合計 15 週

教科書	書名: 材料力学入門	著者: 堀野正俊	発行所: 理工学社
参考書	書名: 図解材料強さ学の学び方	著者: 町田輝史	発行所: オーム社
評価方法と基準	中間試験 (40%) 期末試験 (50%)、課題レポート・受講態度 (10%) を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。		
オフィスアワー	実施日の 16:00~17:00		

教科目名: 機械運動学

( Machine Kinematics )

担当教員: 加藤 康志郎

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

工業製品や日用品の多くは機械によって生み出されている。機械を構成する要素の運動は案外簡単な原理から成り立っている。この授業では、機械を構成している個々の要素の形とそれらの間の相互運動を講義する。はじめに機械運動の基礎を説明し、つぎに歯車やリンク機構等、各種伝導装置の運動を解説する。

関連科目: 数学 I、数学 II

授業内容 (W)		達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	1. 機械の運動の基礎 (2) 2. 機構における速度 (4) 後期中間試験 (1)	1) 連鎖を用いて機構の運動を説明できる 瞬間中心を求めることができる 2) 瞬間中心を利用してリンクの速度ベクトルを求めることができる 機構の分速度, 相対速度からリンクの速度を求めることができる
後期末	3. 摩擦伝動装置 (4) 4. 歯車列 (4) 後期末試験 (0)	3) 転がり接触をするための条件を説明できる だ円車を設計できる。 無断変速の摩擦車を設計できる 4) インボリュート曲線とモジュールを説明できる 中心固定の歯車列の運動を説明できる 遊星歯車列の運動を説明できる

合計 15 週

教科書	書名: 機構学 著者: 森田均 発行所: サイエンス
参考書	書名: 機構学入門 著者: 高 発行所: 山海
評価方法と基準	後期中間試験 (40%), 後期末試験 (40%), 4度のレポート (20%) を総合的に評価し, 60点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義日の 16:00~17:15

教科目名: 数値解析

( Numerical Analysis )

担当教員: 三 村 泰 成

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (講義) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( C ) ( )

授業の概要	
<p>数値解析手法は、現在の工学において不可欠な知識であることを理解し、数値計算手法の基本知識を身につける。これにより、エンジニアとしての基本能力である定量的解析能力を養うことが出来る。また、C言語によるプログラミング演習を行うことで、実用方法についても身につけられる。</p>	
<p>関連科目: プログラミング言語、シミュレーション工学 (専攻科)</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中間 (前期中間試験)</p>	
<p>前期末 (前期末試験)</p>	
<p>後期中間 数値計算法の概説 (1) 行列とベクトルの基礎, 数値計算における誤差 非線形方程式 (1) 二分法, ニュートン法 連立1次方程式 (2) 直説法, 反復法 関数近似, 数値積分 (2) 補間, 最小二乗近似, 差分近似 (後期中間試験) (1)</p>	<p>1) ベクトル, 行列演算を数値計算に利用できるようになる。 2) 数値表現, 数値誤差などについて理解し, 丸め誤差の問題などに 対処できる。 3) 非線形方程式の解法について理解し, プログラムに 応用できる。 3) 連立方程式の代表的な解法を理解し, プログラムを利用できるよ うになる。 4) 関数近似法として重要な補間法と最小二乗法を理解し, その関数 の数値微分を求めることが出来る。</p>
<p>後期末 数値積分 (1) 台形公式, シンプソン則, ガウス積分 常微分方程式 (3) オイラー法, ルンゲクッタ法 固有値問題 (3) 固有値, 固有ベクトル, 工学的応用例 数値シミュレーション概説 (1) 差分法など (0) (学年末試験)</p>	<p>1) 数値積分の考え方を理解し, 利用できるようになる。 2) 初期値問題の概要を理解し, 簡単な放物問題などへ応用で きるようになる。 3) 固有値・固有ベクトルを理解し, 解法, 応用例を説明で きる。 4) 数値シミュレーションの概要を理解し, それを説明でき る。</p>
合計 15 週	
教科書	<p>書名: 数値計算法 著者: 藪忠司, 伊藤惇 発行所: コロナ社</p>
参考書	<p>書名: よくわかる数値計算 著者: 佐藤次男, 中村理一郎 発行所: 日刊工業</p>
評価方法と基準	<p>後期中間試験 40%, 学年末試験 50%, 授業におけるレポートおよび受講態度 10% で達成度を総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。</p>
オフィスアワー	<p>実施日の 16:00~17:00</p>

教科目名: 水力学

( Hydraulics )

担当教員: 丹 省 一

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>(1) 質点の力学から連続体の力学に発展させ、関連性を理解できる、(2) 微分積分学の工学への利用を把握できる、(3) 演習を重視し、数値計算の専門分野への応用を修得できる、(4) 生活の中での物理現象との照合により工学的センスを身につけることができる。自然界の現象に関心を持ち、他教科で学ぶ理論等と関連付けを理解できる。これまで学んだ数学の基礎知識を理解しておくこと。</p> <p>関連科目: 物理、流体機械</p>	
授業内容 (W)	達成目標
<p>1. 流体の性質 (1) 剛体と流体 (2) 単位 (3) 粘性 (2)</p> <p>2. 流体静力学 (1) 圧力 (2) 圧力の測定 (3) 平板に作用する力 (4) (4) 浮力 (5) 相対的静止状態にある流体 (3)</p>	<p>Newton の粘性の法則を理解できる。大気の流れ (高度と速度) の関係も理解できる。</p> <p>圧力の本質を理解し、圧力の測定と圧力による力の算出から、微積分の工学への理解を深めることができる。</p>
<p>3. 連続の式 質量保存則と連続の式 (3)</p> <p>4. ベルヌーイの定理 (1) オイラーの運動方程式 (1) (2) ベルヌーイの定理と応用 (その1) (2)</p> <p>(前期末試験) (0)</p>	<p>質量保存則の連続体での応用を理解できる。</p> <p>エネルギー保存則を理解させて、質量保存則との関連から、流れにおける諸現象を説明できる</p>
<p>(2) ベルヌーイの定理と応用 (その2) (3)</p> <p>5. 運動量の法則 運動量の法則と角運動量の法則 (2)</p> <p>6. 次元解析 (1) バッキンガムの <math>\pi</math> 定理 (2)</p>	<p>ベルヌーイの定理は、水力学の根幹をなすものであるため、多くの応用例を学び幅広く理解できる。</p> <p>流れが外部に作用する力 (又は、逆) を理解し、流体と外部間の力とエネルギーの授受関係を知ることができる。</p> <p>次元的に、諸現象を推定することができることを学ぶ。モデルと実機の関係から、モデル実験の重要性と手法を理解することができる。</p>
<p>(2) 相似条件と相似則 (2)</p> <p>7. 管内流れ (1) 層流と乱流 (2) 管内流れと摩擦損失 (4)</p> <p>8. 揚力と抗力 (1) 抗力係数と境界層 (2) 翼と揚力係数 (2)</p> <p>(学年末試験) (0)</p>	<p>理想流体の流れと実際の流れの違いを理解し、水力学の知識を実際に応用できる能力を身につけることができる。</p> <p>流れの中の物体に作用する力を、主に翼と自動車を題材にして空気力学的特性を理解し、これらの形状について、流体学的な説明ができる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 水力学 [基礎と演習] 著者: 北川 能 発行所: パワー社</p>
参考書	<p>書名: 適時講義において紹介する。 著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>前期中間小試験 20%、後期中間小試験 20%、および前期末試験 30%、学年末試験 30% で達成度を評価し、60 点以上を合格とする。試験問題は、教科書の例題と演習問題 (補足問題等はプリントを配布する) のレベルとする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16:00 ~ 17:00</p>

教科目名: 論理回路

( Logic Circuit )

担当教員: 宮崎孝雄

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 (講義) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
デジタル回路を主として論理回路の観点から学ぶ。ブール代数を学んだ後、ゲート回路およびゲート回路を応用した組合せ論理回路の解析と設計方法を学ぶ。次に、各種フリップフロップの動作を学んだ後、その応用であるカウンタ、シフトレジスタなどの設計方法を学ぶ。最後に、実際の回路製作を行なう上で必要な論理 IC の基礎知識について学ぶ。 関連科目: 電子回路、計測工学、センサー工学	
授業内容 (W)	達成目標
前期 1. 論理回路の基礎 (1) ・ブール代数の基礎、・真理値表 2. ゲート回路 (3) ・基本ゲート回路、・NAND,NOR の定理 3. 論理関数の加法、乗法展開定理 (2) 4. 論理式の作成方法と単純化 (4) ・真理値表から論理式を導く方法 ・カルノー図を用いた論理式の単純化	1) ブール代数の公理と論理変数に関する定理を使い論理式の単純化や等式の証明ができる。 2) 論理式から真理値表を書くことができる。 3) 6つのゲート回路を用いて論理式から論理回路を書くことおよびその逆ができる。 4) 加法、乗法展開定理と真理値表の関係が理解できる。
(中間試験) (1) 5. 組合せ論理回路 (設計方法と代表例) (5) ・パリティ回路、マルチプレクサ ・加算回路、デマルチプレクサ ・冗長入力を含む回路例	5) 真理値表から論理式を導くことができる。 6) カルノー図を利用して論理式の単純化ができる。 7) 冗長入力を理解し論理式の単純化に応用できる。 8) 基本的な組合せ論理回路の設計ができる。
(前期末試験) (0)	
後期 6. フリップフロップ回路 (4) ・特性表、励起表、遷移表、タイムチャート ・SR-フリップフロップ ・入力方程式とSRの応用 ・D, T, JKフリップフロップ 7. カウンタ、レジスタ (6) ・非同期式カウンタ (後期中間試験) (1)	9) 冗長入力のある論理回路が設計できる。 10) SR-FF, T-FF, D-FF, JK-FF の動作を理解し特性表、遷移表、励起表が書ける。 11) SR-FF を利用して、T-FF, D-FF, JK-FF が構成できる。 12) バイナリおよびN進の非同期式、同期式カウンタの設計ができる。
後期末 ・同期式カウンタ ・シフトレジスタ ・リングカウンタ ・応用回路 8. 順序回路の基礎 (2) 9. 論理 IC インターフェース、ワイヤードOR など (1) (学期末試験) (0)	13) シフトレジスタの動作が理解できる。 14) カウンタ、レジスタ応用回路の動作解析ができる。 15) 状態遷移、応用方程式、入力方程式を利用して簡単な同期式カウンタの設計ができる。 16) TTL, CMOS 論理回路のインターフェース条件やオープンコレクタ IC の動作を理解し論理回路の構成に生かせる。
合計 30 週	
教科書	書名: テキスト (論理回路)      著者: 宮崎孝雄      発行所:
参考書	書名: デジタル電子回路 論理回路入門      著者: 藤井信生 浜辺隆二      発行所: 昭晃堂 森北出版
評価方法と基準	前期中間試験 15%, 前期末試験 30%, 後期中間試験 15%, 学年末試験 40% で達成度を総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。試験は、各達成目標に則した内容の問題を出題する。試験問題のレベルはテキストの章末の演習問題と同程度とする。
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00

教科目名: 電子回路

( Electronic Circuit )

担当教員: 渡部 誠 二

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 講義 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

テレビ、ビデオをはじめ最新の携帯電話などは、電子回路技術を応用した製品に他ならない。電子回路の基本を学ぶことは、新しい回路や素子の開発、応用の基礎となる。このような観点から、基本増幅回路の解析を中心に、等価回路による電圧、電流利得などを計算できるように授業を進めていく。

関連科目: 電気工学、電子デバイス工学

	授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	1. 電子回路素子 (2) 2. 増幅回路の基本 (5)	1. ダイオード, トランジスタの動作原理を説明できる。 2. トランジスタ回路の増幅度が求められる。
前期 期末	2. 増幅回路の基本 (3) 3. RC 結合増幅回路 (5) 前期末試験 (0)	3. 増幅回路の増幅度ならびに入出力抵抗の計算ができる。 4. 直流バイアス回路において動作点を求められる。
後期 中間	4. ダーリントン接続増幅回路の増幅率 (2) 5. 電力増幅回路 (3) 6. 帰還増幅回路 (2)	5. ダーリントン接続による電流増幅率の計算ができる。 6. 帰還の原理を説明できる。 7. 負帰還増幅回路の特徴を理解できる。 8. 演算増幅回路の計算ができる。
後期 期末	6. 帰還増幅回路 (2) 7. 演算増幅回路 (6)	8. 差動増幅回路の動作原理を説明できる。 9. 演算回路の計算ができる。

合計 30 週

教科書	書名: 電気電子系教科書シリーズ12電子回路	著者: 須田健二、土田英一	発行所: コロナ社
参考書	書名: 電子回路	著者: 桜庭一郎、大塚敏、熊耳忠	発行所: 森北出版
評価方法と基準	前期末試験 35%, 学年末試験 45%, 小テスト 20% として総合的に評価する。各試験においては、達成目標に則した内容を選定して出題する。試験問題のレベルは、教科書および板書、授業ノートと同程度とする。総合評価で 60 点以上を合格とする。		
オフィスアワー	月曜日 ~ 金曜日の 12:15 ~ 13:00		

授業の概要		
シリコン半導体材料の電気的特性を物性論的に理解するために半導体のキャリア密度に関するバンド理論を学ぶ。その基礎の上に立って、pn 接合ダイオード、バイポーラトランジスタ、FET の基本構造と動作原理について学ぶ。		
関連科目: 応用物理、電子工学、センサー工学		
前期	授業内容 (W)	達成目標
中期		
前期末		
後期中間	1. 半導体のバンド理論 (2) 1) 孤立原子の電子エネルギーの量子化と配列 (2) 2) 結晶構造と電子エネルギーのバンド構造 (2) 3) キャリア密度とフェルミ準位 (2) 2. 半導体の電気伝導 (1) ・ドリフト電流、・拡散電流、・不純物散乱 (中間試験) (1) 3. pn 接合とダイオード (1) ・整流特性、・空乏層、・電位障壁、・接合容量	1) 初期量子論の意義を理解し、H原子からAr原子までの孤立原子の電子配列を説明できる。 2) Si 結晶についてエネルギーバンド構造とフェルミエネルギーの概念を説明できる。 3) 真性半導体、n形、p型半導体の電気伝導度についてバンド理論を用いて定性的に説明できる。
後期末	4. バイポーラトランジスタ (3) ・動作原理 ・基本回路 ・電流増幅率 ・回路記号 5. FET (3) 1) 接合型FET 2) MOS型FET ・動作原理 ・基本回路 ・回路記号 ・動作の特徴 (B.Tとの比較) (学期末試験) (0)	4) pn接合の特性とダイオード特性をバンド理論とフェルミエネルギーレベルを用いて説明できる。 5) バイポーラトランジスタの動作原理をpn接合とキャリア移動特性から説明できる。 6) FETの動作原理をバイポーラトランジスタと対比して説明できる。
合計 15 週		
教科書	書名: テキスト (電子デバイス) 著者: 宮崎孝雄	発行所:
参考書	書名: 電子デバイス工学 著者: 古川、他	発行所: 森北出版
評価方法と基準	中間試験40%、学年末試験60%で総合評価する。60点以上を合格とする。各試験は達成目標の達成度を評価する内容とする。試験問題のレベルはテキストの演習問題と同程度である。	
オフィスアワー	講義実施日の16:00~17:00	

教科目名: 電気工学演習

( Practice on Electrical Engineering )

担当教員: 安 齋 弘 樹

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 ( 前期 2 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 演習 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>情報技術者に必要な電気工学に関して演習を中心に、Maxwell 方程式と電気磁気法則との関連を学び、ベクトル的な取り扱いを習得する。電気回路では、複素数表字による取り扱いで各種電気回路を確実に解くことを目標とする。特に、電磁気学ではラプラスの方程式の解法を差分近似や変分法を用い具体的な問題にあたる。また、電気回路では SPICE による回路シミュレーションにより交流回路の複素表字の理解を深め、授業への関心を高める。</p> <p>関連科目: 基礎数学、電気工学、電子工学</p>	
授業内容	(W) 達成目標
<p>前期中間</p> <p>1. 電磁気学の復習 (2)</p> <p>2. Maxwell 方程式 (6)</p> <p>前期中間テスト (1)</p>	<p>1) 電磁気学の基本的な知識として Maxwell 方程式に関して、変位電流の導入による歴史的な背景を理解し、基礎的な用語や概念を理解できる。(特に、編入生は基礎的知識を確認) 2) Maxwell 方程式の取り扱いを学び、ベクトル解析の基礎的な知識を用いて取り扱いに慣れる。またラプラス方程式や波動方程式を導出し、1次元問題を解くことができる。</p>
<p>前期末</p> <p>4. ラプラスの方程式の解法 1) (2)</p> <p>5. ラプラスの方程式の解法 2) (6)</p> <p>前期期末テスト (0)</p>	<p>1) ラプラス方程式の解法として、差分近似と変分法とを取り上げる。応用問題として、2次元問題を取り上げ伝送線路の断面の電位分布を求める、差分近似と変分法とによる結果を比較し、両者の解法の性質について理解し、問題に対する効率的な解法について理解し、解くことができる。2) 差分近似についてはコンピュータを用いて表計算プログラムの作成ができる。実践的な問題の解法を通じて各種解法の取り扱いができる。学生は自ら作成したプログラムおよび結果を発表形式で示すことができる。</p>
<p>後期中間</p> <p>6. 回路理論 1 (交流) (6)</p> <p>後期中間テスト (1)</p>	<p>正弦波のフェーザ表示と基本的性質。回路のインピーダンス、複素電力 (有効電力、無効電力、皮相電力、力率) についての問題を解くことができる。</p> <p>正弦波のフェーザ表示と基本的性質。回路のインピーダンス、複素電力 (有効電力、無効電力、皮相電力、力率) についての問題を解くことができる。</p>
<p>後期末</p> <p>7. 回路理論 2 (交流) (6)</p> <p>後期期末テスト (0)</p>	<p>基本回路の周波数特性、ブリッジ回路、共振回路、および各種回路の問題について演習を中心に問題を解くことができる。</p>
合計 30 週	
教科書	<p>書名: 演習 電磁気学 英語で学ぶ 電気回路</p> <p>著者: 大貫繁雄/安達三郎 永吉 浩、他</p> <p>発行所: 森北出版 日新出版</p>
参考書	<p>書名: ファインマン物理学 III (電磁気学) 新交流回路基礎演習</p> <p>著者: R.P.Feynman (宮島龍興 訳) 川上春夫/島田一雄</p> <p>発行所: 岩波書店 工学図書</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験 15%、前期末試験 25%、後期中間試験 15%、レポート 5%、学年末試験 40% で達成度を総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。中間試験、前期末試験は、各達成目標に則した内容の問題を出題する。学年末試験は授業全体を出題範囲とする。試験問題のレベルは教科書の基礎演習問題と同程度とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16:00 ~ 17:00</p>

教科目名: 制御工学 I

( Control Engineering I )

担当教員: 柳 本 憲 作

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

制御技術の基礎とコンピュータによる制御の概要、それを構成する要素と基礎的な技術について学ぶ。さらに制御工学の基礎となる伝達関数、ラプラス変換、ステップ応答についても学ぶ。

関連科目: マイコン制御、制御工学 II

授業内容 (W)		達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	1. 制御の基礎 (1) 2. フィードバック制御の例 (1) 3. 基本的な制御要素 (2) 4. コンピュータ制御の基礎 (2) 5. 中間試験 (1)	(1) 制御技術の基礎であるシーケンス制御フィードバック制御の構成や働きについて理解できる。 (2) 一次遅れ要素、二次振動要素など基本的な制御系について理解できる。 (3) コンピュータによる制御の概要と制御回路に使用される要素について理解できる。
後期末	1. ラプラス変換 (2) 2. ラプラス逆変換 (2) 3. 伝達関数 (一次遅れ要素、高次遅れ要素) (2) 4. 伝達関数とブロック図 (2) 5. 学年末試験	(1) 電力を利用したアクチュエータとして「サーボモータ」の制御を重点に、その機構、種類、制御について理解できる。 (2) 制御工学の基礎数学としてラプラス変換の導入と伝達関数について理解できる。
合計 15 週		

教科書	書名: 自働制御の講義と演習	著者: 添田喬、中溝高好	発行所: 日新出版
参考書	書名: ロボット制御入門	著者: 大熊 繁	発行所: オーム社
評価方法と基準	小テストとレポート (20%) および後期中間試験 (30%)・学年末試験 (50%) により総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。試験問題のレベルは教科書の章末の演習問題と同程度とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:30~17:00		

教科目名: 工業英語

( Technical English )

担当教員: 児 玉 清 志

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要	
工科の学生に必要なとされる工業分野の基礎的な英語力を身につけさせる。 自ら積極的に課題に取り組む姿勢を育てる。 専門分野の用語を学ばせる。	
関連科目:	
授業内容 (W)	達成目標
Lesson 1 What Do Computers Do? (3) Lesson 2 Sun Power In Fossil Fuels (3) Lesson 3 California Energy Crunch (2)	各 Lesson において ・ 5 つの群動詞を理解し、応用できる ・ Short Reading の英文を理解し、内容を把握する ・ 専門用語を覚える
Lesson 3 California Energy Crunch (1) Lesson 4 People And The Environment (3) Lesson 5 Global Warming And The Greenhouse Effect (3) (前期末試験)	各 Lesson において ・ 5 つの群動詞を理解し、応用できる ・ Short Reading の英文を理解し、内容を把握する ・ 専門用語を覚える
Lesson 6 What Is Threatening Our Water? (3) Lesson 7 Stay Healthy With Exercise (3) Lesson 8 What Do You Want To Be? (3)	各 Lesson において ・ 5 つの群動詞を理解し、応用できる ・ Short Reading の英文を理解し、内容を把握する ・ 専門用語を覚える
Lesson 9 International Space Station (3) Lesson 10 I.M.Pei, An Architect (3) (学年末試験)	各 Lesson において ・ 5 つの群動詞を理解し、応用できる ・ Short Reading の英文を理解し、内容を把握する ・ 専門用語を覚える
合計 30 週	
教科書	書名: Brush Up Your Technical English ! 著者: 市川泰弘 発行所: 郁文堂
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	定期試験 60% (前期末 30%、学年末 30%)、小テスト (20%) および授業への取り組み姿勢 (20%) で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。 定期試験のレベルはテキストの演習問題と同程度とする。
オフィスアワー	講義実施日の 放課後とする

教科目名: 制御情報工学実験・実習

( Experiments on Control and Information Engineering )

担当教員: 佐藤義重・宮崎孝雄・吉住圭市・西山勝彦

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修得 2 単位 前期 週 ( 前期 6 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 90 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 実験・実習 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( A )

授業の概要	
応力解析, パルス回路, 数値シミュレーション, アルゴリズム応用技術に関する実験・実習を通じて材料力学, 電気・電子, プログラミングやソフトウェアに関する実践的能力を身につける. また, レポート作成を通じて基本的なレポートの書き方に習熟する.	
関連科目: 材料力学, 論理回路, アルゴリズム入門	
授業内容 (W)	達成目標
前期 1. 数値力学実験 (4) 1) 引張試験 2) 両端支持ばりの曲げ試験 2. パルス回路の基礎 (4) 1) RC積分, 微分回路の特性 2) トランジスタを用いたパルス発振回路 3) 単安定回路によるパルス整形回路 4) オペアンプによるコンパレータ回路 前期末 3. 数値シミュレーション実験 (4) 1) 最小二乗法による曲線近似プログラムの作成と数値実験 2) 数値シミュレーションと時系列データの分析と考察 後期中間 4. 情報処理実験 (4) 1) バブルソート法, クイックソート法のプログラム作成 2) プログラムの実行時間の測定と考察 後期末	・降伏点, 引張り強さを計算しその意味が理解できる。 ・荷重とたわみとの関係からヤング率が計算できる。 ・ひずみ測定から曲げモーメント図が書ける。 ・RC回路のパルス波応答特性が理解できる。 ・トランジスタを用いた非安定マルチバイブレータが構成でき動作を説明できる。 ・単安定回路の動作を説明できかつ応用できる。 ・オペアンプを応用しコンパレータおよびパルス発振回路を構成できる。 ・JK-FFを利用してパルス周波数を逡減できる。 ・C言語で最小二乗法のプログラムが作成できる。 ・ばらつく計測データに対する最小二乗法を適用して近似曲線を導くことができる。 ・整列アルゴリズムの計算量を評価できる。 ・実験用に適切なデータを準備することができる。 ・実験計画書を作成し, 効率的な実験が行なえる。
合計 16 週	
教科書	書名: 著者: 発行所: プリント (各指導教員 作成)
参考書	書名: 著者: 発行所: 実験レポートの書き方 (3年実験実習) その他, 各テーマごとに指示する。
評価方法と基準	実験レポート内容および実験への取組み姿勢を総合評価し, 4テーマのレポートを100点満点で評価しそれらの平均点が60点以上を合格とする。 評価項目は, レポートの書き方, 内容, 考察, 課題, 実験への取組み姿勢など5項目からなる。 詳細については, シラバス表3-2(2)の科目評価表に従う。
オフィスアワー	実験実施日 14:50~ 17:00

教科目名: 創造工学ゼミ

( Creative Engineering Seminar )

担当教員: 制御情報工学科全員

学年・学科/専攻名: 4 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 4 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 演習 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( G ) ( C ) ( A )

**授業の概要**  
各学生は、指導教員から与えられた課題テーマに対して、課題解決のためのアイデアと実行計画を立て、自主的に問題解決にチャレンジする。最後に、そのチャレンジ過程と結果について発表会を行う。また、11月の3泊4日の工場見学および2月の卒業研究発表会に参加し、それぞれについて報告書を書く。

**関連科目:** 創造実習、卒業研究

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	1. PBL 演習 (Problem Based Learning) 1) 研究室訪問と各研究室の研究内容のガイダンス (2) 2) 課題テーマの決定と取り組み (9) ・実行計画 ・文献調査 ・設計製作 2. 工場見学と報告書 (1) ・首都圏3泊4日の工場見学	1) 計画的、理論的、客観的な問題解決のアプローチができる。 2) 特許に関する基礎知識を学習し、創造性を特許の形に結実させることは、技術者の責務であることが理解できる。
後期末	3. 特許の基礎知識 (講義) (1) 4. 創造工学ゼミ発表会 (1) ・発表時間5分、質問2分 5. 卒業研究発表会討議参加と報告書 (1) ・2日間にわたる卒業研究発表会に全員参加し、各自質問をすることを心掛ける。	1) 口頭発表による自己表現力が身につけられる。 2) 文章による自己表現力が身につけられる。
合計 15 週		

教科書	書名: 各教員による	著者:	発行所:
参考書	書名: 適宜紹介する。	著者:	発行所:
評価方法と基準	課題テーマ発表会の内容 (60%) および2つの報告書の内容 (40%) によって評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。発表会の評価方法は、卒業研究発表会のそれに準ずる。報告書の内容評価は、JABEE 科目評価 3-2 に従う。		
オフィスアワー	ゼミ実施日の 16:30~17:00		



授業の概要

ベクトル解析・ラプラス変換・フーリエ解析の基礎とその応用について学習する。問題演習を通じて知識の定着をはかり、応用力を身につける。レポートや小テストを行うことにより理解を深め、計算力・思考力を高める。

関連科目: 数学 I ( 1・2・3 年)、数学 II ( 1・2・3 年)、応用数学 ( 4 年)

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	1. ベクトル解析 (1) ベクトルの外積 (3)	1. ベクトル解析 (1)・ベクトルの外積の概念を理解できる。 ・ベクトルの成分で外積を計算できる。 (2)・ベクトル値関数の概念が理解できる。 ・ベクトル値関数の微分が計算できる。 (3)・空間曲線の長さを求めることができる。 ・単位接線ベクトルを求めることができる。
	(2) ベクトル値関数とその微分 (2)	
	(3) 空間曲線ベクトル解析 (2)	
	(前期小テスト) (1)	
前期末	(4) 曲面 (2)	(4)・ベクトル値関数の偏導関数が計算できる。 ・曲面の単位法線ベクトルが求められる。 (5)・スカラー場やベクトル場の概念が理解できる。 ・スカラー場の勾配やベクトル場の発散・回転の計算ができる。 (6)・線積分の意味が理解できる。 ・簡単な線積分の計算ができる。
	(5) スカラー場とベクトル場 (3)	
	(6) 線積分 (2)	
	(前期末試験) (0)	
後期中間	2. フーリエ解析 (1) 周期が $2\pi$ の関数のフーリエ級数 (3)	2. フーリエ解析 (1)・フーリエ級数の原理が理解できる。 ・周期が $2\pi$ の関数のフーリエ級数を求めることができる。 (2)・一般の周期の関数のフーリエ級数を求めることができる。
	(2) 一般の周期の関数のフーリエ級数 (3)	
	(後期小テスト) (1)	
	(3) フーリエ級数の応用 (3)	
後期末	(4) フーリエ変換の定義と計算 (3)	(3)・フーリエ級数の応用として円周率に関する無限級数の公式を導出できる。 ・熱伝導方程式が解ける。 (4)・フーリエ変換の定義が理解できる。 ・簡単な関数のフーリエ変換が計算できる。 (5)・フーリエ変換の応用として反転公式を用いて興味深い定積分の公式を導出できる。
	(5) フーリエ級数の応用 (2)	
	(学年末試験) (0)	
	合計 30 週	

教科書	書名: 新訂 応用数学	著者: 高遠 節夫 他	発行所: 大日本図書
-----	----------------	----------------	---------------

参考書	書名: 基礎解析学 (改訂版)	著者: 矢野健太郎、石原 繁	発行所: 裳華房
-----	--------------------	-------------------	-------------

評価方法と基準	前期末試験 20%、学年末試験 20%、その他授業中に行うテスト等 30%、レポート 20%、授業への取り組み 10% で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。各試験においては達成目標に即した内容を出題する。試験問題のレベルは授業で取り扱った問題と同程度とする。
---------	--

オフィスアワー	16:00 ~ 17:00
---------	---------------

教科目名: 信号処理

( Signal Processing )

担当教員: 渡部 誠 二

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 講義 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

デジタル信号処理は、IT 産業の基幹を支える最も重要な学問の一つである。この授業では、デジタル信号の信号表現から画像処理まで体系的に学んでいく。特に、時間領域・周波数領域・Z 領域の相互関係を明確に捕らえられるように重点をおいて説明してゆく。

関連科目: 制御工学 I、信号処理特論

授業内容		(W)	達成目標	
前期中間	1. 信号の表現法と処理手順	(1)	1. デジタル信号処理手順を説明できる。 2. アナログ信号表現とデジタル信号表現ができる。 3. デジタル処理システムの種類と特徴を説明できる。 4. 畳み込み演算ができる。 5. システムの安定性の判別ができる。 6. Z 変換ならびに逆 Z 変換の演算ができる。 7. システムの伝達関数から周波数特性を求めることができる。	
	2. 信号処理システム	(3)		
3. システムの伝達関数	(3)			
前期末	4. サンプリング定理	(2)	1. サンプリング定理を説明できる。 2. DFT の計算ができる。 3. 窓関数の種類と窓長がスペクトルに与える影響を説明できる。 4. 理想フィルタと実際のフィルタの違いを説明できる。 5. 直線位相フィルタの周波数特性を計算できる。 6. 窓関数による FIR フィルタの設計方法が理解できる。 7. 画像分類と信号表現ができる。 8. 画像の濃度補正や諧調変換の原理を説明できる。	
	5. DFT と FFT	(2)		
	6. デジタルフィルタ	(3)		
	7. 簡単な画像処理	(1)		
後期中間				
後期末				

合計 15 週

教科書	書名: デジタル信号処理	著者: 貴家仁志	発行所: 昭晃堂
参考書	書名: 信号処理	著者: 酒井英昭	発行所: オーム社
評価方法と基準	期末試験 45%, 中間試験 35%, 小テスト 20% として総合的に評価する。各試験においては、達成目標に則した内容を選定して出題する。試験問題のレベルは、教科書および板書、授業ノートと同程度とする。総合評価で 60 点以上を合格とする。		
オフィスアワー	月曜日 ~ 金曜日の 12:15 ~ 13:00		

教科目名: 情報ネットワーク

( Computer Network )

担当教員: 内海 哲史

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

インターネットの基本的な考え方, 特にネットワークアーキテクチャや通信プロトコルを明らかにする。インターネット発展の経緯を学び, 現在の状況を明らかにする。インターネットの応用技術を概観し, 情報化社会のインフラとなっている Web および電子メールの原理と使い方を学習する。

関連科目: ソフトウェア工学

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	1. インターネットの歴史の変遷と発展 (1) 2. OSI 参照モデルとプロトコル (1) 3. 構内網 (LAN) における通信 (3) 4. ルータと経路制御 (1)	・インターネット発展の歴史が分かる。 ・OSI 参照モデルの必要性が分かる。また各層の機能について説明できる。 ・イーサネットの通信方式を説明できる。 ・TCP/IP の原理を説明できる。 ・経路制御の原理を説明できる。
	後期中間試験 (1)	
後期末	5. インターネットの応用 (2) 6. 無線 LAN (1) 7. セキュリティ (2) 8. ネットワーク関連コマンド (1) 9. 電子メールとネチケット (2)	・DNS, SMTP, FTP, HTTP などの応用プロトコルを理解する。 ・社会インフラとしてのインターネットを守るためセキュリティ意識の必要性を理解する。 ・利用者端末で利用できるネットワークコマンドを実際に使い機能を理解する。 ・電子メールの特徴を理解し, 正しい使い方ができる。 ・インターネットの健全な発展のために利用者として守るべきことを理解する。
	(後期末試験) (0)	

合計 15 週

教科書	書名: インターネット工学	著者: 後藤滋樹・外山勝保	発行所: コロナ社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	課題レポート 10%, 中間試験 30%, 期末試験 60% で達成度を総合評価し, 60 点以上を合格とする。中間試験は, 達成目標を確認する内容で出題する。期末試験は, 授業全体の内容を確認するような問題とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00		

教科目名: 熱力学

( Thermodynamics )

担当教員: 三 村 泰 成

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 15 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 講義 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

熱に関する工学的知識を養い、熱工学以外にも広く用いられている用語としてのエンタルピ、エントロピなどの概念を理解できる。さらに理想気体を用いたガスサイクル、実気体を用いた熱サイクルについて学び、実際のエネルギー変換についての知識を得ることができる。

関連科目: 数学、物理学

授業内容 (W)		達成目標
前期 中間		
前期 末		
後期 中間	概説 (1) 熱量と比熱, 内部エネルギー (1) 熱力学の第1法則 (1) 熱力学の第2法則 (1) 理想気体の状態変化 (1) 可逆サイクルとカルノーサイクル (1) 後期中間試験 (1)	1) 生活の中での熱力学との関わり合いを理解し、熱力学の必要性を把握できる。 2) 熱力学を支配する基本法則を理解し、熱エネルギーを応用するための基礎を築ける。 3) 理想気体に関する基本的な状態変化とカルノーサイクルを理解し、熱を仕事に変換するための基本的な概念を理解できる。 4) エントロピ, エンタルピの概念を学び、その利用法を理解できる。
後期 末	ガスによるエネルギー変換 (3) オットーサイクル, ディーゼルサイクル, サバテサイクル, ガスタービンサイクルなど 蒸気によるエネルギー変換 (2) 蒸気を持つ性質 (2) ランキンサイクル (2) 冷媒によるエネルギー変換 (冷凍機, 熱ポンプ) (1) 学年末試験 (0)	5) 基本的なガスサイクルを学び、連続した仕事を行うための熱機関を理解できる。 6) 気液二相を持つ蒸気の性質を理解し、蒸気を用いた熱変換サイクルの利用法を把握できる。 7) 理想モデルであるランキンサイクルを学び、熱機関の原理を理解できる。 8) 冷暖房のメカニズムを理解できる。
合計 15 週		

教科書	書名: 熱力学のやさしい知識	著者: 北山直方	発行所: オーム
参考書	書名: 熱力学入門	著者: 岩城 純	発行所: 理工学社
評価方法と基準	後期中間試験 40%, 後期末試験 50%, レポート及び授業への取り組み状況 10% を元に達成度を総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:00 ~ 17:00		

教科目名: 制御工学 II

( Control Engineering II )

担当教員: 柳 本 憲 作

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 講義 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

自動制御における基本的な考え方や制御系設計理論の基礎となる数学的手法を基礎として、フィードバック制御系の周波数応答、定常特性、制御系設計の基礎の概要を学習する。

関連科目: 制御工学 I、システム制御

授業内容		(W)	達成目標
前 期 中 間	1. 二次標準形の過渡特性	(1)	(1) システムの正弦波入力に対する応答が理解でき、与えられた伝達関数から周波数応答関数、ゲインと位相が計算できる。
	2. 周波数応答	(1)	
	2.1 ボード線図とベクトル軌跡	(2)	(2) システムのボード線図、ベクトル軌跡、ゲイン位相線図を理解でき、描くことができる。
	2.2 ナイキスト線図	(1)	
3. 制御系の安定の定義と条件	(1)	(3) 安定の定義とその条件について理解できる。	
3.1 ラウスの方法による安定判別	(1)		
	3.2 フルビッツの方法	(1)	(4) 安定判別法のラウスの方法、フルビッツの方法、ナイキストの方法が理解でき、与えられた制御系の安定判別が行える
前 期 末	3.3 ナイキストの方法	(1)	(1) 制御系の安定度としてゲイン余有、位相余有が理解できる。
	3.4 安定の度合い	(1)	
	4. 制御の良さ	(1)	(2) 定常偏差、制御の型が理解でき、与えられた制御系の定常偏差が算出できる。
	4.1 定常特性と偏差	(1)	
	5. 制御系設計の基礎	(1)	(3) 補償の概念、ゲイン補償の効果について理解できる。
5.1 補償回路の選択とその効果	(1)		
	5.2 PID 制御による応答特性の改善	(1)	(4) 位相進み要素、位相遅れ要素の応答特性の改善への効果が理解でき、さらに PID 制御についても理解できる。
	前期末試験		
後 期 中 間			
後 期 末			

合計 15 週

教科書	書名: 自動制御の講義と演習	著者: 添田喬、中溝高好	発行所: 日新出版
参考書	書名: ロボット制御入門	著者: 大熊 繁	発行所: オーム社
評価方法と基準	前期末試験 40%、中間テスト 40%、課題演習レポート (*) 20% で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。 中間テストは不定期に 1 回行う。 (*) 自学自習を目的に教科書章末の演習問題を課題としてそのレポートを提出する。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:30 ~ 17:00		

授業の概要	
計測技術に関する基礎概念、用語、データの統計的処理の基礎を学ぶ。次に、オペアンプを中心としたアナログ信号処理技術、RC回路を利用したアナログフィルタ回路、およびA/D、D/A変換技術を学ぶ。	
関連科目: 電子回路、データ解析、センサー工学	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	1) S/N比, 精度, 感度など計測工学の専門用語の定義が理解できる。 2) S I 単位系および次元解析の概念と有用性を理解し物理関係式のチェックに応用できる。 3) 直接測定と間接測定, 偏位法と零位法について説明できる。 4) 測定データの有効数字, 誤差の種類, ガウスの誤差関数, 標準偏差, 母平均の概念を説明できる。
後期 末	5) 最大誤差あるいは標本標準偏差の考え方を理解し測定誤差の定量的評価ができる。 6) 最小二乗法を用いて線形データ処理ができる。 7) オペアンプを応用した増幅, インピーダンス変換コンパレータ, パルス発振回路が設計できる。 8) RC回路による簡単なフィルタ回路が設計できる。 9) A/D, D/A変換回路の原理が理解できる。
合計 15 週	
教科書	書名: テキスト (計測工学) 著者: 宮崎孝雄 発行所:
参考書	書名: 計測工学入門 計測工学 著者: 中村邦雄 前田良昭, 木村一郎, 押田至啓 発行所: 森北出版 コロナ社
評価方法と基準	後期中間試験40%, 学年末試験60%で達成度を総合評価する。試験は、各達成目標の到達度を評価する内容とする。問題のレベルは、テキストの章末の演習問題と同程度とする。
オフィスアワー	講義実施日の16:00~17:00

教科目名: システム制御

( System Control )

担当教員: 柳 本 憲 作

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 講義 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要

現代制御理論を用いる多入力・多出力システムにおける基本的な考え方や制御系設計理論の基礎となる数学的手法を基礎として、状態フィードバック制御、可制御性、可観測性について説明する。

関連科目: 制御工学 II、ロボット工学

授業内容 (W)		達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	1. システム制御と行列 (1) 2. システムの状態表現 (1) 3. 状態方程式の線形化 (1) 4. システムの伝達関数 (1) 5. VTR「システム制御設計」 (1) 6. 状態方程式の等価系 (1) 7. ジョルダン標準形のブロック図 (1) 8. 状態方程式の解と性質 (1) 9. 中間試験 (1)	(1) システムの状態方程式表現が理解できる。 (2) 伝達関数と状態方程式の関係が理解できる。
後期末	10. 状態方程式の自由解、インパルス応答 (1) 11. システムの可制御性 (1) 12. 可観測性について (1) 13. システムの安定判別 (1) 14. 状態フィードバック制御 (1) 15. 倒立振子の状態フィードバック制御について (1) 卒業試験	(1) 安定の定義とその条件について理解できる。 (2) 状態フィードバックについて理解できる。

合計 15 週

教科書	書名: システム制御の講義と演習 講義中にプリントを配布	著者: 中溝高好、他	発行所: 日新出版
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	卒業試験 40%、中間テスト 40%、課題レポート(*) 20% で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。 (*) 自学自習を目的として、教科書章末の演習問題を課題とするレポートを提出すること。		
オフィスアワー	講義実施日の 16:30~17:00		

教科目名: **ロボット工学**

( **Robotics** )

担当教員: 佐藤 義重

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 15 時間 )

単位種別: 学修単位 ( 講義 ) 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>ロボット工学は幅広い学問であり、機構学や動力学、制御をはじめ、機械要素、言語、視覚、人工知能などの分野が含まれる。                      本授業では、その基礎を習得することを目的として、ロボット系の動力学と運動学さらに制御手法について学ぶ。</p> <p>関連科目: 制御工学 I、制御工学 II、機械運動学</p>	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	1. ロボットの歴史と発展 (1) (1) 産業用ロボットの発展、技術的背景等について述べる 2. マニピュレータの空間記述と変換 (2) ことができる。 3. 順運動学 (1) (2) マニピュレータの位置の計算や姿勢表現が理解できる。 4. 逆運動学 (2) (3) マニピュレータの運動学が説明できる。 5. ヤコビ行列 (1) (4) マニピュレータの手先の位置と姿勢が与えられたときに、各リンクパラメータを求めることができる。 (5) ヤコビ行列とはなにかを説明できる。
後期 末	6. マニピュレータの運動方程式導出 (2) (6) マニピュレータの運動方程式を導出できること。 7. マニピュレータの軌道生成 (3) (7) マニピュレータの軌道生成ができること。 8. マニピュレータの制御 (3) (8) マニピュレータの制御に用いられるセンサやアクチュエータについて説明できる。1 関節を制御するサーボ系について説明できる。
後期末試験	(0)
合計 15 週	
教科書	書名: ロボット工学 著者: 早川恭弘他 発行所: コロナ社
参考書	書名: ロボット工学の基礎 著者: 川崎晴久 発行所: 森北出版
評価方法と基準	学年末試験 50%、レポート 50% で達成度を総合評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義実施日の 16:00 ~ 17:00

教科目名: 工業英語

( Technical English )

担当教員: 齋藤みゑ

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 ( 前期 1 ) ( 後期 1 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

授業の概要		
科学工業英語の各分野に共通している頻繁に用いられる英文を、読解に加えて聴覚と口頭演習によって習得し、科学工業分野の英語の4技能を修得する。		
関連科目: 4年工業英語		
	授業内容 (W)	達成目標
前期中間	Lesson 1 The Line Graph (4) Lesson 2 Plane Geometry (4)	1. グラフの基本的な図形の用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。 2. 平面図形の基本的な用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。
	Lesson 3 Solid Geometry (4) Lesson 4 Laboratory Activity (3)  (前期末試験)	3. 立体図形の基本的な用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。 4. 実験活動の手順の方法の用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。
後期中間	Lesson 5 The 24-Hour Clock (4) Lesson 6 Length Comparison(1) (4)	5. 時刻の成り立ちと表示の基本的な用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。 6. 物体の長さの基本的な用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。
	Lesson 7 Length Comparison(2) (4) Lesson 10 Iron and Steel (3)  (卒業試験)	7. 長さの基本的な用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。 10. 金属とその成分に関する用語と説明文を理解し、反復と置き換え、変換と完成の練習をとおして応用力を身につける。
合計 30 週		
教科書	書名: 科学工業英語入門 著者: 篠田義明	発行所: 研究社
参考書	書名: 著者:	発行所:
評価方法と基準	前期末試験40%、卒業試験40%、小テスト10%、受講姿勢(課題がある場合はその提出状況、内容等)10%として達成度を総合評価する。総合評価60点以上を合格とする。 試験レベルは教科書本文及び練習問題(小テストを含む)と同程度とする。	
オフィスアワー	講義実施日の12:30~13:00	

教科目名: 制御情報工学実験・実習

( Experiments on Control and Information Engineering )

担当教員: 柳本憲作・安齋弘樹・三村泰成・宍戸道明

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 前期 週 ( 前期 4 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 60 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( D ) ( A )

授業の概要	
各実験テーマを通じて講義だけでは理解不十分な理論、解析、制御手法、プログラミングを体得するとともに、結果に対する考察力、文献調査による知識を習得する。	
関連科目: 各専門科目、卒業研究	
授業内容 (W)	達成目標
前期 1. 流体実験室 (白野、宍戸 教員) (1) 流れにおけるエネルギー損失測定 (1) (2) 流れの中の円柱の抗力測定 (1) (3) 実験のまとめとレポート作成 (2) 2. CAD 室, 三次元造形室 (三村 教員) (1) 3DCAD, 強度設計, 軽量化設計, 視覚設計 (1) (2) 三次元造型機を用いた試作品の作成 (1) (3) 強度試験の実施, 結果のまとめとレポート作成 (2)	(1) 実験を通して流れと力, エネルギーの関係を調べ, 「水力学」で学んだ知識を発展できる。 (2) 強度, 軽量化および視覚効果を考慮した試作品を構築することで「ものづくり」における理論と実践を体得できる。
前期末 3. 電子計測実験室 (柳本 教員) (1) VB によるロボット制御プログラミング (1) (2) レゴ・マインドストームによる制御実験 (1) (3) 実験のまとめとレポート (2) 4. メカトロ演習室 (安齋 教員) (1) シーケンス制御 (1) (2) シーケンサによる押しボタン横断歩道の制御 (1) (3) 実験のまとめとレポート (2)	(3) VB ( ビジュアルベーシック ) を用いた制御プログラミングを習得し, レゴ・マインドストームによる相撲ロボットを創作する。 (4) 専用シーケンサを用いたシーケンス制御がわかり, ラダー回路の読み方を習得ならびに実践的シーケンサ制御技術を習得する。
後期中間	
後期末	
合計 16 週	
教科書	書名: 各実験における指導書を使用する。 著者: 発行所:
参考書	書名: 適時実験において紹介する。 著者: 発行所:
評価方法と基準	実験に取り組む姿勢、レポートの内容 (結果の考察、文献調査) を主体に評価する。 詳細は、別途 JABEE の科目評価表 3-2 に示した基準に従う。総合評価は、すべてのテーマの平均点で評価し、60 点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義実施日の 16 : 30 ~ 17 : 00

教科目名: 卒業研究

( Graduation Research )

担当教員: 制御情報工学科全員

学年・学科/専攻名: 5 年 制御情報工学科

単位数・授業時間: 必修 12 単位 通年 週 ( 前期 10 ) ( 後期 14 ) 時間 ( 合計 360 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( G ) ( ) ( )

授業の概要	
卒業研究は、指導教員の指導の下に原則として各学生ごとに1つの研究テーマが与えられ、学生は5年間で学んだ知識、技術、能力を総合的に発揮してテーマの課題解決に自主的に取り組む。この科目は、研究遂行能力を養うこと、研究内容・成果の発表と卒業論文としてまとめる作業を通じて説明能力を養うこと、考察力や分析力を発揮して結果を論理的に説明する能力を養うことなどを目標としている。	
関連科目:	
授業内容 (W)	達成目標
<p>前期 中期</p> <p>1) 卒業研究テーマの選定とテーマ毎の説明 (1) 2) 研究ノート作成 (2) 研究実施内容や実施計画、実験データなどを記録する習慣を身につける。 3) 研究実施計画の作成 (1) 年間実施計画を作成し仕事の全体スケジュールを把握する。 必要に応じてさらに詳細な計画を立てる。</p>	<p>1. 研究遂行能力 1) 研究ノート作成と活用ができる。 (解決すべき課題、従事日時、進捗状況の記述) 2) 自主的、計画的、継続的に課題解決に取り組むことができる。 3) 課題解決のための発想力や装置やソフトウェアなどを作成して実験力を発揮できる。</p>
<p>前期末</p> <p>4) 研究の遂行 (9) 基本的な研究遂行サイクル (アイディアの創出・調査、アイディアの実現、データ採取、データ評価・分析、考察、改善) に従って活動する。 5) 研究遂行の進捗管理 (2) ・実際の実施結果と実施計画を時々比較し仕事の進捗管理を行う。必要に応じて実施計画を修正する。</p>	<p>4) 実験結果を、解析力、考察力を生かして論理的に説明できる。  2. 研究発表能力 1) 話し方、態度などに配慮し研究内容をわかりやすく説明できる。また、質疑応答に説得力を持って対応できる。</p>
<p>後期中間</p> <p>・指導教員の指導の下に定期的に研究進捗報告を行い、課題点などを明らかにして研究ノートに記す。 6) 研究内容・成果の要旨作成 (5) 研究内容・成果を要旨をA4版1ページにまとめる。 7) 研究内容・成果の発表 (2) 図、表を含めた10分の発表資料にまとめて発表する。 卒業研究発表会 (10分発表、5分質疑応答)</p>	<p>2) 発表資料において図や式が適切に用いられ内容の説明と理解に効果的である。 3) 客観的なデータ分析、考察、評価ができています。  3. 卒業論文 1) 論文の基本構成ができており、誤字脱字がなく読みやすい。</p>
<p>後期末</p> <p>8) 卒業論文の作成 (2) 研究内容・成果をA4版10~20ページ程度の論文にまとめる。 論文の書き方の参考書を参考にする。 [JABEE 保管資料] 各研究室の最下位評価、学科全体の最上位評価の学生について、 ・卒業論文のコピー ・発表のスライド資料 (A4 サイズ1枚に6スライドづつ印刷) を担任が取りまとめて教務係に提出。</p>	<p>2) 論旨が論理的で分かりやすい。解析力や考察力に優れている。 3) 内容や成果に新規性や有効性が認められる。あるいは十分努力したことが認められる。</p>
合計 30 週	
教科書	書名: 著者: 発行所: 適宜指示する
参考書	書名: 著者: 発行所: 理系発想の文章術 三木光範 講談社新書 理科系の作文術 木下是雄 中公社
評価方法と基準	研究遂行能力40%、研究発表能力30%、卒業論文30%で100点満点で総合評価し、60点以上を合格とする。また、学習・教育目標G)の達成に対して、デザイン能力が60点以上、F)の達成に対して、研究発表能力、卒業論文がともに60点以上でなければならない。それぞれの評価項目の詳細は、別途科目評価表3-1に示した基準に従う。
オフィスアワー	講義実施日の16:30~17:00



## 共通選択科目

(平成23年度 第5学年に係る教育課程)

区分	授業科目	単位数	学年別履修単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修	デジタル制御システム	1						
	医療福祉機器工学	1					1	
	数 理 科 学	1						
選択	生 産 工 学	1						
	エコロジー概論	1					1	
	国際政治※	1						
択 科	地球環境科学	1						
	音と福祉工学	1					1	
	英語表現法※	1						
目	電子デバイス	1						
	エネルギー変換工学	1					1	
	地 理 学 ※	1						
履 修 単 位 数		4					4	

※印は一般科目、それ以外は専門科目である。

## 履修単位数合計

(平成23年度 第1・2学年に係る教育課程)

学 科	計	1年	2年	3年	4年	5年	備 考
機 械 工 学 科	172	32	32.5	35	35	37.5	
電 気 電 子 工 学 科	172	32	33	34	36	37	
制 御 情 報 工 学 科	172	32	33	34	36	37	
物 質 工 学 科	172以上	32	34	35	39以上	32以上	

(平成23年度 第3・4学年に係る教育課程)

学 科	計	1年	2年	3年	4年	5年	備 考
機 械 工 学 科	172	32	33	35	35	37	
電 気 電 子 工 学 科	172	32	33	34	36	37	
制 御 情 報 工 学 科	172	32	33	34	36	37	
物 質 工 学 科	172以上	32	34	35	39以上	32以上	

(平成23年度 第5学年に係る教育課程)

学 科	計	1年	2年	3年	4年	5年	備 考
機 械 工 学 科	172	32	33	35	36	36	
電 気 電 子 工 学 科	172	32	33	34	36	37	
制 御 情 報 工 学 科	172	33	33	34	36	36	
物 質 工 学 科	172以上	32	34	35	39以上	32以上	

教科目名: デジタル制御システム ( Digital Controlled System )

担当教員: 加藤 健太郎

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
制御システムの各構成要素について理解し、計算機制御システムの構築法について学ぶ。特にアナログ系とデジタル系のインタフェースに重点を置き学習する。また、計算機システムにおける各部の働きについて理解を深める。講義においては、演示実験を導入し、実際の動作確認を行い理解を深める。最後に卒業研究等で開発したシステムについて講義する。 関連科目: 電子計算機、電子回路	
授業内容 (W)	達成目標
前期 1. 総論 (1) (1) 制御技術の発展過程 (2) 制御用計算機とデジタル制御系の発展 2. 信号処理 (2) (1) A/D, D/A 変換 (2) (2) アナログ信号処理 (1) (3) デジタル信号処理 (1) (4) 演示実験 (1) 前期中間試験 (1)	(1) 積分形、逐次比較形、並列比較形 A/D 変換器の変換原理とその特徴を理解できる。 (2) 演算増幅器の基本回路の解析ができる。
前期末 3. センサ (1) (1) 光センサ・力学量センサ (2) 温度センサ 4. 計算機と信号処理系のインタフェース (4) (1) Z80CPU の制御信号と情報の流れ (4) (2) 計算機制御の実システム (2) (3) 演示実験 (1) 前期末試験 (0)	(1) Z80CPU の制御信号の働きおよび CPU 内部での命令の実行過程を理解できる。 (2) 計算機、A/D, D/A 変換器、センサ、演算増幅器、アクチュエータを用いた簡単なフィードバック制御システムを構築できる。
後期中間	
後期末	
合計 15 週	
教科書	書名: 担当教員作成資料 著者: 発行所:
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	授業への取り組み姿勢 10%、前期中間、前期末試験をそれぞれ 45% で総合的に評価し、60 点以上を合格とする。試験においては達成目標に即した内容を出題する。
オフィスアワー	火曜日と木曜日を除く放課後

教科目名: 医療福祉機器工学

( Medical and Welfare Engineering )

担当教員: 穴戸道明

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( D ) ( )

授業の概要	
<p>医療・福祉といった学際的境界領域における工学の役割と工学技術の応用展開について学ぶ。とくに、医療や福祉をとりまく環境や法規制などの特殊性、特異性を理解するとともに、工学技術を応用し社会貢献を図るための“ものづくり”の創造力涵養を目指す。</p>	
<p>関連科目: 音と福祉工学、技術者倫理</p>	
授業内容	(W) 達成目標
<p>前期 中期</p> <p>工学からみた学際領域（医療）へのアプローチ (1) 医療の現状と課題・法規制 (1) 生体のイメージング（可視化の技術） (1) 生体のセンシング（計測技術） (1) 生体のモニタリング（監視技術） (1) 救急救命とバイタルセンシング (1) ストレスとホルモン (1)</p> <p>前期中間試験 (1)</p>	<p>1) 機器の使用対象が「人間」であるがゆえの開発設計時の制約を理解する。 2) 工学技術の応用例を知り、工学を修得しておくことの大切さを理解する。 3) 医用計測と工学計測の違いを理解できる。</p>
<p>前期末</p> <p>介護と福祉業界の現状と課題 (1) ユニバーサルデザイン (1) バリアフリーの概念と人間工学 (1) 対極的なアプローチ（自立と介護） (1) ヒューマンファクター (1) 新しい福祉機器設計の提案 (1) 充実した福祉社会の構築のために (1)</p> <p>前期末試験 (0)</p>	<p>1) 多岐に渡る福祉のかたちを知り、「何のための“福祉”なのか」の解が導き出せる。 2) 高齢者、障がい者に対する工学的支援のためのアプローチを学ぶ。 3) 工学技術を医療・福祉分野へ生かす創造的視点を持ち、提案できる。</p>
<p>後期中間</p>	
<p>後期末</p>	
合計 15 週	
教科書	<p>書名: なし（適宜、資料を配布） 著者: 発行所:</p>
参考書	<p>書名: なし（適宜、講義内で紹介） 著者: 発行所:</p>
評価方法と基準	<p>前期末試験 70 %，授業や課題への取り組み状況 30% を元に達成度を総合評価する。 総合評価 60 点以上を合格とする。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 16 : 00 ~ 17 : 00</p>

教科目名: 数理科学

( Mathematical Science )

担当教員: 岡崎幹郎

学年・学科/専攻名: 5年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( ) ( )

**授業の概要**  
 科学技術者の素養として、生命を育み人間に対峙している「宇宙」の理解を深める。宇宙観測は、最先端の科学技術を駆使して、地上からだけでなく気球や衛星を用いた多波長領域の電磁波観測およびニュートリノや宇宙線の粒子観測が行われている。授業では、現代宇宙観を支える物理や数理科学を学習する。「すばる望遠鏡」等で得られた映像や画像も授業に取り入れ、具体的な観測データを用いた数値計算も行う。また、課題レポートも課し、自ら学習するよう仕向ける。  
 関連科目: 数学、物理、応用物理

授業内容 (W)		達成目標
前期中間	1. 人間と宇宙 宇宙観の変遷 (2)	1. 宇宙観の変遷と宇宙スケールを理解し説明できる。 2. 天体からの情報 (電磁波、ニュートリノ・宇宙線)、熱放射、天体の色・温度について理解し、計算と説明ができる。 3. 天体の距離測定・明るさについて理解し、計算と説明ができる。
	2. 天体からの情報 (1) 電磁波 (3)	
	(2) 熱放射 (3) ニュートリノ・宇宙線	
	3. 天体の距離と明るさ (2)	
	中間テスト (1)	
前期末	4. 恒星の物理、HR図 (3)	4. 恒星の物理、HR図の内容を理解し説明ができる。 5. 光のドップラー効果の内容を理解し、計算と説明ができる。 6. 銀河の世界を理解し説明ができる。現代の宇宙観である「膨張宇宙論」を理解し説明ができる。
	5. ドップラー効果と赤方偏移 (2)	
	6. 銀河宇宙と物理 (2)	
	前期末試験 (0)	
後期中間		
後期末		

合計 15 週

教科書	書名: 「宇宙を読む」 自作プリント	著者: 谷口 義明	発行所: 中央公論新社
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	中間試験 30%、前期末試験 40%、課題レポート 15%、授業への取組姿勢 15% で達成度を総合評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。試験問題は、各達成目標に即したものを出题する。		
オフィスアワー	授業実施日の 16:00~17:00		

教科目名: 生産工学

( Production Engineering )

担当教員: 石原道明

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>生産管理とは何か品質管理とは何かについて基礎的理論を履修し、技術の高度化と経済社会の変化革新の中で、実務面で活用できる力を身につけることをねらいとする。 また実際の企業を見学し、その生産活動における課題研究を通して、現代のものづくりの基本を学ぶ。</p> <p>関連科目: 政治・経済</p>	
授業内容	達成目標
<p>1. 生産管理と品質管理 (3)</p> <p>1.1 生産と品質管理</p> <p>1.2 生産管理と品質管理の歴史的背景</p> <p>1.3 生産管理と品質管理の基礎</p> <p>1.4 QCサークル改善事例</p> <p>2. 統計的品質管理の基礎 (4)</p> <p>2.1 統計的なものの考え方 2.2 管理図</p> <p>2.3 工程能力 (Cp,Cpk) 2.4 品質改善手法と改善事例研究 (前期中間試験) (1)</p>	<p>1. ものづくりを支える生産管理と品質管理について</p> <p>(1) 生産管理の意味と目的について理解できる。</p> <p>(2) 品質管理の意味と目的について理解できる。</p> <p>(3) 品質管理の基礎的手法を理解しQC七つ道具などの手法を使うことができる。</p> <p>2. 科学的な管理手法である統計的品質管理について</p> <p>(1) 統計的なものの考え方を理解し応用できる。</p> <p>(2) 管理図を作成し工程の異常を判断できる。</p> <p>(3) 工程能力を算出し品質改善に利用できる。</p> <p>(4) 品質改善事例の研究を通じ品質改善手法を利用できる。</p>
<p>3. 工場運営の基礎 (3)</p> <p>3.1 生産組織と生産計画</p> <p>3.2 作業研究と動作研究</p> <p>3.3 工場会計の基礎</p> <p>4. 最近の生産管理に必要なもの (4)</p> <p>4.1 PULL型生産方式 4.2 総合的生産保全 (TPM)</p> <p>4.3 安全管理, 環境管理, PL法, ISO9000,ISO14000</p> <p>4.4 企業見学による課題研究 (前期末試験) (0)</p>	<p>3. 工場運営のための</p> <p>(1) 生産組織と生産計画について理解できる。</p> <p>(2) 作業研究や動作研究を理解し利用できる。</p> <p>(3) 原価と損益分岐点の計算ができる。</p> <p>4. 現代の生産管理に必要な</p> <p>(1)PULL型生産方式の目的と考え方が理解できる。</p> <p>(2) 総合的生産保全の目的と進め方が理解できる。</p> <p>(3) 安全と環境及びPL法, ISOシリーズの目的が理解できる。</p> <p>(4) 企業見学により生産活動における課題研究から現代の企業が実践している「ものづくり」の基本が理解できる。</p>
後期中間	
後期末	
合計 15 週	
教科書	<p>書名: 生産管理工学 著者: 富士明良 発行所: 東京電機大学出版局</p>
参考書	<p>書名: 生産管理入門 著者: 坂本碩也 発行所: 理工学社</p>
評価方法と基準	<p>前期中間試験 30%、企業見学レポート 30%、前期末試験 40% で達成度を総合評価する。総合評価の60点以上を合格とする。前期中間試験、前期末試験は、各達成目標に則した内容の問題を出題する。レポートについては、企業見学による生産活動における課題研究についてのレポート内容により評価する。</p>
オフィスアワー	<p>講義実施日の 12:15~12:45</p>

教科目名: エコロジー概論

( General Ecology )

担当教員: 阿部達雄

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( B ) ( )

授業の概要	
生態学を進化、自然界との関わり、環境の持つ機能の視点から概説し、生物の多様性の維持や生態系保全の重要性を理解する。	
関連科目: 生物、基礎生物学、環境とエネルギー	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間 1. 生態学のあゆみ (1) 2. 生物多様性と成り立ち (1) (1) 生物とその環境 (1) (2) 多様な生物界 (1) (3) 生態 (1) (4) 生活史 (1) (5) 生理生態的特性 (1)	(1) 生態学の歩んできた流れを理解し、時代順に説明できる。 (2) 生物が、棲息している環境において、どのような適応をし、繁殖戦略にもとづいて進化してきたのかを理解できる。 (3) 生活史や生理的特性を変化させることにより、進化させていることを適切な語句を用いて説明できる。
前期 末 3. 生物間相互作用 (1) (1) 動物の行動と社会 (1) (2) 個体と個体群 (2) 4. 生態系と環境 (1) (1) 生態群衆と分布 (1) (2) 生態系の構造と機能 (1) (3) 環境保全 (1) 前期末試験 (0)	(1) 生態系において、異種間及び同種間の生物が及ぼす影響を理解し、関連した用語について説明できる。 (2) 生態系保全の観点から、外来種や遺伝子組換え作物の問題を説明できる。 (3) 環境保全と生物多様性の関連性から、生態系と環境の結びつきを考察できる。
後期中間	
後期末	
合計 15 週	
教科書	書名: 生態学入門 生態環境科学概論 著者: 日本生態学会編 上村、竹島、石垣、杉田、隅田、廣田 発行所: 東京化学同人 講談社サイエンティフィック
参考書	書名: フォトサイエンス 生物図録 ダイナミックワイド 図説生物 著者: 鈴木孝仁 (監修) 石川統 ら (監修) 発行所: 数研出版 東京書籍
評価方法と基準	前期末試験 70%、レポート 30% により評価する。60 点以上を合格とする。
オフィスアワー	平日の 16:00~17:00

教科目名: 国際政治

( International Politics )

担当教員: 山田 充 昭

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 前期 週 ( 前期 2 ) ( 後期 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( ) ( )

授業の概要

19 世紀以降現代に至るまでの歴史を概観し、日本の諸政策は国際環境によって決定されてきたこと、日本の政策・方針が国際社会に大きな影響をおよぼすことがあったことを認識する。同時に、日本近現代社会の特質を理解する。その上で、国際社会で活躍する日本人としての生き方を模索する。

関連科目: 歴史 I、歴史 II

授業内容		(W)	達成目標
前期中間	近代とは何か 近代化のパターン 尊皇攘夷と公武合体 王政復古が持つ意味 欧米諸国への劣等感	(1) (1) (2) (2) (1)	1. 一般的な近代社会の政治・経済・文化的特徴を理解できる。 2. 諸外国と比較して、日本の近代社会の異質性を理解することができる。 3. 現代日本人にも根付く外国観が、いかなる状況下で形成されたかを理解できる。
	朝鮮半島への侵略 中国への侵略 協調外交と対外強行 大東亜共栄圏 憲法第 9 条と浮沈空母発言	(2) (1) (2) (2) (1)	4. 日本によるアジア侵略の経緯を把握し、国際社会における日本の立場がどのように変化していったかを理解できる。 5. 「国際協調」の本質を考察しながら、当時の日本が国際社会で孤立してゆく原因を理解することができる。 6. 国際社会で活躍する日本人としての生き方を模索することができる
後期中間			
後期末			

合計 15 週

教科書	書名:	著者:	発行所:
参考書	書名:	著者:	発行所:
評価方法と基準	授業への取り組み姿勢 20%、随時行うレポートの提出状況および内容 40%、前期末試験 40%をもとに総合的に評価する。前期末試験においては達成目標に則した内容を出題する。試験問題のレベルは、板書、授業ノートと同程度とする。		
オフィスアワー	授業実施日の 15:40~16:40		

教科目名: 地球環境科学

( Earth Eco-Science )

担当教員: 小 谷 卓

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( D ) ( )

授業の概要

かけがいのない地球環境（大気圏、水圏、生物圏）の現状認識と環境問題の捉え方および環境汚染の原因物質などについて学習し、何をどうすればよいのかを持続可能な循環型社会構築の観点から考えさせる。  
地球規模の環境問題、国内の環境問題および廃棄物とリサイクルなどについて学習する。

関連科目: 環境とエネルギー、エコロジー概論

授業内容 (W)		達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	1. 環境科学を学ぶにあたり (1) 2. 地球環境の現状 (1) (1) 太陽系と地球、(2) 大気圏、(3) 水圏、(4) 生物圏 (1) 3. 地球規模の環境問題 (1) (1) オゾン層の破壊 (1) (2) 地球の温暖化 (2) (3) 酸性雨（雪） (2)	1. 地球環境の現状から何が見えてくるかを理解できる。 2. 地球の成り立ちや地球の構成元素（大気・水圏・土壌）等について理解し地球環境の現状理解できる 3. 地球規模の環境問題としてのオゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨（雪）について、これらの問題がどのようにして引き起こされたのか、原因物質が何かを理解できる。
後期末	(4) 森林の破壊と砂漠化 (1) (5) その他の環境問題 (1) 4. 国内の環境問題 (2) (1) 大気汚染、(2) 水質汚染 (2) (3) 土壌汚染、(4) 廃棄物・ダイオキシン問題 (1) 5. 科学技術と環境保全 (1) (1) 持続可能な循環型社会の構築 (1) (2) まとめ (1) 期末試験	森林の破壊と砂漠化、野生生物種の減少について現状を理解できる。 4. 国内の環境問題（公害問題）の歴史とその問題点理解でき、大気汚染、水質汚染、土壌汚染、廃棄物・ダイオキシン問題等の現状が理解できる。 5. 持続可能な循環型社会の構築をめざして、21世紀の我々のライフスタイルはいかにあるべきか理解できる。
合計 15 週		

教科書	書名: 地球のすがたと環境	著者: 賀・那須・菅 共著	発行所: 三共出版
-----	---------------	---------------	-----------

参考書	書名:	著者:	発行所:
-----	-----	-----	------

評価方法と基準	期末試験 70%、レポート 30%、をもって、総合的に評価して、60点以上を合格とする。 試験レベルは達成目標に則した内容とする。レポートは環境問題に対する意識・認識度を問う内容とする。
---------	--

オフィスアワー	授業実施日の 16:00 ~ 17:30
---------	----------------------

教科目名: 音と福祉工学

( Applied Acoustics for Welfare Engineering )

担当教員: 柳 本 憲 作

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( B ) ( D ) ( )

授業の概要	
音と福祉との関わり方を医療、福祉機器、音響工学、音響心理、音場創成技術、環境などの多方面にわたる分野から考察をしていく。	
関連科目: 医療福祉機器工学、音響工学	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	1. 音の福祉への関わり方 (1) 音と福祉の関わり方を理解することができる。 2. 医用への音響利用 (特別講義) (1) 人の音の受容と知覚のメカニズムについて理解することができる。 3. 音の知覚のメカニズム (1) できる。 4. 音の知覚の定性的、定量化 (2) 聴覚障害者の診断方法とそれに対する聴覚補償を理解することができる。 5. 聴覚診断と聴覚補償 (3) 6. 中間試験 (1)
後期 末	7. 心理音響技術による音の評価 (2) 耳で受容された音が脳で理解されるメカニズムについて理解することができる。 8. 騒音と心理 (1) 9. 発話障害 (1) 言語発達期における聴覚障害や喉頭がんによる喉頭の摘出による発話障害とその補償機器について理解することができる。 10. 喉頭がんによる発話障害と補償機器 (1) 11. 音の風景と癒しの音環境 (1) 人の心理的癒しと音場の創成について理解することができる。 卒業試験
合計 15 週	
教科書	書名: 授業プリントを配布 著者: 発行所:
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	毎回の授業で、小テストを行う。中間試験40%、期末試験40%、小テストとレポート20%で100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
オフィスアワー	授業日の 16:00~17:00

教科目名: 英語表現法

( English Communication Skills )

担当教員: 畑 江 美 佳

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( F ) ( ) ( )

**授業の概要**  
 海外の文化や日常生活を短いインタビューシーンに収めた映像を観ながら、TOEIC のリスニングにも使われる豪・英・米の英語を聴き取る力と自ら進んで英語で発信する力をつけます。授業は前半が一斉授業形式、後半が個別 e ラーニング形式で、覚えた単語・表現を使い、自分の言葉で「書く」「話す」のコミュニケーション力を養います。課題の英作文レポートもメールで教員とやり取りをし添削を受けます。  
 関連科目: 語学演習、工業英語

	授業内容 (W)	達成目標
前期中間		
前期末		
後期中間	Unit 1 Hello, Sydney, Australia! (2) Unit 2 Street Life (1) Unit 3 Public Transport-Commuting (1) Unit 4 University Life-The University of Sydney (1) Unit 5 Australian Home (1) Unit 6 Supermarket-Coles (1)  後期中間試験 (1)	インタビュー・会話などオーセンティックで易しい英語が聴ける。海外の文化に興味を持ち、広い視野と教養を身につけ、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができる。葉書の書き方、道の尋ね方、旅行について、学校生活についての手紙、e-mail、店に関するレポート、などを読み書きし、実際に英語で発信する力がつく。
後期末	Unit 7 Daily Life (1) Unit 8 Taronga Zoo-Australian Animals (1) Unit 9 Leisure Time at the Sea (1) Unit 10 Education Programmes in Taronga Zoo (1) Unit 11 Leisure Time at the Park (1) Unit 12 Australian Family (2)  学年末試験 (0)	海外と日本の文化・習慣の違いを学び、グローバルに物事を捉え、積極的に英語でコミュニケーションを図ることができる。国や地域の調査、e-mail、広告チラシ、問い合わせの手紙、電話の会話、などの表現方法を学び、実際に英語で発信する力がつく。
合計 15 週		

教科書	書名: 見たい!聞きたい! オーストラリア	著者: 佐藤久美子 Steve Lia 松本博文	発行所: 朝日出版社
参考書	書名: 毎授業イヤホンを持参すること 英和・和英辞典	著者:	発行所:
評価方法と基準	後期中間レポート (Unit1~6) 25 %、学年末レポート (Unit7~12) 25 %、e ラーニングの活用状況 30 %、授業への取り組み 20 %として総合的に評価する。		
オフィスアワー	授業日の放課後		

教科目名: 電子デバイス

( Electronic Device )

担当教員: 内山 潔

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( D ) ( ) ( )

授業の概要	
電子という質量が小さいものを電氣的に制御し信号処理、増幅に使用するという電子デバイスは我々の生活のいたるところで活躍している。本講義では半導体物性から電子デバイスの構造・動作原理を定性的に解説する。また、その作製法についても解説する。	
関連科目: 電子回路、電気電子材料	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	1. 電子デバイスの進歩 電子デバイスの歴史と開発の流れ (2) 2. Si 半導体集積プロセス (6) 半導体集積回路 半導体集積技術
後期 末	3. 様々な機能材料の特性を応用した機能性デバイスを定性的に理解できる。 4. デバイス作製に重要な役割を果たす真空薄膜形成技術を理解できる。
	3. 様々な機能材料の特性を応用した機能性デバイスを定性的に理解できる。 4. デバイス作製に重要な役割を果たす真空薄膜形成技術を理解できる。
	(学年末試験) (0)
合計 15 週	
教科書	書名: 学びやすい集積回路工学 著者: 黒木 幸令 発行所: 昭晃堂
参考書	書名: 著者: 発行所:
評価方法と基準	小テスト、提出物、受講態度等 30 %、学年末試験 70 %を総合的に評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。各試験は、各達成目標に対応した内容の問題を出題する。試験問題のレベルは、各達成目標が確認できる程度とする。
オフィスアワー	随時

授業の概要	
エネルギー資源の現状の把握から将来の問題点を提示し、資源利用の効果的な方法を探る。さらに、今後の変換方法にどのようなものが考えられるか考察する。また、現状のエネルギーと環境問題との関わりについても説明する。	
関連科目: 熱力学、物理学	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	1. エネルギー資源利用の変遷および現在の利用状況 (2) 2. 資源の種類と埋蔵量 (2) 3. 有効・無効エネルギー (1) 4. 熱エネルギーの変換 (2)
後期 末	5. 各種燃料の燃焼に必要な条件と発熱量 (2) 6. 核分裂におけるエネルギー発生メカニズムと原子力発電 (2) 7. 伝熱工学の基礎と熱交換器 (2) 8. 社会と環境問題 (2) (後期末試験) (0)
合計 15 週	
教科書	書名: プリント 著者: 発行所:
参考書	書名: エネルギー変換工学 著者: 西川兼康・長谷川修 発行所: 理工学社
評価方法と基準	授業中の演習 30%、章末についている演習問題のレポート 20%、期末試験 50%として評価する。60点以上を合格とする。
オフィスアワー	講義実施日の 16:00~17:00

教科目名: 地理学

( Geography )

担当教員: 澤 祥

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 共通選択 1 単位 後期 週 ( 前期 ) ( 後期 2 ) 時間 ( 合計 30 時間 )

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: ( C ) ( ) ( )

授業の概要	
<p>地理学とは、自然と人間の関係を人文自然科学の両面から探求する分野である。庄内地方の自然環境を活断層と地震から学び、防災知識を身につけながら、人間と自然の共存の方法が考えられるようになることを目指す。自然の営みが身近な風景の中に表現されていることに気づき、身の回りの自然に絶えず目を配るようにして欲しい。</p>	
<p>関連科目: 地理、環境地理学特論</p>	
授業内容 (W)	達成目標
前期 中間	
前期 末	
後期 中間	<p>1. 地震の正体 1.1 地震発生メカニズム (2) 1.2 プレートテクトニクス理論 (2) 1.3 プレート間地震とプレート内地震 (1) 2. 地震の基礎知識 2.1 断層運動・弾性反発説 (1) 2.2 マグニチュードと震度 (1)</p> <p>(1) 地震は地殻上部での断層運動であることを理解し、そのメカニズムをプレートテクトニクスとの関連で説明できる。 (2) 断層運動を地震学の基礎的知識をもとに説明できる。マグニチュードと震度の違いを理解し、地震学の基礎的知識を説明できる。</p>
後期 末	<p>3. 活断層 3.1 活断層の定義・性質・認定 (2) 3.2 活断層がおこす内陸直下型地震 (2) 4. 庄内の地震環境 4.1 庄内平野東縁断層帯と庄内地震 (1) 4.2 日本海の地震空白域と新潟地震 (1) 4.3 山形県の地震危険度 (1) 5. 災害との共存共生 (1) 学年末試験 (0)</p> <p>(1) 活断層の意味を自然地理学的な視点で理解できる。(2) 自分たちが生活する庄内地域・山形県の活断層の分布を知り、その性質を説明できる。日本海の地震空白域で発生する地震の危険性を理解できる。(3) 地震国日本で生活する限り地震から逃れることは不可能であることを理解し、自らできる防災手段を考えられる。</p>
合計 15 週	
教科書	<p>書名: 活断層大地震に備える 著者: 鈴木康弘 発行所: 筑摩書房</p>
参考書	<p>書名: 地震予知の最新科学 著者: 佃為成 発行所: ソフトバンククリエイティブ その他は適宜授業中に紹介する</p>
評価方法と基準	<p>提出物 (30%) および学年末試験 (70%) により評価する。</p>
オフィスアワー	<p>授業実施日の 12:30~13:00、または 16:00~17:00</p>